

株式投資 パーフェクトマニュアル

個人投資家として生き残るための
92のルールブック

紫垣英昭 / 著

上位5%の

“**勝つトレーダー**”
になる

初心者でも失敗しない相場テクニックと
プロ投資家がおすべき信念が
この一冊で学べる

オープンエデュケーション株式会社

■はじめに

【推奨環境】

このレポート上に書かれているURLはクリックできます。できない場合は最新のAdobeReaderをダウンロードしてください。(無料)

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

【著作権について】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。下記の点にご注意戴きご利用下さい。

このレポートの著作権は作成者に属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

このレポートを、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

このレポートを利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

当講座は、株式投資初心者向けに、インターネットでの株式取引をおこなうにあたり、正しい知識を身に付け、より安定した収益を長期的に得ることを目的に、テキストを作成いたしました。

また、より実戦で使えるように、株式の理論だけではなく、実際の株価を例に上げながら、「中・長期投資」や、「短期売買・デイトレード」でも、威力を発揮できるように、初心の方でも分かりやすく解説しています。

しかし、ただ読んだだけで儲けられるほど株式投資の世界は甘くはありません。

読んだだけでは、単なる知識でしかないのです。
読んで得た知識を、即、実戦に使ってみてください。

実践しながら、失敗すればその原因を考え、

そしてそこから得られた答えを、次のトレーディングに生かす。

というサイクルを行なうことが重要です。

つまり…

- いくら儲けるのか、その目標を明確にし、
- 儲かったトレードは、「なぜ儲かったのか」という要因を考える。
- 損をしたトレードは、「なぜ、損をしたのか」という要因を考える。
- 儲かった要因を次ぎのトレードに取り入れ、
損をした要因を、次のトレードで行なわないようにする。
- これらを、毎日、トレーディング日誌に書き留める。

たった、これだけの作業を行なうだけで、収益が大きく激変するのです。

しかし、大半の個人投資家は、現実はこの作業を行なっていないのです。

行くべき目的地も決めなければ、どこに行ったらいいのかも、わかりません。
また、「なぜ、儲かったのか」、「なぜ、損をしたのか」という現状分析を行なわなければ、どこを、どう改善したらいいのかも、わかりません。

このような、状況で、世界中のプロ投資家を相手に、同じ土俵で戦っても、結果はほぼ見えてしまいます。

私は証券会社に 13 年間在籍し、現在はプロ・トレーダーという立場で、日々、株式、日経 225 先物、FX 市場と向き合って戦っています。

何度も同じ失敗を繰り返し、そのたびに膨大なトレード数を検証し、修正を加えながらどんどん進化を続けています。

私は株式投資において、自らの経過縁から、もっとも個人投資家に欠如しているのは、「正しい投資思考」のあり方だと考えています。

企業分析やチャート分析の知識はもちろん必要ですが、それよりも、いかに「計画とルール」を持って、株式投資を通じて、自分の目標を達成するかという「投資思考」を持っていただきたいと常々、訴えてきました。

そして、今回、トレーディングという厳しい現場で得た知識、失敗から得た経験をもとに、**「株式投資で成功するための思考的ロジック」**を、このテキストを通じて、みなさまにお伝えできればと思っています。

そして、今まで多くの投資体験から得た答えを、個人投資家と分かち合い、それを実践してもらうことで、みなさまに多くの利益を得ていただくことができれば、素晴らしいことだと考えています。

実は、株式投資で成功するには、情報収集能力、売買手法より、大切なことは、「目標、夢を持つ」ということ。そして、自分をよく知ること、自分を管理する能力(資金管理、心理面の管理)。これらが最も重要だと考えます。

このテキストで、正しい“投資の思考”に導くことで、みなさまの利益を安定させることが、私の最大の目的です。

紫垣 英昭

【目次】

はじめに P3

第一章 株式とは

1. 「株」とは、どういうもの？
2. 株主になれば、良いことがあるの？
3. 株式投資のデメリット
4. 株価はなぜ動くのか？
5. 需要と供給を決める要因とは？
6. 株でどのように儲けるのか？
7. 株式はどこで、取引されているのか？
8. 個人投資家の株式取引は、インターネットが主流
9. 株式投資は、計画性をもって行なうことが重要
10. 情報の収集はマメに行なう。

第一章の「まとめ」

第二章 証券会社に口座を開設する

1. 取引する証券会社を選ぶ
2. 手数料を比較する
3. 注文機能で選ぶ
4. 自分に合った「発注システム」を選ぶ
5. 株式を買うには、いくら必要??
6. 株式投資で儲けが出れば、「税金」がかかる

第二章の「まとめ」

第三章 株価の変動要因

1. 株価の変動要因とは？
2. 景気と株価の関係
3. 会社の業績と株価の関係
4. 金利と株価の関係
5. 為替と株価の関係
6. ヘッジファンドと株価の関係
7. ニュースと株価の関係
8. 海外の株式市場と株価の関係

第三章の「まとめ」

第四章 自分の投資スタイルを決める

1. まずは、投資をする目的を明確にする
2. 投資する金額を決める
3. 長期投資か、短期売買か
4. 投資資金の予算別取引方法
5. ジックリと、値上がりを待つスタイル
6. 短期間で、積極的な売買をするスタイル
7. リスク・コントロールの重要性

第四章の「まとめ」

第五章 銘柄を選ぶ

1. どうやって、「銘柄」を選ぶのか？
2. まず、会社四季報を買う
3. 会社を見る上で、重要な「財務三表」
4. 会社の安全度をチェックする
5. 会社の業績をチェックする
6. EPS(一株利益)をチェックする
7. PER(株価|収益率)をチェックする
8. PBR(株価純資産倍率)をチェックする
9. ROE(株主資本利益率)をチェックする

第五章の「まとめ」

第六章 テクニカル分析について

1. テクニカル分析について
2. チャートの基本を知る
3. ローソク足とは？
4. 株価のトレンドの定義とは？
5. トレンドラインの使い方
6. 移動平均線とは？
7. 移動平均線の使い方
8. 出来高分析
9. 天井圏のパターン
10. 底値圏のパターン

第六章の「まとめ」

第七章 売買のタイミングを考える

1. 株式を買うタイミングを考える
2. 「順バリ」と「逆バリ」の考え方
3. 日経平均株価は、株式全体のバロメーター⇒急落、急騰時、9割り
4. 秋の急落は、「買い」、最高の売り場は、GW 前
6. 他の指標を参考に、買う時期を判断する

第七章の「まとめ」

第八章 実際に売買を試みる

1. 海外の株式指数を確認する。
2. 調べた銘柄の株価動向をチェックする
3. 注文方法
4. 発注画面(楽天証券)
5. 約定した銘柄を確認する
6. 約定した銘柄を決済する
7. 受け渡し代金を確認する
8. 利益になったか、損失になったかを確認する

第八章の「まとめ」

第九章 中長期の投資戦略

1. 中長期投資の考え方
2. 1年間のスケジュールと、アノマリー
3. 銘柄選びのポイント
4. P/L の比率
5. 日経平均株価チャートのトレンドを確認する。
6. 移動平均カイリ率 マイナス 5~10%前後から切り返しが、最初の買い
7. 高値ブレイクで追加買いのチャンス
8. 売りのタイミングを見極める指標
9. 思惑が外れた場合、損切りをして、投資資金を確保する
10. ヘッジファンドを味方につける投資手法

第九章の「まとめ」

第十章 マネーマネジメント（資金管理）

1. マネーマネジメントとは
2. 行動ファイナンスと、投資の心理学
3. 投資資金と、リスク率の決定
4. エクセルを使い、資産の増減を、グラフで確認する

第十章の「まとめ」

第十一章 「損切り」を確実にしない、資金を守る

1. 損切りの良し悪しが、パフォーマンスを左右する
2. 負け上手になるために、どうすれば良いのか？
3. 塩漬け株は、即、現金化する
4. 損失を受け入れること
5. 損失を受け入れやすくするための方法

第十一章の「まとめ」

第十二章 投資プラン・トレード日誌

1. 投資プランを作るための材料
2. 目標を明確にする
3. 自分の現状を認識する
4. 投資収益の目安を考える。
5. 投資プランを作成する
6. トレード日誌をつける（売買記録をつける）

第十二章の「まとめ」

第十三章 メンタル・マネジメントについて

1. 成功に必要な「自己規律」について
2. 長期投資は安全か？
3. 一貫性
4. 損失を容認する
5. ベストなタイミングが来るまで、辛抱強く待つ

第十三章の「まとめ」

第十四章 株式用語集

第一章 株式とは

1. 「株」とはどのようなもの？

そもそも「株」とは、どのようなものでしょうか？

取引所で売買されている会社は、すべて「株式会社」です。

株式会社は、資金の出し手から出資してもらい、事業活動を行ないます。

株式会社に出資した個人、法人を「株主」といいます。

会社は、出資をしてもらった見返りに、事業利益を株主に「配当」という形で株主に分配します。

その出資金の証明にあたるものが「株券」です。

一般的に「株」といわれているものは、この「株券」にあたります。

私たちが「株式投資」を行なうことは、株主になることと“イコール”になります。

2. 株主になれば、良いことがあるの？

株主になれば、下記の権利を保有することになります。

●株主総会で投票できる権利(議決権)

株主総会に出席し、役員を選出や決算案の審議に参加して投票できる権利です。

●利益配当請求権

保有株数に応じて配当金を受け取る権利です。

しかし、必ず配当金が貰えるわけではなく、業績が悪化した場合など、配当金が得られないこともあります。

● 残余財産分配請求権

企業を清算したときに、残った資産から株数に応じて分配金を受け取れる権利です。

これらの権利は、保管振替制度を利用することで、実質株主として、株主名簿に登録されます。証券会社に口座開設のときは、保管振替制度の届出をしておいてください。

また、株主は、大切なお金を、「投資」という形で、会社に出資します。

したがって、株主は、投資したお金が増えることを望んでいるのです。

つまり、株価が上昇し、配当が増えることで、株主が投資した金額が増えることを望んでいるのです。

以下のような項目がそれにあたります。

売却益 (キャピタルゲイン)	一般的に、会社の業績が向上することで、株価も上昇します。株を買ったときより高く売れば、差額×株数 が売却益となります。上手に投資すれば、預貯金とは比べ物にならない額の利益を得ることができます。ただし、株価が下がれば損失となります。
配当益 (インカムゲイン)	年に1~2回、株主に還元される利益金のことです。たとえば、1株あたり10円の配当であれば、1000株保有していれば1万円の配当金が貰えます。配当金は企業から送付された配当金領収書を郵便局に持っていくと貰えます。
株主優待	株主優待とは企業が株主に自社製品や割引優待券をプレゼントすることです。レストランチェーンならお食事券、映画会社なら映画のチケット等が貰えます。また、企業業務に関連のないものの場合もあり、お米が貰える企業、ギフトカタログから選べる企業もあります。
株式分割	1株が100万円以上など高額な場合に、広く投資家から資金を集める為、企業が株式分割をすることがあります。株式分割とは1株を2株や4株などに分割し、株価を2分の1や4分の1にして投資家が買いやすい株価することです。たとえば、100万円の株を1株保有している時に1対2の株式分割がおこなわれると、50万円の株を2株持つこととなります。配当金は保有株数に応じて配分されるので、次回からは2株分の配当金を貰うことができます。

株式投資は、投資した会社の株価の値上がりを期待するというものの他に、

配当金を受け取る（配当がない会社も多く存在します）ことや、株主優待制度という株主だけが受けられるサービス（優待制度がない会社もある）があります。投資する場合、会社四季報や、インターネットの情報サイトなどで、情報収集をして、チェックしてみてください。

3. 株式投資のデメリット

株主は、会社側にお金を貸しているわけではありません。出資金が減少するリスクを取って、高いリターンを得ようとしています。

したがって、投資をした会社の業績が悪化したり、国内外の経済状況が悪化したりすると、投資した会社の株価が下落します。

それによって、株主は、投資した出資金が目減りし、「損失」が発生します。

また最悪、倒産した場合、出資額の範囲内で責任を負うことになります。株主の権利として、残余財産分配権があるとお話しましたが、必ず分配があるとは限りません。

企業が倒産すると、残った資産からまず倒産手続きをしてくれる弁護士や会計士などに手続き料を支払い、次に銀行等金融機関に借入金を返済します。株主に分配されるのはその後になりますので、資産が残っていなければ分配はありません。出資金額を全て失う可能性があります。

このことを十分、承知して株式投資を行なうようにしてください。

4. 株価はなぜ動くのか？

このテキストを読んでいるあなたは、株式投資で利益を得ることを望んでいると思います。

では、なぜ株式投資で利益を得ることができるのでしょうか・・・？

会社の株式を自由に売買できるのは、取引所に上場されている株式会社のみです。
また、取引所で売買する投資家は、個人投資家だけではありません。

証券会社、銀行、生命保険会社などの金融機関、外国人投資家、ファンド会社、
年金基金などの運用機関、上場されている会社や、その他の事業会社など、
あらゆる個人、法人が、株式取引を行っているのです。

多くが運用目的で株式取引を行っていますが、株式取引を行っている、
個人、法人のことを、「市場参加者」と呼びます。

会社の業績や、経済状況が良くなってくると、株式の「売り手」より、「買い手」の方が
強くなります。この場合、株価は上昇しやすくなります。

反対に、会社の業績が悪化したり、不況になったりすると、株式の「買い手」より「売り手」の
方が強くなるため、株価は下落しやすくなります。

つまり、売り手と買い手の力関係で、価格が上下するのです。
このことを、「需給」といいます。

たとえば、野菜などの農作物が凶作で、出荷が少なくなれば、スーパーで
売っている野菜の価格は上昇します。
基本的には、この野菜のたとえと同じです。

売り物が少なく、買い手の数が多くなれば、株価は上昇することになります。
反対に、売り物が多く、買い手が少なければ、株価は下落します。
この「需要と供給のバランス」が、株価が動く要因になるのです。

5. 需要と供給を決める要因とは

では、「需要と供給のバランス」を決定付ける要因とは何でしょうか？
これは、様々な要因が絡み合います。

- ・ 会社の業績
- ・ 国際的な経済状況
- ・ ニュース
- ・ 為替、金利動向
- ・ 海外の株式動向
- ・ 国際情勢、国際紛争
- ・ 政治
- ・ 天候
- ・ 新商品、技術開発
- ・ 信用取引の売り残、買い残などの需給
- ・ ヘッジファンドなどの投機筋の動向
- ・ チャートによる分析
- ・ 噂など、市場参加者の思惑 など…

これらの要因が、複雑に絡み合って、価格が形成されています。
分かりやすい例を言うなら…

- ・ NY株式市場が急騰すれば、日本の株式市場も上昇しやすい。
- ・ 為替が急激に円高になれば、株価は下落しやすい。

というように、市場参加者の総意(コンセンサス)が、固まっているものは
分かりやすいでしょう。

毎日、株価動向を解説しているニュースを、繰り返し読むことを、強くお奨めします。
初めは分からないことばかりだと思いますが、繰り返し、毎日読むことによって、
必ず理解できるようになります。

他の投資家が面倒くさがってやらないことを、やるようにすれば、大勢の個人投資家
より、有利になれることでしょう。「継続は力なり」です。

6. 株で、どのようにして儲けるのか？

以下、ソフトバンク(9984)の株価グラフです。

2009年3月、1200円前後だった株価は、翌年1月23日に2485円の高値を付けています。

約10ヶ月で、株価は2倍に急騰しています。

ということは、投資した額が、2倍に増えているということになります。



<出所: 松井証券 ネットストックハイスピード>

ソフトバンクといえば、「ホワイトプラン」のCMでおなじみですが、CM効果や、米アップル社と提携し、「iPhone」を発売し、大ヒット商品となり、携帯電話の契約者増加につながりました。会社の経常利益を大きく伸ばし、株価も上昇したのです。

株価が上昇し始めたところを買い、そしてできるだけ高いところで売れば、株式投資で利益をえることができます。

ソフトバンクのCMや、iPhone のことは、普通に生活しているだけでも、情報として入ってくるはずでず。

ただ、見過ごすだけではなく、話題になっていることから連想して、その話題から恩恵を受ける会社を見つける、「宝探し」感覚で、株式投資に取り組んでいただきたいと 思います。

【memo】

7. 株式はどこで取引されているのか？

株式取引は、金融機関から個人投資家まで、さまざまな投資家が取引を行います。

このたくさんの投資家の注文を集め、取引を成立させるのが「証券取引所」です。

投資家の売買注文は、証券会社が仲介し、取引所に注文を送ります。

そして、売りたい人と買いたい人の価格が一致すれば、売買が成立します。

日本国内では、東京、大阪、名古屋、札幌、福岡に取引所がありますが、
実際、普通株式の取引全体の90%は東京証券取引所で売買がされています。

《東京証券取引所》



よく、ニュースに出てきますので、ご存知の方も多いでしょう。

最近、個人投資家に人気のある、日経 225 先物取引を扱っているのが、大阪証券取引所です。

「日経」と冠が付くので、東京証券取引所で売買されていると思っている方も多いかも知れませんが、先物取引、オプション取引など、デリバティブ取引は、大阪証券取引所で売買されています。

《大阪証券取引所》



昔、証券取引所には、「場立ち」といわれている人が、手でサインを示しながら、注文を受け、取引を成立させていました。

しかし現在では、コンピューター化が進み、「場立ち」の制度は廃止となっています。

インターネット証券が主流になるまでは、投資家が証券会社の営業マンに注文を発注し、営業マンが証券会社内にある端末から、証券取引所へ発注します。私も営業マンをやっていたときは、顧客の注文を電話、店頭で受け、端末に注文内容を打ち込んでいました。

インターネット取引が主流になった今でも、手数料は割高ですが、営業マンが注文を受ける形態は残っています。

個人がインターネットを使って株式取引ができるようになった現在では、リアルタイムで、営業マンを介さずに株式取引ができるようになりました。

そして営業マンを介さないことで、従来の10分の1程度まで、手数料が安くなり、今では、インターネット取引が主流となっています。

名古屋、札幌、福岡などの証券取引所の売買シェアは、1%程度に留まっており、株式取引のほとんどが、東京、大阪の証券取引所で売買されているのです。

8. 個人投資家の株式取引は、インターネットが主流

先ほども述べたように、今まで、個人投資家が株式取引を行うには、口座のある証券会社の営業マンに注文内容を伝えて売買することが主流でしたが、1999年10月、政府による金融の規制緩和により、株式売買手数料が自由化され、本格的にインターネットでの株式取引がはじまりました。

金融の規制緩和と、インターネットの普及に伴い、インターネットで取引ができる証券会社がどんどん設立されました。

インターネット取引での株式取引は、従来より圧倒的な手数料の安さや、情報量の多さが個人投資家のメリットとなり、今では、インターネットを使った株式取引が主流になっています。

ニュースや、株価の板情報、株価のチャートなど、今までは、個人投資家がなかなか得られなかった、たくさんの情報が、コンピューター上で見られるようになり、その場で注文を発注することができるようになりました。

インターネットに抵抗のある方は、ぜひこの機会に、インターネットでの株式取引を行なっていただきたいと思います。

9. 株式投資は、計画性をもって行なうことが重要

個人投資家が株式投資を始めようとする“きっかけ”は様々ですが、その多くは・・・

「今の預金金利が少ないので、上手く運用したい」

「給料が少ないので、副収入が欲しい」

「老後のために資金を増やしたい」

「子供の教育費に資金が必要なため、今の預金を運用したい」

「マイホームの頭金作りに、資金を運用したい」

というのが、ほとんどではないかと思えます。

たまに、「経済の勉強のために株式投資を始めた」という方もいらっしゃいますが、本音は、「上手くやってお金を増やしたい」ということだと思えます。

つまり、株式投資を始めるきっかけは、いろいろありますが、

“真の目的”は、「お金を儲けたい」というところに集約されます。

投資を始める人で、「損をしても構わない」という人は、誰もいないはずですが・・・

ですが・・・

大切な資金を投じて、お金を増やそうとしているのに、

ほとんどの個人投資家は、「儲ける」ということだけにフォーカスし「どうやって儲けるか」という計画性を持たず、資金を投入しているようです。何かビジネスを始めようとするとき、必ず、事業計画書というものを作成します。

つまり、どのような事業で、どのように営業をして、収益を上げていくかという

計画書を作ります。

実は、投資もまったく同じで、視点を変えれば、投資も立派な「ビジネス」なのです。

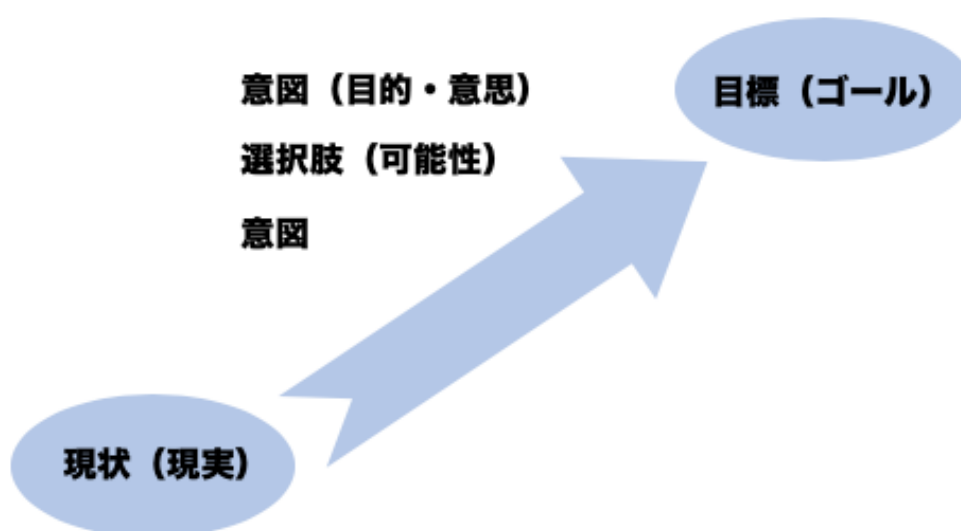
ですが、投資の場合、資金があれば、すぐに始めることができるので、多くの投資家は、「ビジネス」という認識を持たず、参加しているのです。

したがって、株式投資は、立派な “ビジネスである” という認識をぜひ、もってください。

では、どのようにして、計画をたてるかということについて、お話いたします。

- ①株式投資をする目的を決める⇒ マイホーム購入のため、老後の資金のためなど。
- ②いつまでに、いくらにしたいのか⇒ ゴール設定を明確にする
- ③現状分析⇒ 株式投資に関する知識、投資資金額、投資スタンス(長期 or 短期)
- ④項目②のゴールに到達するための手段
⇒ スキルアップ、情報収集、専門家の手を借りるなど。

これらを、自分の投資計画に落とし込み、定期的にチェックする必要があります。



そして、ゴールから逸れるようなら、修正し、改善し、そして行動に移すというサイクルを作ることが、とても大切なのです。

では、資金がどのように増加していくのか、そのイメージを掴むために、下記の表をご覧ください。

元金 100 万円、年利 20.0%で複利運用した場合、以下のように資金が増加します。

経過年数	全資産額	期末元本	100.0%	
			株式	
			20.00%	年率 %)
		残高推移	残高推移	運用収益額
1年後	¥1,200,000	¥1,000,000	¥1,200,000	¥200,000
2年後	¥1,440,000	¥1,000,000	¥1,440,000	¥440,000
3年後	¥1,728,000	¥1,000,000	¥1,728,000	¥728,000
4年後	¥2,073,600	¥1,000,000	¥2,073,600	¥1,073,600
5年後	¥2,488,320	¥1,000,000	¥2,488,320	¥1,488,320
6年後	¥2,985,984	¥1,000,000	¥2,985,984	¥1,985,984
7年後	¥3,583,181	¥1,000,000	¥3,583,181	¥2,583,181
8年後	¥4,299,817	¥1,000,000	¥4,299,817	¥3,299,817
9年後	¥5,159,780	¥1,000,000	¥5,159,780	¥4,159,780
10年後	¥6,191,736	¥1,000,000	¥6,191,736	¥5,191,736
11年後	¥7,430,083	¥1,000,000	¥7,430,083	¥6,430,083
12年後	¥8,916,100	¥1,000,000	¥8,916,100	¥7,916,100
13年後	¥10,699,320	¥1,000,000	¥10,699,320	¥9,699,320
14年後	¥12,839,184	¥1,000,000	¥12,839,184	¥11,839,184
15年後	¥15,407,021	¥1,000,000	¥15,407,021	¥14,407,021
16年後	¥18,488,425	¥1,000,000	¥18,488,425	¥17,488,425
17年後	¥22,186,110	¥1,000,000	¥22,186,110	¥21,186,110
18年後	¥26,623,332	¥1,000,000	¥26,623,332	¥25,623,332
19年後	¥31,947,998	¥1,000,000	¥31,947,998	¥30,947,998
20年後	¥38,337,598	¥1,000,000	¥38,337,598	¥37,337,598

注記: 複利運用とは、元本と得た利子を合わせて追加投資する運用のこと。

100万円に対し、1万円の利子を得た場合、次に101万円を投資を行なうこと。

実際の株式投資では、純粋な複利運用はできませんが、運用収益を再投資することで、

複利運用に近い効果を得ることが可能です。

上記の場合、年 20.0%で運用できれば、100 万円が、10年後には600万円を超える計算になります。

つまり、10年で資金が6倍になるということです。

これに、毎月、一定額を加算することができれば、資金の増加速度は加速します。

ただ、株式投資の場合、損失も必ず発生しますので、そのこともきちんと計算しておくことが大切です。

仮に、あなたが100万円を株式投資に振り向け、10年後に 600 万円を得たいなら、年 20%で運用することが求められます。

株式投資で、年 20%の収益を得ることは、決して簡単ではありませんが、資金をきちんと管理し、損切りを確実にこなうことができれば、決して不可能は数字ではありません。

現に、私は、1年間で 70%の運用収益を上げています。

なので、あなたにもできないはずはないのです。

ですが、まったく無計画な運用をしているなら、プラスになるどころか、マイナス運用になるリスクが高くなります。

株式投資で運用すると決めたならば、このテキストに沿って、計画的に運用していただきたいと思います。

10. 情報の収集はマメに行なう。

昔は、株式投資の情報は、新聞、雑誌で得ることが主でしたが、
今では、インターネットを使って、さまざまな情報を入手することができます。

ただ、あまりに情報が多すぎて、どの情報が正しいのか迷うことさえあります。
ですので、株式投資を始めた当初は、できるだけ情報を絞って収集するようにしてください。

以下、私がオススメする、「情報収集法」を教えます。

- 日経新聞を毎日、読み込む。
- ヤフーファイナンスの「トップ」⇒「ヘッドライン」を読み込む。
 - ・ヤフーファイナンス: <http://finance.yahoo.co.jp>
- 自分とフィーリングの合う情報サイトで情報収集する。
(ご参考までに、私が使っているサイト一覧です。)
 - ・トレーダーズ・ウェブ: <http://www.traders.co.jp/index.asp>
 - ・ゴールデンチャート社: <http://www.opticast.co.jp/> (チャートを利用)
 - ・ヤフーファイナンス: <http://finance.yahoo.co.jp>

私は普段、上記の3つのサイトしか見ません。
以前は、たくさんのサイトから情報を得ていましたが、基本的な解説は、
どれもほぼ同じなので、3つで十分だと思います。

その時々、相場の状況について、詳しく解説しているので、
相場がどう動けば、どのような解説がされるかをきちんと理解してください。

重要なのは、その情報が正しいかどうかではなく、一般大衆が、どう考えるかです。
一般大衆の考えは、往々にして間違えることが多いのが、相場の世界です。

上記のサイトで解説されていることをすべて正しいとは限りません。
しかし、一般大衆の総意(コンセンサス)であることに違いありません。

その逆をいくことが、株式投資では求められます。
時間をかけて、記事を読み込み、感覚を磨いていくようにしてください。

《第一章のまとめ》

1. 「株」とは、どういうもの？

株式投資とは、会社に出資することを意味し、会社の所有者(株主)になることです。
株主は事業利益として「配当」という形で受け取ることができます。
一般的に「株」といわれているものは、この「株券」にあたります。

2. 株主になれば、良いことがあるの？

株式投資では、売買益、配当、株主優待、株式分割などの利益を受けることができます。

3. 株式投資のデメリット

株式投資では、株価の値下がりで損失を被ることがあり、投資している会社が倒産すれば
出資した大半のお金を失うこととなります。

4. 株価はなぜ動くのか？

証券会社、銀行、生命保険会社などの金融機関、外国人投資家、ファンド会社、
年金基金などの運用機関、上場されている会社や、その他の事業会社など、
あらゆる個人、法人が、株式取引を行っており、売買に参加している投資家の
「需給バランス」が株価を動かす要因になります。

5. 需要と供給を決める要因とは

株価は、会社の業績、経済情勢、金利、為替など様々な要因が絡み合って動きます。

6. 株で、どのようにして儲けるのか？

買った値段より、株価が上昇することで、売買益を得ることができます。
株式投資は「宝探し」です。身の回りのニュースなどに敏感になりましょう。

7. 株式はどこで取引されているのか？

株式は、証券取引所で売買されています。日本国内では、東京、大阪、名古屋、札幌、福岡

に取引所がありますが、普通株式の取引全体の 90%は東京証券取引所で売買がされています。

8. 個人投資家の株式取引は、インターネットが主流

インターネットでの株式取引は、手数料、情報量で圧倒的に有利です。

9. 株式投資は、計画性をもって行なうことが重要

株式投資を行なう場合、必ず、計画的に行なうようにしてください。

行き当たりばったりの投資では、上手く資金を運用することはできません。

「いつまでに、いくら儲けるか」という目標を決めるようにしてください。

10. 情報の収集はマメに行なう。

情報収集は新聞、雑誌、インターネットのウェブサイトを使って行ないます。

当初、日経新聞のほか、トレーダーズ・ウェブ: <http://www.traders.co.jp/index.asp>

ゴールデンチャート社: <http://www.opticast.co.jp/> (チャートを利用)

ヤフーファイナンス: <http://finance.yahoo.co.jp> で、十分でしょう。

【memo】

第二章 証券会社に口座を開設する

1. 取引する証券会社を選ぶ

インターネットで株式投資を始める時に最初に悩むのが証券会社選びです。インターネット証券会社の最大の特長は、店舗型の証券会社よりも、圧倒的に売買手数料が安いことです。

現在では手数料形態も多様化しており、「定額制」や、デイトレードの場合、片道の手数料が「無料」という証券会社もあります。

また、同じ会社で、「株式」、「FX」、「日経 225 先物」や、外国株式も取引可能な証券会社もあります。

発注システム、チャートシステム、その他サービス、サポートの充実度、自分の使っているパソコンにシステムが対応しているかなど様々な条件から自分に合った証券会社を選んでください。

各証券会社が提供するサービスや手数料は、追加や変更が常に行なわれています。比較サイトを利用すると、最新の情報が比較できて大変便利です。

価格.com (<http://kakaku.com/stock/>)で、いろんな条件で、調べることができますので、ご覧になってみてください。

The screenshot shows the Kakaku.com website interface. At the top, there's a navigation bar with the site logo and '投資・資産運用' (Investment/Asset Management). Below that, a main heading reads '証券会社(ネット証券)比較' (Comparison of Securities Companies (Online Securities)). The page is divided into several sections:

- 証券会社 関連特集** (Securities Company Related Special Features): Includes '株式投資 初心者ナビ' (Stock Investment Beginner's Guide) and 'NISA比較' (NISA Comparison).
- ピックアップ NISA口座** (Pickup NISA Account): Promotes 'SBI証券' (SBI Securities) and 'カブドットコム証券' (Kabuto.com Securities).
- 証券会社(ネット証券)を手数料で比較** (Compare Securities Companies (Online Securities) by Fees): A section for comparing fees, with a filter for '取引金額' (Transaction Amount) ranging from 20万円 to 300万円.
- ピックアップ** (Pickup): A large red banner for '四三オンライン証券' (Shisan Online Securities) offering a 5,000 yen cashback.
- トピックス** (Topics): A section for 'やさしいチャート教室' (Easy Chart Classroom).
- 投資・資産運用 関連特集** (Investment/Asset Management Related Special Features): A section for 'インベスター-Zで学ぶ超高齢化時代の投資術' (Investment Techniques for the Super-Aged Society Learned from Investor-Z).

ちなみに、私が使っている証券会社を参考までにお伝えしておきます。

■ **松井証券** (<http://www.matsui.co.jp/>)

ネット証券のパイオニアです。

手数料は、現在では若干、高めになってしまいましたが、この会社のサポートは、とても親切で教育されています。

また、発注画面の操作性も良く、初心者にはやさしい証券会社です。

■ **楽天証券** (<https://www.rakuten-sec.co.jp/>)

取引ツールの「マーケット・スピード」は、個人投資家のユーザー数でトップクラス。

発注画面の操作性に優れています。

また、手数料面でも、全体の5位前後と、手数料も安く設定されています。

短期トレーダーには、使いやすいと思います。

■ **SBI証券** (<https://www.sbisec.co.jp/ETGate>)

ネット証券最大手で、商品ラインアップが充実。

発注ツールの操作性は、個人的に好みではありません。

保険商品もあり、1つの口座でさまざまなサービスが受けられるようです。

手数料の安さは上位であり、短期トレーダーが良く使っているようです。

■ **GMOクリック証券** (<https://www.click-sec.com/>)

ネット証券としては、新興勢力。

手数料の安さと、FX取引を売りに、口座数を伸ばしてます。

手数料の安さは、業界で上位。

株式とFXの両方を取引するなら、オススメ。

ただ、発注、チャート画面の操作性に、やや難あり。

上記は、あくまで私の主観ですので、いろんな証券会社に口座だけでも作ってみて、実際にご自身で確かめてみてください。

ご自身の好みを優先してください。

2. 手数料を比較する

先ほどご紹介しました、価格.com (<http://kakaku.com/stock/>)では、投資資金の額で、手数料の安い証券会社を選ぶことができます。

① まず、価格.com (<http://kakaku.com/stock/>)に、アクセスします。

② 以下のような、画面が出てきますので、投資金額に見合ったところをクリックしてみてください。



③ 仮に、「100万円」での場合、以下のように手数料の安い順に出てきます。

証券会社検索 [並び順:取引手数料-約定100万円]		1約定あたり手数料(成行の場合)				価格.com 限定特典	
証券会社名	詳細	約定20万円	約定50万円	約定100万円	約定300万円	証券会社から?	価格.comから?
ライブスター証券	詳細	104円	194円	367円	648円	3,000円 [口座開設]	1,500円 現金プレゼント
GMOクリック証券 4 人気	詳細	105円	260円	470円	900円	4,000円分 [取引]	1,500円 現金プレゼント
むさし証券	詳細	237円	237円	475円	475円	-	-
SB証券 1 人気	詳細	199円	293円	525円	994円	4,000円 [入金]	1,500円 現金プレゼント
安藤証券	詳細	108円	324円	540円	972円	-	-
岡三オンライン証券 5 人気	詳細	216円	378円	648円	1,620円	5,000円 [取引]	1,500円 現金プレゼント
楽天証券	詳細	199円	368円	657円	1,244円	500ポイント [発信買付]	-
内藤証券	詳細	411円	411円	740円	1,388円	-	-
SMBG日興証券	詳細	194円	432円	864円	2,160円	-	-

手数料が安いという理由だけで、取引を開始するのは、お勧めできません。商品内容や、注文執行条件など、比較するようにしてください。

3. 注文機能で選ぶ

価格.com (<http://kakaku.com/stock/>)では、注文機能で選ぶことも可能です。

①まず、株式投資 初心者ナビをクリックすると、右側に以下のような、画面が出てきますので、例えば、「逆指値」を選択してみます。



②すると、「逆指値」可能な証券会社が、○×で表示されます。

証券会社検索 [並び順:注文方法→逆指値] ☑ 絞り込み条件を設定

取引手数料	信用条件	取扱商品	注文方法	チャネル	情報サービス	サポート	IPO株	価格.com 限定特典	
証券会社名	詳細	引け指値	不出来 引け成行	逆指値	指値+ 逆指値 (両指値)	反対売買 (オマーン)	乗換注文 (リレー)	証券会社から?	価格.comから?
安藤証券	詳細	○	○	○	○	○	○	-	-
エイチ・エス証券	詳細	×	○	○	×	○	○	-	-
SMBG日興証券	詳細	○	○	○	×	×	×	-	-
SEI証券	1人気 詳細	○	○	○	×	×	×	4,000円 [入金]	1,500円 現金プレゼント
岡三オンライン証券	5人気 詳細	○	○	○	○	○	×	5,000円 [取引]	1,500円 現金プレゼント
カブドットコム証券	3人気 詳細	○	○	○	○	○	○	3,000円 [投信買付]	1,500円 現金プレゼント
GMOクリック証券	4人気 詳細	○	○	○	×	×	×	4,000円分 [取引]	1,500円 現金プレゼント
松井証券	詳細	○	○	○	○	○	×	10,000円 [口座開設]	-
マネックス証券	2人気 詳細	○	○	○	○	○	○	-	1,500円 現金プレゼント

「逆指値」注文については、「第七章 実際に売買してみる」のところで、解説しますので、ここでは割愛します。

また、価格.com では、以下のように、好みの条件を絞り込む機能もあります。非常に良くできたサイトですので、最大限に活用してみてください。

条件絞り込み

取扱商品	<input type="checkbox"/> 単元未満(ミニ株等)の取扱いあり	注文方法	<input type="checkbox"/> 逆指値注文ができる	情報サービス	<input type="checkbox"/> 株価(リアル自動更新)情報が無料
	<input type="checkbox"/> 外国株式の取扱いあり	チャネル	<input type="checkbox"/> 電話で注文できる		<input type="checkbox"/> チャート(リアルタイム)情報が無料
<input type="checkbox"/> 日経225先物の取扱いあり	<input type="checkbox"/> 店頭窓口で注文できる		<input type="checkbox"/> スマートフォンに対応している	<input type="checkbox"/> 複数気配(リアル自動更新)情報が無料	
<input type="checkbox"/> FX(外為証拠金)の取扱いあり				<input type="checkbox"/> アナリストレポートが無料	

以上の条件で絞り込む
条件絞り込み解除

4. 自分に合った「発注システム」を選ぶ

手数料ができるだけ安い証券会社を選ぶのは重要です。
なぜなら、取引コストが下がれば、収益機会が増すからです。

同様に重要なのが、「自分に合った発注システム」を選ぶということです。
私も5-6社の証券会社の発注システムを使いましたが、発注しやすいものもあれば、どうしても合わないものもありました。

合わないシステムを使うと、「売り」と「買い」を間違えたり、数量を間違えたりするなどのトラブルが発生します。

一度、間違ってしまうと、取り消しが聞きません。

「今のは間違いだから、ナシにして！」ということが、一切、できないのです。
だから、取引システムの操作性は、極めて重要なことなのです。
では、どうすれば、自分に合った取引システムを見つけることができるのでしょうか。
残念ながら、それに対する明確な答えはありません。

実際、自分で何度も使ってみて、ひとつひとつ、確認するしか方法はありません。

証券会社によっては、店舗で実際に触れるところもあるようです。
なので、取引しようと思っている証券会社に電話をして、確かめてみてください。

ただし、デモンストレーションと、リアルマネーを使った取引とは、
まったく感覚が異なりますので、注意してください。

私がお薦めする方法は、5-10社同時に、口座だけでも開設して、
ひとつひとつ、実際に触ってみて確かめることです。
証券会社は、口座さえあれば、いつでも変えることが可能です。
口座開設まで、大体、1週間ほどかかりますので、A社を試して良くなかったから、
次はB社で開設するというやり方では、手間がかかりますし、相場の変動が起きたとき、
すぐにスイッチすることができません。

手間は同じですし、口座開設するだけなら、ほとんど「無料」なので、
まずは、複数社同時に、口座を開設しておくことを、強くお薦めします。

5. 株式を買うには、いくら必要??

株式購入に必要な金額は株価によって大きく異なります。

10 万円以下で買えるものもあれば、100 万円以上のものもあります。

一般的な株式購入に必要な金額は、次のように計算してください。

購入代金＝株価×取引単位＋手数料＋手数料にかかる消費税

となります。

株式最低取引単位とは・・・

株式を取引することができる最低単位の株数。株式の銘柄により異なります。

ソニーは 100 株、新日鐵は 1000 株など。1 株が最低取引単位の銘柄もあります。

取引所で売買できる最低取引単位のことを、「1 単元」と呼びます。

証券会社によっては、もっと小額で売買できる「ミニ株(通称)」、また ETF(投資信託)などの商品もあります。

取り扱い、売買方法については、証券会社によって異なる場合がありますので、証券会社に確認することをおすすめします。

6. 株式投資で儲けが出れば、「税金」がかかる

■上場株式等の譲渡益の税率

上場株式等の譲渡所得等は「申告分離課税」の対象となっており、年間の譲渡益の合計に対し 20%(所得税 15%、住民税 5%)の税率が適用されます。ただし特例として、平成 23 年 12 月 31 日までに限り、年間の譲渡益の合計に対し 10%(所得税 7%、住民税 3%)の税率が適用されます。

つまり、1月から12月までの売買益が、100万円の場合、10%が課税されますから、10万円の税金がかかることになります。

■上場株式等の譲渡損失の繰越控除

上場株式等の譲渡による損失については、その年に控除しきれない分(同年の譲渡損失から譲渡益を差し引いても残る損失)を損失が発生した翌年以降 3 年間繰越することができます。繰越した損失分は翌年以降の取引における譲渡益と相殺することが可能です。

仮に、2010年1月から12月までの取引で、50万円マイナスになった場合、2011年1月から12月で、100万円儲かったとしても、損失の繰越が認められていますので、 $100\text{万円} - 50\text{万円} = 50\text{万円}$ となり、この50万円に対する10%ということになりますので、課税金額は5万円ということになります。

■上場株式等の配当金・分配金の税率

上場株式等の配当金・分配金等は支払いを受ける際に所得税・住民税が源泉徴収されますので、基本的に確定申告は不要です。

配当金・分配金に対する源泉徴収には20%(所得税15%、住民税5%)の税率が適用されます。ただし特例として、平成23年12月31日までに受取る配当所得については10%(所得税7%、住民税3%)の税率が適用されます。

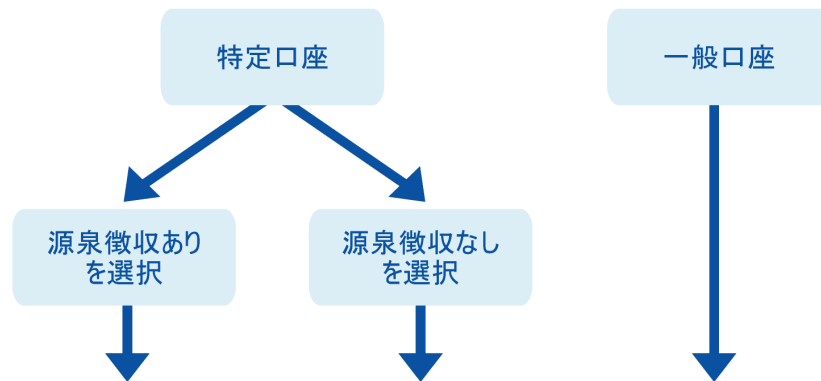
つまり、配当金に対する課税も、10%となります。

証券会社に口座開設をする場合、「特定口座」という制度があります。

特定口座とは個人投資家向けの制度で、証券会社等が上場株式等の譲渡所得等の計算を行い、上場株式等の譲渡所得等について簡易に申告・納税することができる制度です。

特定口座には2種類あり、ひとつは「源泉徴収あり」、もうひとつは「源泉徴収なし」となります。違いは、税務署へ、自分自ら申告するか、しないかです。

確定申告が面倒なら、特定口座の「源泉徴収あり」を選択したほうが、良いでしょう。



	確定申告が不要	確定申告が必要	確定申告が必要
	株の売却益にかかる税金を証券会社が源泉徴収してくれます。	証券会社が作成してくれる「年間取引報告書」をもとに自分で確定申告をします。	売買報告書を自分で集計して確定申告します。
メリット	手軽で便利。何もすることはありません。	売却益が 20 万円以下の場合、申告義務はありません。	変更手続きをしなくても以前の口座が使える。売却益が 20 万円以下なら、申告義務はありません。
デメリット	売却益が年間 20 万円以下なら、超過源泉徴収税額は還付され、デメリットはありません。	比較的簡単だが自分で確定申告をしなければならぬ。	年間取引報告書を自分で作成し、確定申告をしなくてはならないため面倒。

その他、不明な点は、所轄の税務署にお尋ねください。

私は、何度も税務署に電話をして聞いたことがあります、親切に教えてくれます。

《第二章のまとめ》

1.取引する証券会社を選ぶ

できるだけ、手数料の安い、インターネット専門の証券会社で取引しましょう。
価格.com (<http://kakaku.com/stock/>)で、いろんな条件で、調べることができますので、フルに活用してください。

2.手数料を比較する

価格.com (<http://kakaku.com/stock/>)を使って、当初、株式取引に使う金額を決め、価格.com で手数料を調べます。
手数料は取引コストとなるので、できるだけ安く抑えましょう。

3.注文機能で選ぶ

価格.com (<http://kakaku.com/stock/>)を使って、注文機能を調べます。
手数料の安い証券会社が、必ずしも、注文機能に優れているとはいえません。
できれば、両方の条件を満たすことを考えてください。

4.自分に合った「発注システム」を選ぶ

取引前に、複数の証券会社に口座を開設します。口座開設は無料ですので心配いりません。その中から、自分に合った証券会社で取引をします。
実際に使わないと分からない部分もありますので、いろいろ試してみてください。

5.株式を買うには、いくら必要??

「購入代金＝株価×取引単位＋手数料＋手数料にかかる消費税」で求めます。
手数料が安いほうが有利であることに変わりはありません。
ただ、長期投資で運用する場合は、あまり神経質になることはないでしょう。

6.株式投資で儲けが出れば、「税金」がかかる

平成23年までの特例措置で、売買益、配当に対して、10%の源泉税がかかります。

第三章 株価の変動要因

1. 株価の変動要因とは？

あなたは、証券会社の店頭にある、「株価ボード」を見たことがあるでしょうか？

おそらく、ほとんどの方は、見たことがあると思います。

株価ボードを見ていると、株価は頻繁に変動していることがわかります。

では、なぜ株価は上下に動くのでしょうか…？

株式のような有価証券でも、あるいはゴールド(金価格)のような実物資産でも、常に価格は動いています。

株価が上昇するという事は、株式を欲しがるといことを意味します。

反対に、株価が下がるということは、株式を手放す人が、たくさんいるということです。

モノの価格は、「需要と供給のバランス」で決まります。

株式も同様に、「需要と供給のバランス」で、価格が決まるのです。

農作物などでも、豊作の場合、価格は下がりますが、収穫が少ない場合、品薄となり、価格は上昇します。

株式もまったく同じ原理です。

たとえば、A社が新製品を発表し、爆発的なヒットになれば、A社の売上は急上昇することは、誰にでも分かります。

売上が急上昇ということは、会社の利益を押し上げることになりますので、A社の会社としての価値は上昇します。

よって、A社の株式を欲しがるとい人がたくさん出てきて、株価は上昇することになります。

ではなぜ、「A社の株式を欲しがるとい人」がたくさん出てくるのでしょうか。

わかりますか…??

第一章の「株主」のお話をしたことを、思い出してください。

会社の売上が急速に伸びれば、株価が上昇するだろうという思惑から、株主になりたいという人が、たくさん出てくることになります。

つまり「人気」が出るのです。

また、A社の利益を押し上げることから、株主が受け取れる「配当」が増額される可能性があります。

株価が上昇する可能性とともに、配当も増額される可能性があるわけですから、A社の株式を持っている人は、なかなか売ろうとしません。

そこに、A社の株式を欲しがる人が、多くなるわけですから、A社の株価は品薄状態となり、株価は上昇するのです。

供給よりも、圧倒的に需要が高まるので、株価は上昇することになるのです。

株価が下がる状況にあるとき、上記の場合とまったく逆の関係になります。

A社の株式を欲しがる人よりも、いらぬという人が、多い場合、株価は下がっていきます。

株式を売買する人が、100 いれば、100 通りの考え方があります。

それぞれの考えで、証券取引所に注文を出し、売り手と買い手の価格が一致したとき、株式の価格が決定するのです。

取引が成立したことを、「約定」と言います。

証券会社や、証券取引所の株価ボードは、その都度、約定した価格を表示しているのです。

株式投資を成功させようとするなら、これから、欲しがる人が増えてくるだろうというタイミングで株を買わなければなりません。

株式投資は、「宝探し」と言われる所以がここに 있습니다。

2. 景気と株価の関係

景気と株価の関係は、密接に関係しています。

景気の流れと、株価には、少しタイムラグが発生します。

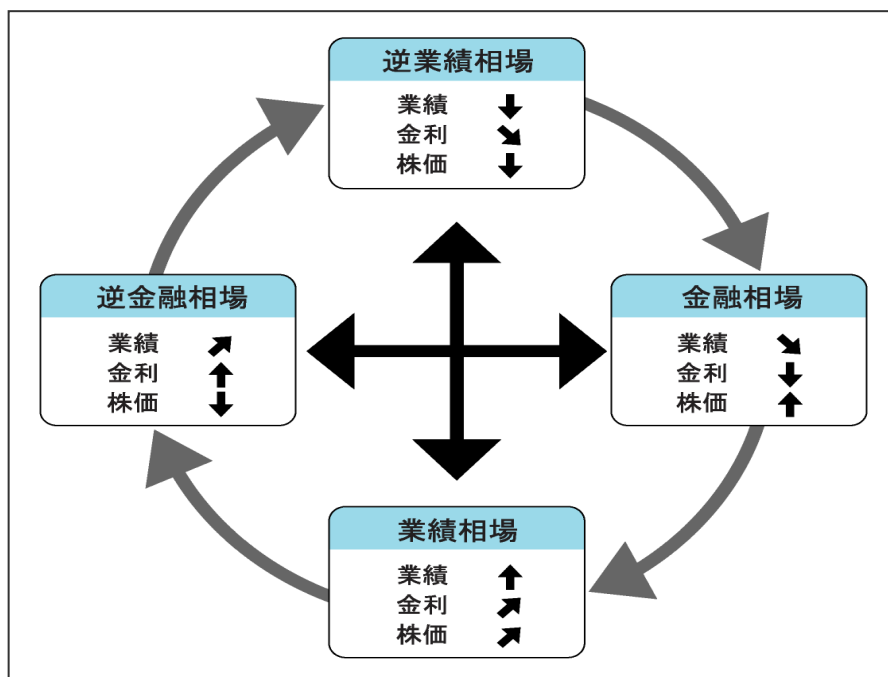
景気が良くなることを見越して、株は買われますので、株価は景気に先行します。

多くの投資家は、「景気が良くなったから株が上がる」と思っています。

間違いではありませんが、株価上昇の初期段階では、景気は回復していないことがほとんどです。

では、なぜ株価が上昇するのでしょうか？

下の図は、景気循環と相場のサイクルを示したものです。



少し、解説が難しくなるかも知れませんが、大体の仕組みだけ理解してください。

相場には、「金融相場」、「業績相場」、「逆金融相場」、「逆業績相場」の4つで構成されます。景気が落ち込み、企業の業績が傾き景気が悪くなると、政府は金利を低下させ市場に出回るお金の量を増やします。

市場に出まわったお金は、株式や不動産など、より有利な投資先を求めて流れ込みます。

それによって株価が上昇し、景気が回復してくるのです。

これを一般的に「金融相場」といいます。

最近では、「竹中ショック」と言われた 2003 年に、日銀は「金融の量的緩和」という政策を行ないました。

これは、市中の出回るお金も量を増やすことで、景気刺激を行なうことが目的です。

ダブついたお金は、2003年当時、8000 円前後だった日経平均株価は、2007年には、18000 円まで急上昇し、日本の不動産価格も上昇しました。

市中にお金がダブついていることを、「過剰流動性」と言いますが、過剰流動性による「金融相場」の次にやってくるのが、「業績相場」です。

株価の上昇により景気回復が顕著となり、企業業績が回復し、業績の上方修正が相次ぎます。すると企業価値からみて割安な株価の会社が多くなり、値上がりを期待した投資家によってその会社の株が買われ、その繰り返しで株価はどんどん上昇します。

このような投資家の期待感が作り出した相場は、やがてバブルを引き起こします。

このように相場が過熱すると、政府・中央銀行は、金利を上げ、市中に出回っているダブついたお金の量を金融調節により減少させようとしています。

すると、株式投資など、リスクを負って運用していた資金は、預金や国債などの安全資産に流れ出します。

つまり、上昇しすぎた株価は大きなリスクとなり、投資家は株を売り、より安全な債券を買おうとするからです。

資金が株式市場から安全資産にシフトすることで、株価は下落に転じ、「逆業績相場」へとつながるのです。

このときはまだ、企業業績は良い数字が出ていますが、株価の下落は心理的に企業や個人の財布を締め付けます。

そして景気は冷やされ、企業業績も下方修正へと転じるのです。

さらに企業業績は落ち込み、やがて給与やボーナス、雇用にも悪影響を及ぼし始めます。

景気が悪化すると、政府は上げすぎた金利を下げ、金融の緩和政策をとります。

しかし、一旦冷えた景気はすぐには回復せず、企業業績も株価も下落傾向を強めます。

これが「逆金融相場」といわれるものです。

このように、景気循環の局面で、株価の方向性は大きく変わっていくのです。

3. 会社の業績と株価の関係

株価の上下にもっとも影響を及ぼすのは、やはり会社の業績によります。

会社が売上を伸ばし、純利益を上昇させることで、市場での評価が高まり、買い手が多くなります。

本業における売上高、営業利益が年々、伸びている会社は、経常利益、当期純利益、一株あたり当期純利益も伸びることになるため、ほとんどのケースで株価は上昇します。

会社という「価値」が上昇すれば、その「価値」を得るため、投資家が買いに走るため、当然、株価も上がるというわけです。

会社の「価値」を見る判断材料としては、

- ・ 一株あたり当期純利益（EPS）
- ・ 株価収益率（PER）
- ・ 株価純資産倍率（PBR）
- ・ 株主資本利益率（ROE）
- ・ キャッシュフロー

このあたりを、押さえておきましょう。

使い方については、「第五章 銘柄を選ぶ」のところで解説いたします。

ここでは、会社の売上高、利益が株価を押し上げるということを理解しておいてください。

4. 金利と株価の関係

先ほど、「景気と株価の関係」のところでも触れましたが、金利と株価の関係は、基本的に、「逆相関」の関係にあります。

つまり、金利が上昇すれば、株価は下がり、金利が下がれば、株価は上昇する。
という関係が基本的な形です。

今まで、日銀および、先進国の中央銀行は景気が悪くなると、金利を引き下げ、
お金を借りやすくして、企業は設備投資などの投資に回し、個人も金利が安いときに
住宅を購入するなど、消費に回することで、景気は回復していきます。
また、株式投資も活発になるため、株価は上昇します。

そして景気が過熱してくると物価が高騰するため、インフレになります。
適度なインフレは経済上、望ましいのですが、過度のインフレは、好ましくないため
中央銀行は金利を徐々に引き上げ、お金を借りにくくし、過熱した景気を冷やす政策を
打ち出します。
すると、徐々に企業活動は、落ち着き、景気も冷やされるため、株価も上昇局面から、
下降局面に移行していきます。

リーマンショック以降、日米欧の金融当局は、低金利政策を継続させていることから、
金利と株価の相関性にゆがみが生じています。
よって今後は、こういったことも視野に入れながら、日々の経済ニュース、長期国債の金利、
そして株価を定点観測していくことが大切です。

5. 為替と株価の関係

日本は、自動車、エレクトロニクスなど、輸出産業が主力産業となっています。
したがって、過度な円高は、これら主力産業の収益にダイレクトに響いてきます。
基本的に輸出に関して、売買代金の決済は、「ドル」で行なうことが通例です。

たとえば、1ドル=100円なら、製品を1ドルで売買すれば、100円が入ってきます。
しかし、1ドル=90円だった場合、1ドルで売買すれば、90円しか入ってきません。

今までは、100円を支払って、1ドルを得られましたが、90円で1ドルを得られると
言うことは、ドルに対して、円の価値が上がったことになります。

これを、一般的には、「円高」といいます。

逆に、100 円を支払って、1ドルを得られたのが、110 円支払わないと、1ドルを得られない場合、ドルに対して、円の価値が下がったこととなります。

これを、一般的に、「円安」といいます。

日本は、成熟社会ですので、なかなか国内需要が伸びていません。

その代わりに、技術的に国際競争力が高いため、外国で日本の製品は売れます。

したがって、現段階では、日本の企業、および日本経済にとっては、「円高」より、「円安」の方がプラスに評価されます。

したがって、現在の日本の株式市場では、円高になると、株式が売られやすくなり、円安になると、買われやすくなっているのです。

行き過ぎた円高に対して、日銀は為替介入を行い、ドルを買って、円を売り、円安誘導してきた経緯があります。

一時的に効果は認められたものの、長期的には、為替介入の効果は期待できないという意見が一般的です。

7. ニュースと株価の関係

株式投資を行なう上で、ニュースなどの情報は欠かせません。
中には、新聞も、ニュースも見ないという個人投資家もいるようですが、私は、ニュースは少なくともいいので、絶対に見るべきだと思います。

相場に関するニュースは、相場の解説をしているものがメインです。
したがって、内容はどのニュースをみても、あまり変わりはありません。

ですので、日経新聞と、ヤフーファイナンス (<http://finance.yahoo.co.jp/>)
そして、米国ヤフーファイナンス (<http://finance.yahoo.com/>) の3つで

十分だと思います。

では、ニュースを見るコツをお話しします。

- ・まず、ヤフーファイナンス(<http://finance.yahoo.co.jp/>)にアクセスします。
- ・トップページの真ん中の「ヘッドライン」をクリックすると、下記の画面が出てきます。

《ヤフーファイナンス/ ヘッドライン》



The screenshot shows the 'Headlines' section of Yahoo Finance Japan. The main headline is '12日後場寄り付きの日経平均株価 = 299円02銭安の1万7398円94銭' with a 'NEW!' tag and a timestamp of 'モーニングスター 12:31'. Below it is a sub-headline '日本株を予想 | 日経平均を予想'. A list of other news items follows, including 'マーケット 早耳情報 = 主な後場寄り前成り行き注文状況(2)日本...', '東京為替:ドル・円は117円61銭付近、株安受けやや売り優勢', '今年4回の利上げ、決定事項ではない = 米ダラス連銀総裁', 'ヘリオスが急反発、米アサーシスと再生医療製品でライセンス契約', '注目銘柄ダイジェスト(前場):イオン、東京製鉄、ブロッコリーなど', '話題株ピックアップ【昼刊】:栄研化、東京製鉄、安川電、イオン 株探ニュース', '逆オイルショックで石油関連株はどうなった?', and 'タイ駐在員貯金50万円。来年結婚だが貯金が少... あるじゃん(All About マネー)'. At the bottom, there is a link for '1月の株主優待(モロゾス、ダイドードリンコなど)' and a button to 'ヘッドラインをもっと見る'.

- ・上から順番に記事を読んでいきます。
- ・これを毎日、繰り返し読んでいきます。

読むタイミングは、前場の引け(11:00以降)、大引け(15:30頃)がよいでしょう。

今日の相場は、上がったのか、下がったのか。

上がったならどのような理由でそうなったのか、詳しく書かれています。

そして、その理由を大学ノートに大まかで結構ですので、書いていきます。

これを毎日、繰り返します。

すると、感覚的に相場がどう動くか、予測することができるようになります。
もちろん、すべて当たるようになるわけではありませんが、市場に参加している投資家の
コンセンサスはある程度、一致しているので、何となく相場の動きが肌感覚で掴めるよう
なってきます。

8. 海外の株式市場と株価の関係

日本の株式市場の動向を図るうえで、海外の株式市場の動向も非常に重要になります。

特に、米国の株式市場に世界の株式市場は影響を受けやすくなります。
なぜなら、米国の株式市場は、世界一、巨大なマーケットだからです。

日本の株式市場は、米国株式市場と**短期的**には連動性も高いので、米国のNYダウ平均が
上昇すれば、東京株式市場も上昇しやすくなり、反対に、NYダウ平均が下落すれば、
東京株式市場も下落しやすくなるのが一般的です。

ただし、長期間で見れば、必ずしも連動しているわけではなく、逆相関にある局面も
見られます。

1998 年以降、日本は金融の自由化のより、外国人投資家が、日本企業の大株主に
なるケースが急増してきました。

現在では、東京証券取引所の外国人のシェアは、売買代金ベースで約 50%前後まで
上昇してきており、NY株式市場との連動性は高いといって良いでしょう。

また、最近では経済発展の著しい中国の存在も忘れてはなりません。

上海株式市場は、日本時間の午前 11:00 から始まりますが、日本の株価指数の代表的存在
である、日経平均株価は、中国の上海総合株価指数の影響も、受けるようになってきていま
す。

したがって、NYダウと共に、中国・上海総合株価指数の上げ下げも、関心を持って
見ていただきたいと思います。

米国大手ニュース配信会社である、ブルームバーグのHPで、中国、香港市場の情報を得ることができます。

(http://www.bloomberg.co.jp/markets/stocks/wei_region3.html)

《 第三章のまとめ 》

1. 株価の変動要因とは？

株価の変動にもっとも影響するのは、会社の業績です。売上、業績が伸びれば、株価は上昇しやすくなり、反対に、売上、利益が下がれば、株価も下落しやすくなります。

2. 景気と株価の関係

相場には、「金融相場」、「業績相場」、「逆金融相場」、「逆業績相場」の4つで構成されます。景気循環の局面で、株価の方向性は大きく変わっていきます。

3. 会社の業績と株価の関係

会社が売上を伸ばし、純利益を上昇させることで、市場での評価が高まり、買い手が多くなります。

4. 金利と株価の関係

金利と株価の関係は、基本的に、「逆相関」の関係にあります。金利が上昇すれば、株価は下がり、金利が下がれば、株価は上昇する。という関係が基本的な形です。

5. 為替と株価の関係

現在の日本の株式市場では、円高になると、株式が売られやすくなり、円安になると、買われやすくなっています。

6. ヘッジファンドと株価の関係

「ヘッジファンド」とは、私募形式のファンドで、シンガポール、香港、ケイマン諸島など、「タックスヘイブン」と呼ばれる、租税回避地に籍を置くファンドです。ヘッジファンドが動けば、その国の通貨、株価は、大きく上下させるほど影響力を持っています。

7. ニュースと株価の関係

日々のニュースは、日経新聞と、ヤフーファイナンス (<http://finance.yahoo.co.jp/>) 米国ヤフーファイナンス (<http://finance.yahoo.com/>) の 3 つで確認。サイトに一般に出ている専門家のコメントは、市場参加者のコンセンサスを知ることだけに、使うようにします。

8. 海外の株式市場と株価の関係

米国の株式市場に世界の株式市場は影響を受けやすくなります。また、最近では経済発展の著しい中国の存在も重要になってきています。

第四章 自分の投資スタイルを決める

1. まずは、投資をする目的を明確にする

あなたに、ひとつ質問があります。

- ・あなたは、なぜ株式投資を始めるのですか？
- ・あなたは、株式投資をすることで、何を得ようとしているのですか？

上記の質問の答えを、下の枠内に書いてみてください。

書き終えるまでは、テキストを読まないようにしてください。

-
-
-
-
-

いきなり、質問から入ったので、少し驚かれたかもしれませんね。

しかし、株式投資を行なう上で、**「目的を明確にする」**ということは、極めて重要なのです。

私の知る限りにおいて、このことを明確にしている個人投資家は、全体の 10%程度ではないでしょうか。

つまり、ほとんどの個人投資家は、「明確な目的」すら持たず、売買を繰り返しているのです。航海するのに、海図を持たずに、出航しているわけです。

そんな状況で、目的地にたどり着けるわけがありません。

よって、**「損をして当然」**なわけです。

極めて、簡単なロジックです。

しかし、あなたは、そんな投資家とは違います。

なぜなら、すでに、あなたは「自分の目的」を明確にしたからです。

その時点で、他の個人投資家よりは、1歩、進んでいることになるのです。

最近、脳科学の分野が発達し、人間の脳についてさまざまな研究が行なわれています。

人間の脳は、自分の目的をはっきりさせることで、自動的に必要な情報を収集する働きがあるとのこと。

もちろん、それだけで達成するというわけではないと思いますが、ただ、強くイメージすればするほど、その達成に必要な情報を人間の五感を通じて取得できるようになるということです。

投資の分野に限らず、世に言う「成功者」は、常にも目標、目的を定め、それをどのように達成するかを、いつも考えているのです。

何も考えていない人より、成功確率が上がるのは、当然といえば当然です。

・あなたは、なぜ株式投資を始めるのですか？

・あなたは、株式投資をすることで、何を得ようとしているのですか？

常に、この質問を、あなた自身に問い正してください。

そして、自分にウソをつかないようにしてください。

そして、あなたが投資を通じて得たいものを、真剣に追いかけてください。

そうすることで、あなたは投資で成功できる投資家になれるのです。

2. 投資する金額を決める

あなたが、投資で何をしたいのかが決まれば、あとは、「手段」を決めていきます。

その重要なカギを握るのが、「投資する金額」です。

ハッキリ言えば、投資する金額は、大きい金額ほど有利になります。

なぜなら、いろんな投資が可能になるからです。

また多少、損をしても、ゲームを続けることができるので、目的を達成する可能性は高まります。

金額が少なければ、取れる手段は限られ、1回の大損で、ゲームオーバーになることも十分、あり得ます。

ですので、できる限り、投資に向ける金額は、ある程度、まとまった金額で行なうことをお勧めします。

「私は、50万しか用意できないな……」

という方も、いらっしゃるでしょう。

金額が少ないからといって、あきらめる必要はありません。

ただし、ある程度、時間が必要になります。

金額が少ない方は、絶対にあせってはいけません。

じっくり、時間をかけて、少しずつ資金を増やすことを優先して考えてください。

資金が用意できないからといって、「借金」をすることだけは、絶対にしてはいけません。

少しは、親御さんに頼んで、資金を借りるくらいのことは良いかも知れませんが、基本は、自己資金でまかなうようにしてください。

3. 長期投資か、短期売買か

あなたは、「長期投資」で運用しようと思っているのでしょうか？
それとも、「短期売買」、「デイトレード」で運用をお考えでしょうか？
どちらでいくか、まだ決めていないかもしれませんね・・・。

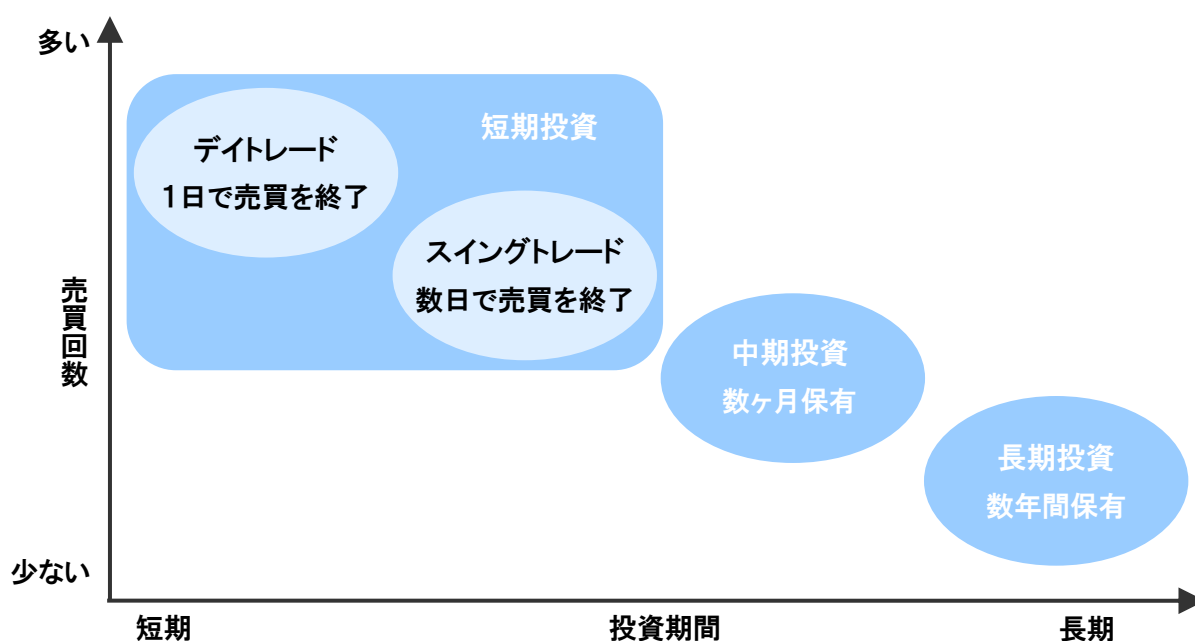
では、時間的概念について考えてみましょう。

「長期投資」とは、どれくらいの投資期間を言うのでしょうか？
「中期投資」とは、どれくらいの投資期間を言うのでしょうか？
「短期投資」とは、どれくらいの投資期間を言うのでしょうか？

じつは、この区分けは、明確ではありません。

私が以前、お付き合いのあった、ニューヨークでファンド・マネージャーは、
「長期投資」でポートフォリオを組む伝統的なスタイルでしたが、彼の長期投資の
概念は、「5年前後」です。

彼の計算は、年 15-20%で運用すれば、5年で2倍のパフォーマンスが得られるという
考えが基点になっています。



ただ、今の経済環境は、激変しますので、5年は少し長いように思っています。

あえて、私の解釈で、時間的概念をいうならば・・・

- ・「長期投資」= 1年前後
- ・「中期投資」= 3-6ヶ月前後
- ・「短期売買」= 2-5日前後
- ・「デイトレード」= 1日で決済を完了し、すべて現金化する。

というふうに考えています。

ほとんどの場合、上記のような時間軸で問題はないと思います。

私は、ディーラーの仕事をしていたので、短期売買中心で運用しています。

もちろん、長期投資も行なっていましたが、比重としては、短期売買中心でした。

日本人の投資家は、短期売買を好む傾向がありますが、技術的、精神的に
 相当な鍛錬が必要になることを、申し述べておきます。

下記、「長期投資」、「中期投資」、「短期売買」のメリットとデメリットを、私の主観ですが、
 表を作りましたので、ご自身の性格も考慮し、投資の時間軸を決めてください。

	短期投資	中期投資	長期投資
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ■短い期間で決済を完了するので、資金管理が行ないやすい。 ■経済的知識は、それほど必要がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ■基本的なファンダメンタルズ分析と、チャート分析である程度、戦える。 ■お勤めの方でも対応可能。 ■配当や株主優待を取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■初心者で比較的、資金が少なくても取り組み安い。 ■時間を有効に使え、トレンドが発生すれば、爆発的な利益が得られる。 ■少々の値動があっても、損切りの必要性がない。 ■少しずつ、株数を増やして行くことができる。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ■必然的に、値動きの激しい銘柄への投資いなるので、技術的に難しい。 ■専門トレーダーでないと対応が難しい。 ■連敗に耐えうるだけの資金が必要。 ■時間が短い分、利益も限定される。 ■頻繁に売買するので、手数料負担が大きくなる 	<ul style="list-style-type: none"> ■急激な相場変動に対処する必要がある。 ■損切りの機会を逃してしまうと、損失が思った以上に拡大することがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ■相場が過熱しているところで買うと、大損するリスクが高まる。 ■短期的に利益を手にすることができない。 ■ファンダメンタルズの知識が必要。(デメリットと言えるかどうか??)

4. 投資資金の予算別投資法

あなたは、いくら資金を運用するのか、すでに決められたかと思います。

先ほども述べたように、株式投資は、資金が多ければ多いほど、有利です。
したがって、資金の大小によって、投資対象、投資期間は戦略上、変わってきます。

ここでは、資金別の投資対象と、その方法を解説していきます。
ただ、ここでの解説は、あくまでもモデルケースです。
モデルケースを参考に、投資を行なってみてください。

【予算 10 万円】=====

予算 10 万円で株式投資を行なう場合、以下の方法になります。

(注) 1 単元とは、取引をするとき、最低単位のことを言います。

- ・ 投資信託を購入する。
- ・ ETF を売買する。
- ・ 1 単元が 1000 株の銘柄の場合、100 円以下の株式
- ・ 1 単元が 100 株の銘柄の場合、1000 円以下の株式
- ・ 1 単元が 1 株の場合、10 万円以下の株式
- ・ 単位未満株投資（通称:ミニ株など）

というのが、主な方法です。

「日経 225mini」、「225 オプション」といった、デリバティブ(金融派生商品)も取引できないことはありませんが、初心者では難しく、リスクも極めて高い商品なので、ここでは対象外とさせていただきます。

では、「予算 10 万円」で可能な投資方法をご紹介します。

《投資信託を購入する》

私が、「10万円」という少ない予算で、株式運用をするのに、最も適していると思うのが、「投資信託」という商品です。

投資信託の利点は・・・

- ・ 小額から購入が可能。
- ・ いつでも購入が可能。
- ・ 分散投資ができる。
- ・ プロが運用している。
- ・ ドルコスト平均法が使える。

小額で投資しながら、これだけのメリットを享受することができます。

■小額から購入が可能。

投資信託には「基準価格」というものがあります。株式でいえば、「株価」に該当します。通常、購入単位としては、「1万円以上1円単位」というのが、一般的です。仮に基準価格が、9000円のファンドを5万口買う場合、 $9000\text{円} \times 5\text{万口} = 45000\text{円}$ 。基準価格が12000円の場合だと、 $12000\text{円} \times 5\text{万口} = 60000\text{円}$ になります。

■いつでも購入が可能

「追加型(オープン型)」の投資信託は、いつでも購入が可能です。今、多くの投資信託は、「追加型(オープン型)」です。

■分散投資ができる

投資信託は、多くの投資家から資金を預かり運用しているので、多数の銘柄に投資を行なっています。投資信託を買うことで、分散投資をすることになります。

■プロが運用している

投資信託は、プロのファンド・マネージャーが運用しています。だからといって、必ず儲かる訳ではありませんが・・・。

■ ドルコスト平均法が使える。

「ドルコスト平均法」とは、定期的に一定金額を買い続ける投資方法です。価格が高い時は少しだけ、価格が安い時に多めに買うこととなりますので、より多くのリターンを期待できるとされる投資方法です。

(例)毎月、1万円投資した場合。(1口1円計算)

1回目 基準価格 10000 円=10000 口

2回目 基準価格 9000 円=1111 口

3回目 基準価格 11000 円=9091 口

合計=30202 口

投資信託は、発売当初は、基準価格が1万円なので、最初の一気に買うより、定額分散する「ドルコスト平均法」が有利になるケースがあるのです。

「ドルコスト平均法」は、長期的な運用が前提になります。短期的に考えるなら、効果は期待薄となります。

《ETF・株式のスクリーニング》

では、10万円以下で買える株を探すには、どうすればいいのでしょうか？取引証券会社の多くは、「スクリーニングソフト」を導入しているので、そちらで探します。以下は、「楽天証券」のスクリーニングソフトです。

詳細スクリーニング ? スクリーニングの使い方

	投資予算金額 <input type="text" value=""/>	万円以内	市場 <input type="text" value="全て"/>	業種 <input type="text" value="全て"/>	<input type="button" value="検索"/>
	表示順序 <input type="text" value=""/>		降順 <input type="text" value=""/>		<input type="button" value="クリア"/>

一番上にある「投資予算金額」というところに、10万円と入力します。すると、以下のような銘柄が出てきます。

《ETFの売買》

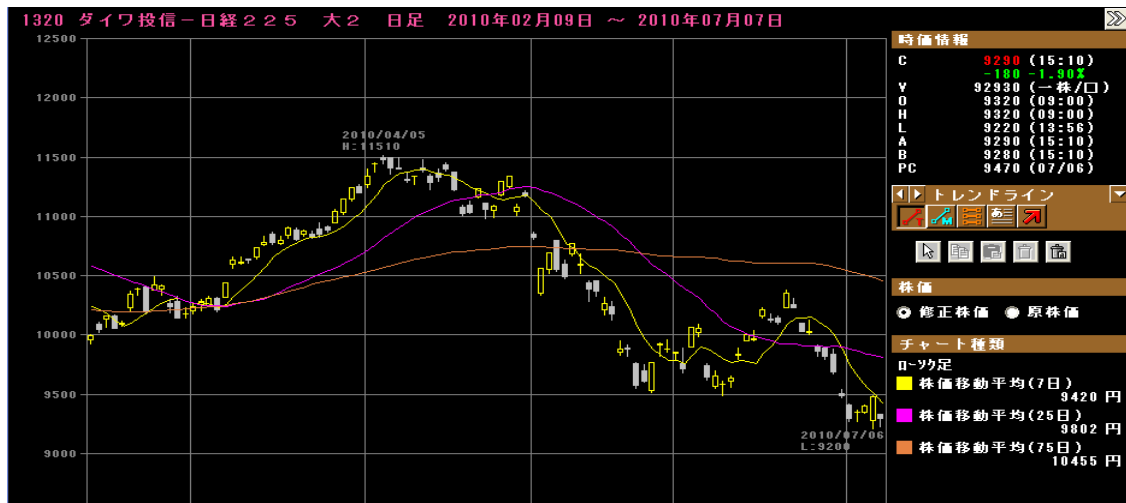
最初に出てくるのが、「ETF」です。

「ETF」とは、指数連動型の投資信託のことで、日経 225 型、TOPIX 型などがあり、取引所で株式の売買と同じように、リアルタイムで売買することができます。

上場日	対象指標	コード	名称	管理会社 (検索コード)	信託報酬	パンフレット	紹介メディア
2001/07/13	TOPIX	1305	ダイワ上場投信-トピックス INAV	大和証券投資信託委託 (13054)	0.11%		
2001/07/13	TOPIX	1306	TOPIX運動型上場投資信託 INAV	野村アセットマネジメント (13064)	0.11%		
2002/01/09	TOPIX	1308	上場インデックスファンド TOPIX INAV	日興アセットマネジメント (13084)	0.088%		
2009/05/15	TOPIX	1348	MAXIS トピックス上 場投信 INAV	三菱UFJ国際投信 (13444)	0.078%		
2015/09/07	TOPIX	1473	DIAM ETF トピ ックス INAV	DIAMアセットマネジメ ント(13694)	0.078%		
2015/10/20	TOPIX	1475	iシェアーズ TOPIX ETF INAV	ブラックロック・ジャパ ン株式会社(13294)	0.06% (注7)		
2001/07/13	日経平均株価	1320	ダイワ上場投信-日経22 5 INAV	大和証券投資信託委託 (13054)	0.16%		
2001/07/13	日経平均株価	1321	日経225運動型上場投資 信託 INAV	野村アセットマネジメ ント(13064)	0.22%		

以下のように、普通株と同じような値動きをします。

また、投資信託なので、株式のように「倒産」するリスクがありませんので安心できます。



日経平均株価、TOPIX の株価指数が上がると思えば、ETF を買い、

逆に下がると思えば、「空売り」をすることもできます。
手数料も安く、初心者が参入するのに、非常に良い商品だと思います。

《100円以下の普通株式》

では、100円以下の普通株式を探してみてください。

以下のチャートは、上の表にはありませんが、新生銀行(8303)のチャートです。



ちょっと見難いですが、2010年7月7日時点で、74 円で引けています。
1 単元が 1000 株なので、「74円×1000 株+手数料」で、10万円以内で
収まる計算になります。

ただ、ここで注意していただきたいのが、100円以下で推移している株式は、
決して業績の良い銘柄ではありません。
前にも説明しましたが、業績が長期にわたって芳しくないため、株価が安くなっている
ということです。

ちなみに、2010年に破綻した、JAL は、破綻直前の株価は100円前後でした。
ですので、しっかり会社の内容は調べて投資すべきでしょう。

しかし、悪いことばかりではありません。

このような安い銘柄は、時として、2倍、3倍に大化けすることもあります。
投機筋が、狙いを定めて株価を吊り上げることもしばしばです。

これは、「ルック(8029)の株価です。2010年3月は70円前後で推移していましたが、
3ヵ月後には、287円の高値を付けました。

3ヶ月で約4倍になった計算です。



私もこのとき、売買に参加していました。

このように安い株は、突如、急騰することがあるので、そのような意味では魅力的ですね。

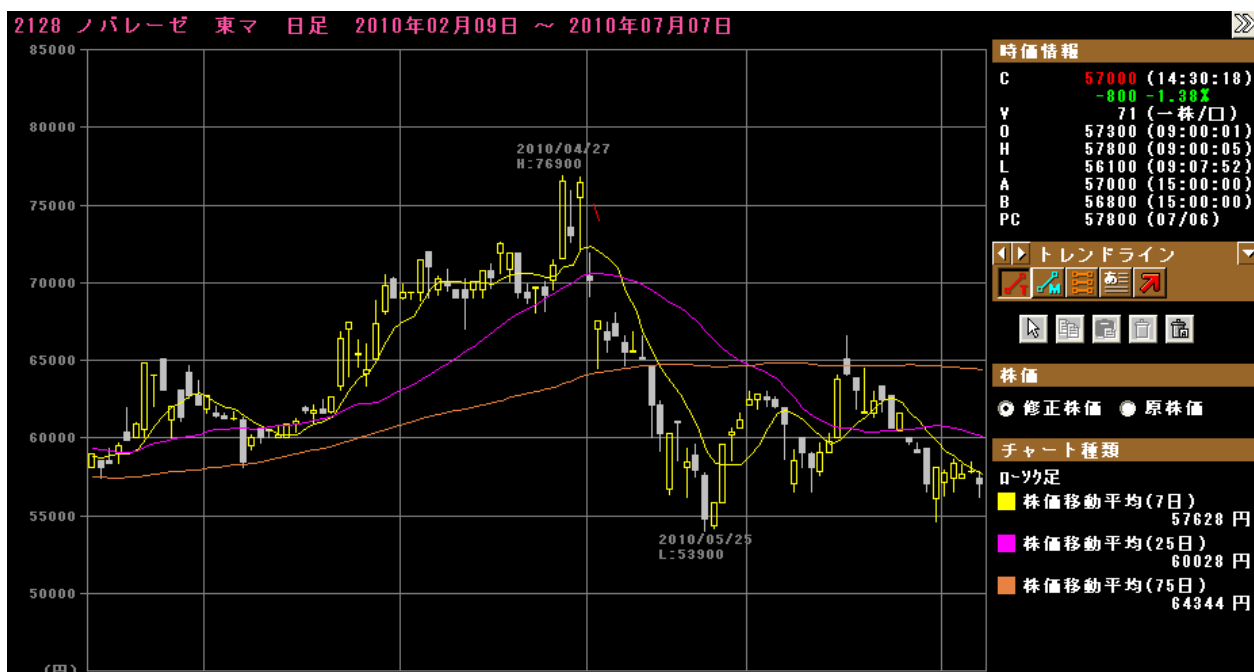
以下のチャートは、ノバレーゼ(2128)という、ゲストハウス式結婚式プロデュース会社の
株価チャートです。

この銘柄は1単元が1株なので、「57000円×1株+手数料」で、10万円以内で
収まります。

この会社は業績も非常によく、増配の可能性があるようですが、個人投資家には
人気がいまひとつなのか、株価は低迷しています。

ですが、業績が今以上に伸びるなら、近い将来、人気になるかもしれません。

そのときは、株価も上昇することになると思われます。



《単位未満株（ミニ株等）の売買》

単位未満株の売買は、通常、取引所で売買できる、1単元の10分の1の単位で売買できる株式です。

仮に、100円×1000株＝10万円ならば、その10分の1の1万円で買える株式のことです。

価格.com (<http://kakaku.com/stock/>)で、「株式投資 初心者ナビ」をクリックし、右袖にでてくる、「単位未満(ミニ株等)」を選択して○が付いている証券会社が取引できる証券会社です。

証券会社検索 [並び順:取扱商品-単元未満] ☑ 絞り込み条件を設定									
取引手数料	信用条件	取扱商品	注文方法	チャネル	情報サービス	サポート	PO株	価格.com 限定特典	
証券会社名	詳細	単元未満 (ミニ株等)	夜間取引	日経225先物	中国株 (香港市場)	米国株	FX	証券会社から	価格.comから
SMBC日興証券		○	×	×	○	×	×	-	-
SB証券 1/人気		○	○	○	○	○	○	4,000円 [入金]	1,500円 現金プレゼント
岡三オンライン証券 15/人気		○	×	○	×	×	○	5,000円 [取引]	1,500円 現金プレゼント
カブドットコム証券 3/人気		○	○	○	×	×	○	3,000円 [投信買付]	1,500円 現金プレゼント
内藤証券		○	×	×	○	×	○	-	-
松井証券		○	×	○	×	×	○	10,000円 [口座開設]	-
マネックス証券 2/人気		○	×	○	○	○	○	-	1,500円 現金プレゼント
丸三証券「マルサントレード」		○	×	×	×	×	×	-	-
むさし証券		○	×	○	×	×	○	-	-

私は、残念ながら、この単元未満株の取引を行ったことはありません。
 ですので、詳しい取引のやり方は、各証券会社に聞いてみてください。

単元未満株取引は、ある程度、取引できる銘柄が決められており、
 リアルタイムでの取引はできません。

取扱銘柄については、各証券会社によって異なる可能性がありますので、
 チャレンジしてみようとされているなら、取引証券会社にお尋ねください。

【予算 50 万～100 万円】=====

予算が50万円から 100 万円の場合、少し、取引できる銘柄数の幅は
 出てくると思います。

基本的には、上記のやり方で、買える範囲の銘柄を検索してみてください。

基本的なモデルとしては・・・

- ・ 200 円前後の銘柄を、2銘柄程度に分散する
- ・ 買うタイミングをずらす。
- ・ 一部、待機資金を残しておく

というように、リスクを分散させることに、注意を払いましょう。

そして、銘柄を買うタイミングは、できるだけ、日経平均株価が安くなったときを狙って、買いを入れます。

そのときまでに、業績が良いものをリサーチしておきます。
そして、タイミングを見計らって、迷わず買いを入れます。

ただ、資金はそれほど多くはありませんので、買い値から 10%下落した場合、一旦は、損切りをしたほうが良いと思います。

【予算 300 万円前後】=====

予算が 300 万円あれば、ほぼすべての銘柄が投資対象として銘柄を選ぶことができます。

資金が多くなれば投資の自由度も高まりますが、資金管理をしっかりとしないと、ちょっとしたことで、資金を大きく失いかねません。

常に、資金の〇〇%減少すれば、株を損切りするというルールを作っておくべきでしょう。

基本的なモデルとしては・・・

- ・ 資金全体の 70%を「長期投資」に使う
- ・ 資金全体の 30%を「待機資金」にするか、若しくは、「短期売買」に使用する。
- ・ 長期投資は、5 銘柄前後に分散させる
- ・ 買うタイミング、業種を分散させる
- ・ 短期売買をする場合、100－150円の銘柄で、値動きのある 1 銘柄に絞る

- ・ 短期売買の場合、翌日の寄り付きに利益になっていたら、その場で決済する。
- ・ 資産の増減を毎日、データにつけ、総資産が 10%を切るようなら、評価損になっている銘柄から、損切りをしていく。

銘柄を買うタイミングは、できるだけ、日経平均株価が安くなったときを狙って、買いを入れます。

そのときまでに、業績が良いものをリサーチしておきます。
そして、タイミングを見計らって、迷わず買いを入れます。

300 万円ほど、資金が大きくなれば、精神的にも楽ですが、油断が生じやすいため、総資産額は、必ず毎日チェックし、評価損が出ている銘柄についての処理を考えます。

仮に損切りをせず、残す場合でも、損切りラインは事前に決めておきます。

5. ジックリと、値上がりを待つスタイル

これは、株式投資のすべてに言えることですが、株式を買うタイミングを間違えてしまうと、どれだけ資金を持っていても、上手く儲けることはできません。

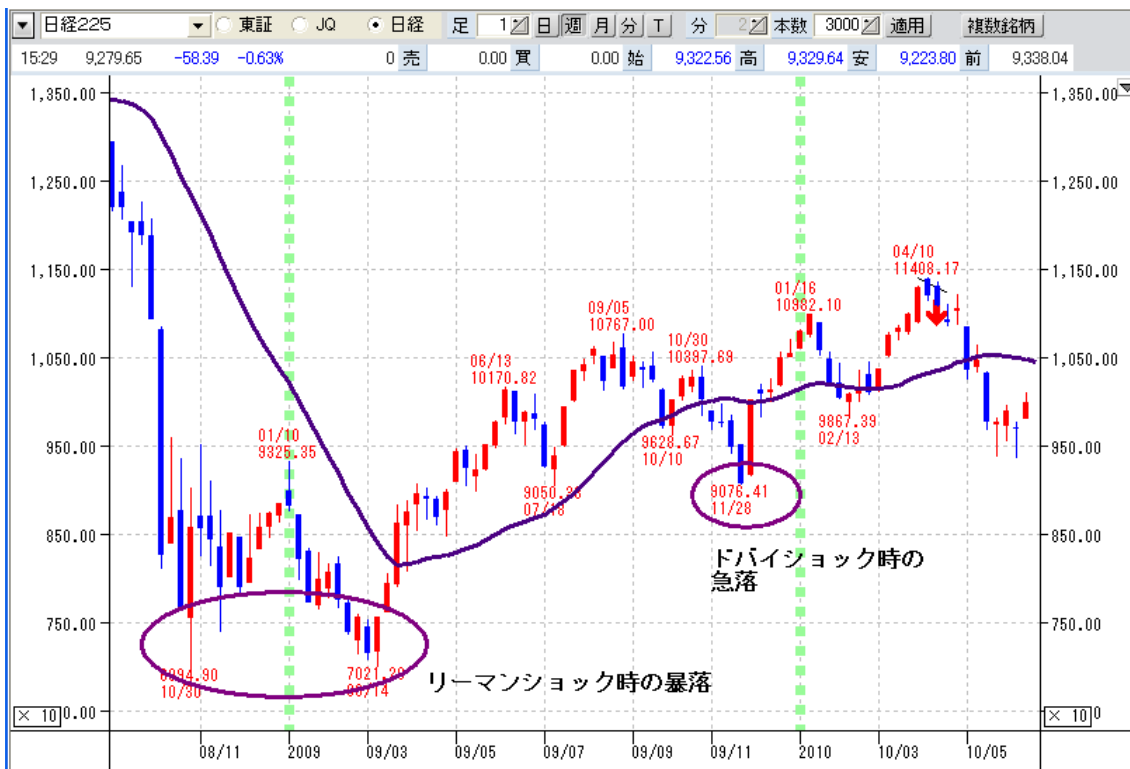
では、株式を買うタイミングとは、どのような時期のことを言うのでしょうか。

それは、ズバリ！ “日経平均株価が急落したとき” です。

何らかの大きなニュースで株価が大きく下げたところを待つ、あらかじめリサーチしておいた銘柄に買いを入れるのです。

「日経平均株価が急落しているときに、株価買うなんて怖くてできない」と思っているかも知れません。

しかし、このようなときが、絶好の買いのチャンスであることは、歴史が証明しています。



上のチャートを見ていただければ納得いただけると思いますが、株式市場が急落しても、その後は、株価は徐々に回復していくのです。

日経平均株価が大きく下落したときは、上場株式全体の 80%—90%は下落します。会社の業績が良い悪いに限らず、株式を保有している金融機関、ファンド、個人投資家は一斉に株式を売ってきます。

いわゆる、「パニック売り」です。

このような「パニック売り」になったときが、絶好のチャンスです。

このようなときを狙って、株式を買うようにしましょう。

そして、ジックリ値上がりするのをひたすら待つのです。

6. 短期間で、積極的な売買をするスタイル

下のチャートをご覧ください。



2010年7月6日—7日の東京鉄鋼(5445)の株価チャートです。

短期売買を行なうときは、このように値動きの良い、銘柄を狙って売買をします。7月5日まで、ほとんど値動きのなかった銘柄ですが、6日から急に上昇を始めました。

この銘柄の場合、証券会社が東京鉄鋼株の投資判断を格上げされたとの報道から、買いが集まったようです。

では、どのようにしてこのように急激に上昇する銘柄を見つけることができるのでしょうか。下記は、「楽天証券」のマーケットスピードというソフトで提供されている、「値上がり率ランキング」というものです。

No	!	銘柄	現在値	前日比	前日比率	出来高	始値
1	1693	ETF S銅上場掛	3,075	+195	+6.77%	10	3,075
2	2726	パル	3,610	+220	+6.49%	39,400	3,410
3	5612	日本鑄鉄管	148	+9	+6.47%	198,000	148
4	2792	ハニーズ	1,235	+70	+6.01%	597,370	1,215
5	8155	三益半導体	1,059	+57	+5.69%	473,300	1,012
6	7917	藤森工業	1,213	+55	+4.75%	25,100	1,213
7	4350	メディカルシスラ	645	+28	+4.54%	7,900	617
8	6474	不二越	257	+11	+4.47%	5,769,000	246
9	5310	東洋炭素	4,200	+170	+4.22%	130,500	4,030

この「値上がり率ランキング」で、急上昇している銘柄を見つけることができます。

株価は、1分1秒で値段が変わります。

したがって、このランキングはリアルタイムで反映されます。

見ていると、目が回るくらいランキングが上下します。

このランキングで、5位以内に入っているような銘柄は、急上昇しているような銘柄が多い傾向があります。

ちなみに先ほどの、東京鐵鋼は、当日、ランキングの3位くらいにいたと記憶しています。短期売買を推奨するわけではありませんが、このようなツールも、上手く活用していただきたいと思います。

7. リスク・コントロールの重要性

株式投資の成否は、「上がる銘柄をいかに探し当てるか」ということに、スポットが当たりがちです。

もちろん、上がる銘柄をいかに発掘するかということは大切なことかもしれませんが、株式投資での成否全体においては、せいぜい、20%程度といわれています。私もそう思います。

では、何が一番大切かというと、「いかに、リスクをコントロールするか」ということに尽きます。

銘柄が当たるかどうかなど、金融機関のプロでも難しいものです。

ですが、リスクをコントロールすることは、私たちにも十分可能です。

株式投資の教科書には、「株の集中投資はリスクが高いので、必ず数銘柄に分散すべき」と書いてあります。

理論から言えば、銘柄を分散させることで、ある程度、リスクが抑えられるのは事実です。

しかしながら、個人投資家の限られた資金で銘柄を分散するには、限界があります。

では、どうするのか……？

銘柄の分散は、当初 2 銘柄ほどにして、必ず、「待機資金」を残しておくということです。

つまり、「すべての資金を株式市場に投入しない。」ということです。

いくら銘柄を分散させても、株価が全体的に下がってしまえば、ほとんど機能しません。それよりは、使わない資金を残しておくほうが、効果的です。

資金が、10万円の場合は、非常に難しいですが、まったくやれないことはありません。

株式投資は、資金がなくなってしまうと、「ゲームオーバー」となります。

したがって、いかに長く市場に留まれるかが大切になってきます。

そのためには、リスク・コントロールを的確に行い、損失を未然に防ぐことが重要になってくるのです。

《 第四章のまとめ 》

1. まずは、投資をする目的を明確にする

なぜ、投資を行なうのか？ 投資で何をしたいのかを明確にしてください。
株式投資で、一体いくら儲けたいのか、何が目的なのかを明確にしましょう。

2. 投資する金額を決める

投資に使うお金の金額を決めましょう。ただし、借金はNG。

3. 長期投資か、短期売買か

自分の投資スタイルを決めましょう。長期投資なのか、短期売買なのかを初めに決めます。
長期投資は1年前後、中期投資は3-6ヶ月、短期売買は2-5日前後です。

4. 投資資金と、予算別投資法

資金が少ない場合は、「ETF」や、100円以下の銘柄、また、単位未満株投資も活用します。
ある程度、資金が用意できるなら、幅広く、銘柄を選んでいきます。
また、ある程度、銘柄、資金を分散させ、リスク低減を図ります。

5. ジックリと、値上がりを待つスタイル

株を買うタイミングは、「パニック売り」が起きたときです。
そのタイミングが来るまで、ひたすら待ちましょう。そして、株を買ったら、ジックリ値上がりするまで待ちましょう。

6. 短期間で、積極的な売買をするスタイル

値上がり率ランキングの銘柄で、短期間の値上がりを狙うことも可能です。

7. リスク・コントロールの重要性

銘柄の分散だけではなく、使わない資金も残しておきます。有り金すべてを株式投資に使わないようにします。

第五章 銘柄を選ぶ

1. どうやって、「銘柄」を選ぶのか？

では、いよいよ「どうやって投資する銘柄を決めるか」というところに入っていきます。

このテキストでは、初心者向けということですので、オーソドックスな、「ファンダメンタルズ分析」と、「テクニカル分析」の手法をご紹介します。

・ファンダメンタルズ分析とは・・・

ファンダメンタル分析とは、景気の動向や、会社の財務諸表、提供するサービスの需要、成長性など、様々な観点から、投資価値の分析を行なう手法です。

ファンダメンタルズ分析から、現在の株価が割安である、若しくは、まだまだ企業活動が成長するということであれば、その企業の株を買う価値はあります。

反対に、現在の株価が割高と判断されたり、企業の売上、利益水準が横ばい、または下降に転じたり、経済活動が鈍化すると判断されれば、株を売ることを考えなくてはなりません。

・ファンダメンタルズ分析の注意点

理論上、株価が割安であると判断しても、判断時点で株価が上昇するとは限りません。

株価水準は、人によって見方は分かります。

投資家全員が同じ見方をしてしまうと、そもそも売買が成立しません。

基本的な会社の見方は、大きな違いはありませんが、株価が上昇するためには、買い手がたくさんいることが必須条件です。

つまり「人気」がなければ、いくら割安と判断しても、なかなか株価が動かないことがあります。

したがって、割安だからといって、そのことだけに固執しないようにしましょう。

割安に放置されているのは、それなりの理由が背後にあることも考えられるからです。

ファンダメンタルズ分析の手法については、この章でのちほど解説します。

・テクニカル分析とは・・・

現在、個人投資家の中で、人気のある分析手法です。

特に、「短期売買」を行なう個人投資家に人気があります。

テクニカル分析とは、過去の株価の動きをグラフ化し、過去の値動きから、将来の株価の動きを予想する分析手法です。

過去の株価の動きをグラフ化したものを、一般的に「チャート」と呼びます。

以下、ソフトバンク(9984)の株価のチャートです。



<出所: 松井証券 ネットストックハイスピード>

株価の動きには、ある一定の「パターン」が生じているように見えます。

この「パターン」を上手く読み取ろうとするのが、テクニカル分析です。

・テクニカル分析の注意点

書店に行くと、ありとあらゆる、テクニカル分析を題材にした書籍があります。

ただ内容はというと、どの書籍も大差はないと思っています。

また、テクニカル分析に特別なものなど存在しません。

たとえば、「25日移動平均線を突破して、MACD が買いサインが点灯したら買いだ」というような解説が多く見受けられます。

もちろん、その通り、上がっているものも存在しますが、その反対に、上手くいっていない銘柄も数多く存在しています。

したがって、テクニカル分析は、「パターン分析」の領域を出ることはなく、この「パターン」を信用しすぎると、痛い目に合うことになります。
したがって、あくまでも参考程度と考えてください。

ファンダメンタルズ分析をした後、テクニカル分析で、株価の位置を調べるという使い方を私はお勧めします。

2. まず、会社四季報を買う。

それでは、これから会社の業績を調べる、基本的な分析についてお話していきます。

まず、東洋経済新報社というところから発行されている、「会社四季報」を1冊購入します。

下の画像が、会社四季報です。



3. 会社を見る上で、重要な「財務三表」

会社の経営状態を見る上で、必要なものが、「財務諸表」と呼ばれるものです。

財務諸表の主なものが、「貸借対照表」、「損益計算書」、「キャッシュフロー計算書」と呼ばれるもので、これをまとめて、「財務三表」といいます。

では、それぞれについて、どのような内容になっているかを解説します。

《貸借対照表》

貸借対照表は、「バランスシート」とも呼ばれます。

貸借対照表は、企業の財政状態を表しており、非常に重要な位置付けにあります。

左側は「資産の部」、右側に、「負債の部」、「資本の部」が書かれており、「資産の額」と、「負債+資本」が、イコールになるように計算されています。

資産	負債
	資本 (株主持分)

**「資産」=「負債」+「資本」
になるように書かれている。**

この貸借対照表で、重要なのは、「資産」に対して、「負債」がどれだけのウェイトを占めているのか。または、資本がどれだけのウェイトを占めているかということです。

つまり、貸借対照表は、会社の健全性を表すものと覚えておいてください。

また、資産の部にある「流動資産」を「流動負債」で割ったものを「流動比率」といいます。

流動資産とは短期間(原則として1年以内)に資金として回収される資産を表し、流動負債とは短期間(原則として1年以内)に支払い期限の来る負債を表します。

流動比率(%) = 流動資産 ÷ 流動負債

となります。

この計算式で、100%を超えているなら、当面の資金繰りは安全ということがいえませんが、100%を切っている場合、入ってくるお金よりも、出て行くお金が多くなっていることとなります。

つまり、足りないお金は、借金で賄っているということになるのです。

したがって、恒常的に100%を切っている会社は安全性に問題があるので、投資対象から外すべきでしょう。

《損益計算書》

「損益計算書」とは、その企業が1年間で、どれくらい儲けたのか？ということを見る表です。

1年間の儲け = 「売上」 - 「費用」 で計算されます。

図で表すと、以下のようになります。

かかった費用	1年間の売上
1年間の儲け	

では、損益計算書の売上の種類について見て行きましょう。

・「売上総利益」＝「売上」－「原価」

企業は、原材料から製品を作り、売り上げを上げます。

売上から、原価を引いたものが、売上総利益です。「粗利益」とも呼ばれます。

・「営業利益」＝「売上総利益」－「販売費および一般管理費」

製品を売るためには、原価以外に、人件費、広告宣伝費などがかかります。

売上総利益から、これらの費用を引いたものが「営業利益」となります。

「営業利益」は、その会社の本業から得られた利益です。

したがって、営業利益が、毎年伸びているかが重要なカギとなります。」

・「経常利益」＝「営業利益」＋「営業外収益」－「営業外費用」

本業の儲けに、本業以外の利益や、本業以外のコストを加えたものが、

「経常利益」と呼ばれるものです。

営業外収益とは、家賃収入や、受け取り利息、配当金、有価証券の売却益などです。

営業外費用とは、支払利息、社債利息、有価証券売却損などです。

・「税引き前当期純利益」＝「経常利益」＋「特別利益」－「特別損失」

会社を運営していると、突発的な利益や損失が起こるものです。

このような「突発的な損益」を経常利益に加えたものを、「税引き前当期純利益」となります。

突然の不動産、有価証券の売却益、売却損などは、「特別利益」、「特別損失」という科目に該当します。

経常利益は赤字なのに、「税引き前当期純利益」が黒字になっている場合、

資産を売却し、利益計上している可能性が高いので、このようなケースには注意が必要です。

・「当期純利益」＝「税引き前当期純利益」－「税金」

最後に税金を差し引いたものが、「当期純利益」となり、純粋に会社に残るお金になります。

純利益を見る際、本業から得ているものなのか、本業以外からえているものなのかをきちんと確認することが望ましいでしょう。

会社の利益には、このように5つの利益があることを、覚えておいてください。

会社の決算書を見る時、これらの利益を意識して見るようにしてください。

《キャッシュフロー計算書》

では次に、「キャッシュフロー計算書」について、解説していきます。

「キャッシュフロー」とは、会社の現金の流れを見る計算書です。
キャッシュは、「会社の血液」とよく言われます。

会計上、黒字になっていても、お金が手元にまったく無ければ、支払い不能となり、「黒字倒産」を招いてしまいます。
したがって、きちんとお金が流れているかを見るのが重要となります。

「キャッシュフロー計算書」は、「営業活動によるキャッシュフロー」、「投資活動によるキャッシュフロー」、「財務活動によるキャッシュフロー」の、3区分からなります。

・「営業活動によるキャッシュフロー」

会社本来の営業活動からキャッシュを獲得しているかを示している、もっとも重要な区分です。
きちんと営業活動をしている会社なら、「営業キャッシュフロー」はプラスで推移しています。
もし、「営業活動によるキャッシュフロー」がマイナスの場合、借金に頼らざるを得ない状況になり、非常に危険です。
業績の思わしくない会社は、「営業活動によるキャッシュフロー」が、マイナスであることが多いです。

・「投資活動によるキャッシュフロー」

企業が製品を量産したり、新製品を作るとき、設備投資が必要になります。
企業活動に不可欠な設備投資に、どの程度の資金を支出し、どの程度の資金を回収したかを示す区分です。
「投資活動によるキャッシュフロー」は、通常、マイナスとなります。
この区分がプラスになっている場合、設備投資を控えていたり、何らかの事情で、会社資産を売却していることがわかります。
したがって、この区分がプラスなら、企業活動が後ろ向きになっている可能性があります。

・「財務活動によるキャッシュフロー」

企業は、銀行からの借入金や、社債、株式を発行するなどして、資金を調達し、返済等を行います。借入や増資によりどの程度の資金が調達され、また、借入金の返済にどの程度の資金が支出されたかを示す区分です。

資金調達が返済より多ければプラス、返済が多ければマイナスということになります。この区分は、その企業や経済環境によって、変わりますので、プラス、マイナスは、さほど神経質になることはありません。

・「フリーキャッシュフロー」

フリーキャッシュフローとは、一般的に、

「営業活動によるキャッシュフロー」-「投資活動によるキャッシュフロー」

で求められます。

フリーキャッシュフローは、プラスであることが基本です。

手元現金が多ければ、企業は機動的に活動できるからです。

ただ、フリーキャッシュフローがマイナスであっても、必ずしもネガティブになることはありません。成長著しい企業は、積極的にお金を使いますので、売上、経常利益の伸び率も見て、判断してください。

もし、売上、経常利益が伸びておらず、フリーキャッシュフローがマイナスになるようであれば、どこかに問題が潜んでいる可能性があります。

以下の表は、会社四季報2008年春号の「コマツ(6301)」のキャッシュフローの内容です。

【キャッシュフロー】 億円		
営業CF	1,621	(1,361)
投資CF	-996	(-817)
財務CF	-413	(-834)
現金等	921	(699)

営業キャッシュフローはプラスで、本業の利益が上がっていることが分かります。

フリーキャッシュフローも潤沢で、売上、利益ともに爆発的に伸びています。

「現金等」の手元資金も潤沢で、企業活動としては好調であることが分かります。

4. 会社の安全度をチェックする

まず、銘柄を選ぶときに気を付けたいのが、その会社の安全度です。

記憶に新しいところでは、2010年1月、日本航空（JAL）が、会社更生法を申請し、事実上、破綻しました。

株式市場では、すでに破綻は確実とされ、1月13日に売り買い同数量でまともに値段が付いたのは、たったの「7円」です。

2009年末は67円だったので、約90%下落したことになります。

このように、会社が民事再生法、会社更生法となれば、株券はただの紙くずとなって、投資資金の回収はほぼ不可能となってしまいます。

ですから、銘柄を選ぶとき、投資しても潰れる可能性が低い会社を選ぶのは大切です。

では、「安全な会社」は、どうやって調べるのでしょうか。
その方法を解説していきます。

一番、簡単な方法は、「株主持分比率」を見ることです。

「株主持分比率」とは、資産に対して、資本がどのくらいの割合かを見る指標です。

会社の貸借対照表（バランスシート）は、以下のような構成になっています。

資産	負債
	資本 (株主持分)

会社は、借金が少ないほど、安全です。
当たり前ですね。

JAL は、あまりにも借金の額が多すぎて、そこに不況によって収益の落ち込み、借金返済や会社を運営するコストを賄うことができなくなって倒産したのです。

「無借金経営」なら、倒産する可能性は、極めて低くなります。

したがって、「**株主持分比率**」が高ければ高いほど、**倒産する可能性は低くなり、安全度が高い**ということです。

一般的に、株式投資を行なう際の、「株主持分比率」は、50%前後が望ましいとされています。



したがって、投資する会社を選ぶときは、その会社が安全かどうか、まずは、着目してください。

ただ、株主持分比率が、50%前後の会社の株が、上がりやすいということではありません。

ここでは、上がるかどうかを考えず、あくまで、会社の内容が安全であるかどうかに着目します。

「株主持分比率」が低いということは、それだけ借金が多いということになります。
「株主持分比率」が、10%を大きく下回るような会社への投資は、避けたほうが無難です。

以下の財務データは、外国人投資家に人気のある、超優良企業である「日本電産(6594)」のデータです。

【財務】 <◎中07.9>百万円	
総資産	685,012
株主持分	321,524
株主持分比率	46.9%
資本金	66,248
利益剰余金	176,232
有利子負債	105,670

「株主持分比率」は、46.9%と、50%前後の条件をクリアしています。

「有利子負債」は、1056億7000万ありますが、「利益剰余金」も多く、「総資産」に対して、7分の1程度ですので、会社としては優秀の部類に入るでしょう。

会社四季報では、この「財務面」をよく見ておきます。

【 memo 】

5. 会社の業績をチェックする

では、いよいよ会社の安全性を確認したところで、「上昇が期待できる銘柄」を探していきたいと思います。

会社四季報を読み解く上で、最も注目していただきたいのが、「営業利益」と「当期純利益」（会社四季報では、「利益」と表示）の2つです。

「営業利益」は、損益計算書のところでも解説したように、「本業の利益を示すもの」です。

会社が本業で利益を上げていることは、とても重要です。

なぜなら、その会社の製品が世界中の人や会社に求められているからです。

したがって、会社の業績を見るときは、まず「営業利益」が伸びているかどうかに着目してください。

次に、「当期純利益」も営業利益同様、チェックしてください。

会社四季報では、「当期純利益」を「利益」と表示しています。

営業利益が順調に伸びているなら、「当期純利益」も同様に伸びているはずですが。

また、「当期純利益」は、株主に対する「配当原資」に直結しますし、会社の安全度に関わる内部留保に繋がるからです。

また、後ほど説明しますが、株価の動向を左右する、「一株あたりの当期純利益(EPS)」の算出するための分子にもなるため、「当期純利益」が伸びているかどうかは、とても重要になってくるのです。

下記、コマツ(6301)の業績の推移と株価の動きを見てください。

【業績】	売上	営業利益	税前利益	利益	1株益(円)	1株配(円)
◎05. 3	1,434,788	101,923	98,703	59,010	59.5	11
◎06. 3	1,701,969	176,453	169,073	114,290	115.1	18
◎07. 3	1,893,343	244,741	236,491	164,638	165.7	31
◎08. 3予	2,250,000	330,000	325,000	210,000	211.0	40~41
◎09. 3予	2,550,000	365,000	360,000	233,000	234.2	46~48
中07. 9	1,080,042	162,972	158,584	103,800	104.4	20
中08. 9予	1,230,000	180,000	177,000	115,000	115.6	23~24
西06. 4-12	1,354,345	169,390	163,594	109,561	110.3	
四07. 4-12	1,629,026	241,442	234,766	151,546	152.3	
単08. 3予	900,000	117,000	128,000	93,000	93.4	

(出所:会社四季報 CD-ROM)

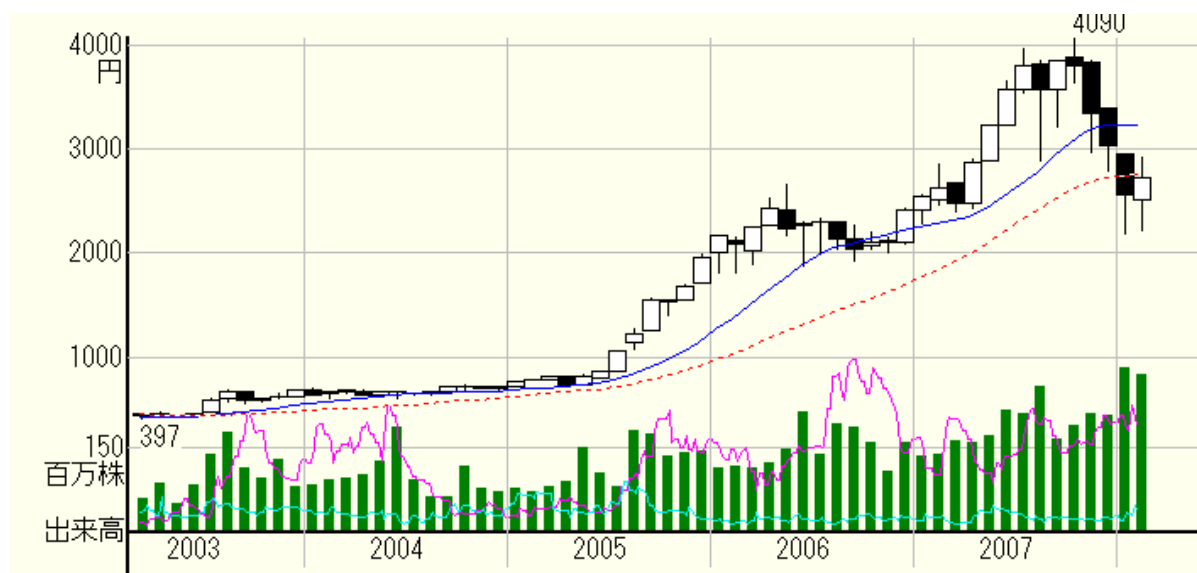
まず、「営業利益」をご覧ください。

中国の高層ビル建設ラッシュに伴い、建設機械の受注、貸し出しに伴う利益が急増しました。中国の不動産バブル恩恵を受けた会社です。

「営業利益」と共に、「当期純利益」も大幅に伸びているのが見て取れます。

また、一株あたり利益(EPS)も、59円から2008年3月期には、211円(予想)と急増しています。

では次に、コマツ(6301)の株価をご覧ください。



2005年半ばには、1000円前後だった株価は、2007年後半には、4090円の高値を付けています。

株価は、約2年で4倍になっています。

業績が好調であれば、投資家は買い進めますので、株価はどんどん上昇していくのです。

では次に、東芝の業績を見てみましょう。

【業績】	売上	営業利益	税前利益	利益	1株益(円)	1株配(円)
◎05. 3	5,836,139	154,807	110,567	46,041	14.3	5
◎06. 3	6,343,506	240,610	178,177	78,186	24.3	6.5
◎07. 3	7,116,350	258,364	298,460	137,429	42.8	11
◎08. 3予	7,700,000	280,000	340,000	165,000	51.0	11~13
◎09. 3予	7,900,000	340,000	370,000	190,000	58.7	11~13
中07. 9	3,689,934	82,520	76,780	45,657	14.2	6
中08. 9予	3,700,000	100,000	100,000	60,000	18.5	6
四06. 4-12	4,955,297	121,059	201,573	111,256	34.6	
四07. 4-12	5,568,445	124,581	226,253	126,162	39.1	
単08. 3予	3,700,000	90,000	90,000	75,000	23.2	

<出所:会社四季報 CD-ROM>

地球温暖化に伴い、原子力発電建設が進み、同社の原子力発電システムの受注が好調で、利益水準を大きく押し上げました。

こちら「営業利益」と共に、「当期純利益」も大幅に伸びています。

こちら、一株あたり利益(EPS)は、14.3円から51円まで増額されています。



<出所:会社四季報 CD-ROM>

株価も、580円前後から、2年足らずで、1185円まで急騰しています。

このように、業績が急上昇すれば、株価も大きく跳ね上がるため、会社の業績は株式投資を

する際に、とても重要になってくるのです。

6. EPS(一株あたり利益)をチェックする

業績をチェックしたら、次に、「一株あたり利益」をチェックします。

先ほど例に出した、コマツ(6301)の業績を見てください。

利益	1株益(円)
59,010	59.5
114,290	115.1
164,638	165.7
210,000	211.0
233,000	234.2
103,800	104.4
115,000	115.6
109,561	110.3
151,546	152.3
93,000	93.4

「当期純利益」の横に、「1株あたり利益」が表示されています。
会社四季報では「1株益」と表示していますが、これにあたります。

見ていただければお分かりになるように、決算期ごとに「一株あたり利益」が増加していることが、一目瞭然です。

「一株あたり利益」が、每期、順調に伸びているということは、配当が増える可能性が高くなりますので、その期待から、株を買ってくる投資家が多くなると予想されますので、株価は必然的に上昇することになります。

しかし、ただ「一株あたり利益」が増えたからといって、安心してはいけません。
なぜなら、「税引き前当期純利益」のところでも説明しましたが、土地資産の売却などで、「突発的利益」を計上している可能性があるからです。

このような場合、「営業利益」、「一株あたり利益」ともに、継続性がなくなる可能性が高まります。

したがって、あくまでも本業からの利益で、伸びているかを確認しなくてはなりません。

上記の、コマツの場合、中国の旺盛な建設需要に支えられ、本業の利益が伸びているので、株価も上昇しているのです。

では、「一株あたり利益」とは、どのような計算式で求められるのでしょうか。計算式は、以下の通りです。

$$\text{EPS(円)} = \frac{\text{当期純利益}}{\text{発行済株数}}$$

「一株あたり利益」は、「当期純利益」を「発行済み株式数」で割ります。

発行済み株式数は、会社四季報の財務欄に掲載しています。

【株式】 1/31 998,744千株
単位100株 [貸借]
時価総額 27,265億円[225]

コマツの発行済み株式数は、9億9874万4000株です。

2005年3月期の純利益、59億1000万円を、9億9874万4000株で割ると一株あたり利益は、59円となり、四季報の数字とほぼ一致します。

このようにして、「一株あたり利益」を求めます。

「一株あたり利益」は、当期純利益を、発行済み株式数で割って求められることから、「株式分割」で株数が増える場合、「一株あたり利益」の数字は、当然、小さくなります。

したがって、現在では、「株式分割」を発表する銘柄は、株主利益の希薄化から売られるケースがほとんどです。

もし、保有している銘柄が、「株式分割」を発表した場合、一旦、売却して様子を見るということが望ましいでしょう。

株式分割後も、順調に利益を伸ばしているなら、株主あたりの利益も大きくなることを

意味しますので、再び、見直しの買いが入りやすくなります。

7. PER(株価)収益率)をチェックする

先ほど、「一株あたり利益が、每期、順調に伸びているということは、配当が増える可能性が高くなりますので、その期待から、株を買ってくる投資家が多くなると予想されますので、株価は必然的に上昇することになります。」と述べましたが、ひとつ問題があります。

すでに、「一株あたり利益」の増加を見越して、すでに株価が上昇しているケースがあるからです。

すでに、株価が大きく上昇している場合、高値付近で買うことになり、リスクが高くなります。したがって、できることなら「適正価格」で株式を買うことを考えなければなりません。

現状の株価が、割安なのか、割高なのかを図る指標に、「株価収益率（PER）」という指標があります。

この指標は、個人投資家がよく監視している指標です。

現在の株価が一株利益に対して、何倍まで買われているかを表します。

計算式は以下のようになります。

$$\text{PER(倍)} = \frac{\text{株価}}{\text{EPS(一株利益)}}$$

仮に、下記の場合、求められるPERは・・・

(A) 株価 500 円 ÷ 一株あたり利益 50 円 = PER 10 倍

(B) 株価 1000 円 ÷ 一株あたり利益 50 円 = PER 20 倍

となり、株式を買うタイミングは、(A)の方が「割安」という判断ができます。

株式を買うタイミングは、当然、割安なときに買う方が、リスクも小さくなり、株価上昇余地は高くなります。

次に、具体的な株価チャートで説明します。

少しデータは古いですが、考え方はいつでも同じなので安心してください。

下記、日産化学(4021)のEPS、PREの推移と、株価の動きです。



チャート上に示した、A,B,C,D の業績の変化を見ていきます。

	2003年3月期	2004年3月期	2005年3月期	2006年3月期
EPS	21.2 円	46.2 円	59.8 円	72.7 円
PER	22.5 倍	19.67 倍	15.46 倍	27.48 倍

EPS は、每期増加の一途を辿っており、業績も同じように増加しています。

2003年3月には461円だった株価は、2006年3月には2,000円を超えており、

3年で株価は5倍近くまで跳ね上がりました。

ここで注目していただきたいのは、各年度の「EPS」と「PER」の数字の推移です。

2003年3月期から2004年3月期の「EPS」は2倍以上に大きくなっています。
したがって、株価は上昇していますが、「PER」は、低下しています。

そして翌年の2005年3月期は、前期に比べて、さらに「EPS」は、59.8円に増加しています。
しかし、株価は前年に比べ、ほとんど動きがありません。
そして、2005年3月期の「PER」は、15.46倍まで低下しているのです。

そこで、割安だと気付いた投資家の買いを集めることとなり、その後、株価は急騰することになります。
翌年の2006年3月期の「EPS」は、72円まで増加することとなり、「PER」は、27倍まで上がっています。

ここで、ひとつ疑問が残りますね……。

「一体、どのくらいのPERが適正なのか??」という疑問です。

PERという指標の取り扱いは、非常に難しく、会社によって様々です。

伝統的で歴史のある会社(例:新日鉄、日立など)のPERは、低めに推移し、
ミクシイなど「新興企業」のPERは高めになりやすい傾向にあります。

では、平均的なPERを見るにはどうすればいいのでしょうか?

日本経済新聞の株式欄を見ると、日経225、TOPIXの平均的な「PER」が
毎日、計算され、公表されています。

ここでは、日経新聞WEB版で見ることにしましょう。

株価収益率(連結決算ベース)

項目名	前期基準	予想
日経平均	13.85倍	14.05倍
JPX日経400	13.90倍	13.58倍
日経300	14.66倍	14.67倍
日経500平均	14.83倍	14.79倍
東証1部全銘柄	14.94倍	14.79倍
東証2部全銘柄	14.19倍	13.54倍
ジャスダック	21.54倍	15.12倍

<出所:日本経済新聞 電子版 2016年2月16日現在>

ここでは、株価収益率が、毎日、更新されて掲載されます。

前期のEPSを基準に、PREが算出されますが、日経225平均で28.44倍、東証1部全銘柄で、30.78倍というのが平均値です。

歴史的に見て、日経225平均で、16倍～40倍あたりで推移しています。

株式市場が活況であれば、PERは高くなる傾向にあり、株式市場があまり元気の無いときでも20倍を少し割り込む程度です。

全体の平均的なPERを毎日、チェックしながら、個別企業のPERを見て、上昇余地があるかどうか、判断すべきでしょう。

ですが、PERを盲目的に信じることは、やめてください。

PERが市場平均より安くても、人気が無いと、株価がなかなか上がらないということもよくあることです。

調べている企業の過去の株価の推移や、どのようなサービスを提供しているか、人気のある業種なのかなど、参考材料にすべきです。

あと、重要なことですが、「当期純利益」が赤字の場合、PERの算出はできません。

これは、「一株あたり利益」がマイナスになるためです。

したがって、PERが算出できるのは、「一株あたり利益」がプラス計上の場合に限るということは、忘れないようにしてください。

8. PBR(株価純資産倍率)をチェックする

PER（株価収益率）と並んで、人気のある指標に、PBR（株価純資産倍率）という指標があります。

PBRは、株価が1株当たり純資産の何倍まで買われているかを示すもので、「PBR=1.0倍」というのが、株価の下値の目安として扱われるのが一般的です。

ところで、なぜ「PBR=1倍」が下値の目安なのでしょう？

それは、1株当たり純資産は、「解散価値」とも呼ばれ、仮にその会社が解散・清算したときに、理論上、株主に戻ってくる金額を表しているからです。

つまり、PBRが、1.0倍を下回っているなら、理論上、会社の解散価値を下回っていることとなり、仮に会社が解散した場合、投資した金額以上のものが、株主に配分されることになります。

したがって、解散価値を株価が下回る、すなわちPBRが1倍を割り込むということは、理論上株主が受け取れる金額より低い価格でその会社の株を買うことができる状態にあるといえますので、「株価は割安」という評価がなされます。

計算式は以下のようになります。

$$\text{PBR(倍)} = \frac{\text{株価}}{\text{BPS}}$$

BPSとは、「一株あたりの株主資本」といいます。

BPSは、「会社の純資産」÷「発行済み株式数」で求められます。

つまり、市場で1000円の値段が付いているのに、BPSが900円であれば、900円で会社を買収して、1000円で売り払えば、理論上、利益が出るということです。

しかしあくまで、理論上の価格であり、市場で売買されている価格は、別物だとお考えください。

では、PBR=1倍割れなら、どんな銘柄でも買って良いのかといえば、一概にそうとも言えないのが現状です。

PBRが、1.0倍を割り込んでいるということは、その会社の会計上に、何か問題があると考えられるからです。

通常、市場で取引されている銘柄は、「先々、利益が出るだろう」という期待値で買われていますので、「プレミアム」が付いているため、PBRが、1.0倍を超えても買い手が付くわけです。

しかし、PBRが、1.0倍を割って推移しているということは、市場では「ディスカウント」の状態であるということになるのです。

例えば、アウトレットで、ブランド物を買う場合、市場で流通しているものより、安い価格で買うことができますが、なぜ安いかといえば、去年の製品だったり、傷がついていたり、など、どこかに問題があるわけです。

株式市場で言えば、

- ・赤字が続いており、純資産を食いつぶしている。
- ・会計上、簿外債務が疑われている。
- ・業務内容に対して、発展性が薄く、人気がない

など、PBRが、1.0倍を割り込んでいるには、それなりの理由が背後にあるのです。たとえば、ジャスダックに上場している、A. Cホールディングス(1783)の財務状況を見てみましょう。

年月	【資本異動】	万株	【株式】 1/31 424,428千株		
05.10	三者1.6億株 (68円)	32,442	単位1000株 [優待] 時価総額 72.1億円		
06.1	減資	32,442	【財務】 <連07.9> 百万円		
06.8	三者1億株 (50円)	42,442	総資産 15,973		
JQ	高値	安値	株主持分 14,431		
95-04	1670(95)	14(03)	株主持分比率 90.3%		
05	146(9)	19(5)	資本金 3,500		
06	85(1)	31(2)	利益剰余金 -3,990		
07	43(1)	10(12)	有利子負債 0		
07.10	高値	安値	出来万株		
11	27	20	4,752		
12	22	14	8,594		
08.1	17	10	4,085		
2	15	9	4,589		
	20	11	7,930		
【格付】	—				
【南野建設採用】	初20.4万円				
予0	内定0(女0) 中途0				
	【キャッシュフロー】	百万円			
	営業CF	-4,543 (-623)			
	投資CF	-2,013 (-7,269)			
	財務CF	-803 (15,488)			
	現金等	3,033 (9,613)			
【業績】	売上	営業利益	経常利益	利益	1株益(円)
単04.9	3,896	-291	-300	-371	-6.5
単05.9	2,669	-483	-528	-519	-6.1
連06.9	4,097	-116	-234	214	0.7
連07.9	4,841	-60	-38	-4,422	-10.6
連08.9予	5,800	410	450	940	2.3
連09.9予	6,500	500	550	500	1.2
中07.9	2,225	104	290	266	0.6
中08.3予	2,900	205	225	470	1.2
四06.10-12	900	26	34	13	0.0
四07.10-12	1,208	8	28	328	0.8

会社の業績は、ずっと経常赤字で、キャッシュフローの状態は極めて悪い状況が続いています。

一株あたり利益も、マイナスなので、実績PERは計算できません。

株価は17円(2008年2月29日現在)で、PBRは、0.5倍と、理論上でいえば、純資産価格の半分ということになります。

株主持分は、90.3%と以上に高く、有利子負債がゼロとなっています。

これだけ見れば、「この会社は安全じゃないの?」って、思ってしまうかもしれません。

しかし、利益剰余金は、マイナス39億9000万で欠損金が膨らんでいます。

有利子負債がゼロとなっているのは、この会社は危険すぎて、借入れができないと考えるのが正しいと思います。

現状では、会社の資産を切り売りして、会社を存続させているだけの状態です。

株価も下の図のように、安い値段で停滞しているからです。



したがって、PBRが異常に低い場合、このように会社そのものに問題があることを先ずは、疑ってください。

ただ、通常は黒字体質ですが、リーマンショックのような、突発的な理由で、PBRが 1.0 倍を割り込んだという場合は、経済状況が戻ることで、収益が上がってくるのが想定されるため、「割安」という判断をして構わないと思います。

この章で説明してきたように、財務的に問題が無く、利益水準も極端に悪くない状況で、PBRが1.0倍を割り込んでいるなら、どこかのタイミングで、「見直し買い」が入る可能性は十分にあるので、PBRが1.0倍を割り込んでいる会社には、やはり、注目しておくことをお勧めします。

9. ROE(株主資本利益率)をチェックする

ROEとは株主資本を使って、どれだけ利益を上げたかを見る指標です。

外資系証券会社は、この「ROE」の高い会社を好んで、株式を買う傾向にあります。なぜなら、株主の出資したお金で、どれだけ効率良く、利益を上げているかということを示すため、この数字が高いほど、株主にとってメリットがあるからです。

計算式は、以下のようになります。

$$\text{ROE(\%)} = \frac{\text{当期純利益}}{\text{株主持分}} \times 100$$

この数字が高い企業ほど、株主資本からの収益性が優れていると判断されます。なぜなら、当期純利益が膨らめば膨らむほど、ROEの数値は上昇することになるからです。

会社の安全性が高く、業績も良く、キャッシュフローも潤沢であれば、それだけ、株主にとっては、運用効率が高くなるため、人気になりやすいのです。

では、ROEは、どのくらいの数字だと効率的に稼いでいるということになるのでしょうか。市場のコンセンサスは、「10%以上」が、望ましいといわれています。

しかし、数式の関係から、負債部分を増加させると、ROEの数字も高くなってしまいますので、この指標だけでは判断してはいけません。

前期、前々期からみて、その企業の有利子負債が極端に増えていないかをチェックする必要があります。

丸紅(8002)の会社四季報、財務欄を見てください。

【株式】	1/31	1734916千株	
単位	1000株		[貸借]
時価総額	14,070億円	[225]	
【財務】	<◎中07.9>	百万円	
総資産	5,308,536		
株主持分	821,046		
株主持分比率	15.5%		
資本金	262,686		
利益剰余金	367,079		
有利子負債	2,670,836		
【指標等】	<◎07.3>		
ROE	16.0%	予17.9%	
ROA	2.4%	予2.8%	
調整1株益	68.8円		
最高純益(07.3)	119,349		
設備投資	..億	予..億	
減価償却	1,011億	予..億	
研究開発	..億	予..億	
【キャッシュフロー】	億円		
営業CF	1,520	(1,334)	
投資CF	-1,351	(-1,937)	
財務CF	248	(-460)	
現金等	4,149	(3,689)	

・ファンダメンタルズ分析とは・・・

ファンダメンタル分析とは、景気の動向や、会社の財務諸表、提供するサービスの需要、成長性など、様々な観点から、投資価値の分析を行なう手法です。

ファンダメンタルズ分析から、現在の株価が割安である、若しくは、まだまだ企業活動が成長するというのであれば、その企業の株を買う価値はあります。

反対に、現在の株価が割高と判断されたり、企業の売上、利益水準が横ばい、または下降に転じたり、経済活動が鈍化すると判断されれば、株を売ることを考えなくてはなりません。

これを見ると、ROEは16.0%と、非常に高いことが分かります。

しかし、問題があります。

株主持分比率は、15.5%しかないということです。

株主持分が少ないと、それだけ有利子負債を抱えていることになります。

先ほどの計算式では、「当期純利益÷株主持分」で計算されますので、

結果、ROEが嵩上げされることが起こるのです。

丸紅の直近の有利子負債の額は、2兆 6708 億 3600 万円もあります。
高ROEを演出しているのは、この有利子負債の大きさということが読み取れます。

いくらROEが高くても、会社の安全性に疑問があるなら投資対象から外すべきでしょう。

ROEは、短期間で上下するので、常に定期的にチェックしておいてください。

10. ROA(総資産利益率)をチェックする

先ほどのROE(株主資本利益率)は、借金の額を大きくすれば、嵩上げできるという
問題点がありました。

したがって、リスクが高まるというデメリットがあります。

これから説明する、「ROA(総資産利益率)」は、会社の資産に対して、どれだけ儲けを
出しているかという指標です。

「ROA(総資産利益率)」は、当期純利益を、総資産で割るため、借金などで数字が大きく
変わることを防ぐことができます。

したがって、「ROE」と、「ROA(総資産利益率)」の二つを見比べ、そのバランスを
よく見ることが望ましいでしょう。

計算式は、以下のようになります。

$$\text{ROA}(\%) = \frac{\text{当期純利益}}{\text{総資産}} \times 100$$

ROEと、ROAの比率はどれくらいが良いのか、一概には言えません。
計算式から言えば、ROEより、ROAの数値が低くなるのは当然です。

しかし、やはり何らかの基準が欲しいですね。

ひとつ、私の見方をご紹介します。

下記の指標は、日本電産(6594)の、ROE, ROAです。

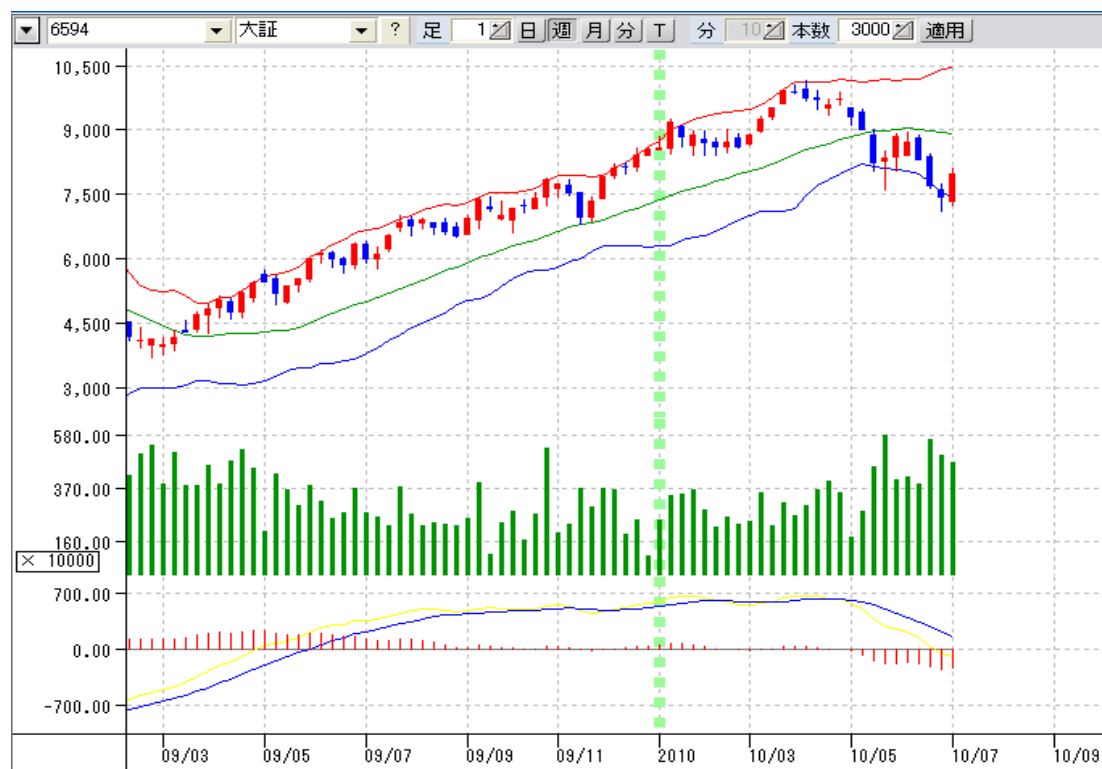
日本電産は、自他共に認める優良企業で、外資系証券会社にも人気のある会社です。

2010年3月期は、ROE=15.3%、ROA=7.5% となっています。

【指標等】	<◎10.3>		
ROE	15.3%	予18.5%	
ROA	7.5%	予9.1%	

(出所: 楽天証券マーケットスピード)

下のチャートは、2009年3月以降における、日本電産の週足株価です。



<出所: 松井証券 ネットストックハイスピード>

2009年3月、株価 4000 円から、2010年4月には1万円を超えてきました。

1年で2倍以上、株価は上昇しました。

つまり過去、このように株価が上昇したときの、ROE、ROAの数値を参考にするのです。

日本電産の場合・・・

- ・ROEは、15%前後
- ・ROAは、7%前後
- ・ROEとROAの比率は、1:0.5 というのが参考数値として分かります。

業種によって、様々ですので、過去、株価が大きく上昇した銘柄を見つけ、当時のROE、ROAを参考数値として、活用してみたいかがでしょうか。

ただし、これは私の個人的見解であることは、申し述べておきます。

《 第五章まとめ 》

1. どうやって、「銘柄」を選ぶのか？

銘柄を選ぶには、「ファンダメンタルズ分析」と、「テクニカル分析」の両方を上手く活用することが重要です。

2. まず、会社四季報を買う

企業分析に便利なツールとして、「会社四季報」というものを活用します。書籍版と、CD-ROM版がありますので、お好きな方をお買い求めください。

3. 会社を見る上で、重要な「財務三表」

財務三票とは、「貸借対照表」、「損益計算書」、「キャッシュフロー計算書」の3つを言います。企業分析において、必ず目を通す財務諸表です。

4. 会社の安全度をチェックする

一番、簡単な方法は、「株主持分比率」を見ることです。「株主持分比率」とは、資産に対して、資本がどのくらいの割合かを見る指標です。

5. 会社の業績をチェックする

「売上」、「営業利益」、「当期純利益」が順調に伸びているかをチェックします。あくまでも本業での売上、利益を得ているかを重要視します。

6. EPS(一株利益)をチェックする

「一株あたり利益」が、毎期、順調に伸びているということは、配当が増える可能性が高くなりますので、その期待から、株を買ってくる投資家が多くなると予想されますので、株価は必然的に上昇することになります。

7. PER(株価)収益率)をチェックする

現在の株価が一株利益に対して、何倍まで買われているかを表します。あと、重要なことですが、「当期純利益」が赤字の場合、PERの算出はできません。

8. PBR(株価純資産倍率)をチェックする

PBRが、1.0倍を割って推移しているということは、市場では「ディスカウント」の状態です。PBRが、1.0倍を割り込んでいるには、それなりの理由が背後にあるのです。

9. ROE(株主資本利益率)をチェックする

ROEが高い場合、有利子負債、株主持分比率も同時にチェックします。ROEの数値が、異常に高い場合は、要注意です。

10. ROA(総資産利益率)をチェックする

「ROA(総資産利益率)」は、当期純利益を、総資産で割るため、借金などで数字が大きく変わることを防ぐことができます。過去、株価が大きく上昇した銘柄を見つけ、当時のROE、ROAを参考数値として、活用してください。

【 memo 】

第六章 テクニカル分析

1. テクニカル分析とは・・

今、個人投資家にもっとも人気のある分析方法は、「テクニカル分析」です。

これまで解説してきた、「ファンダメンタルズ分析」は、会社の財務三表をもとに分析するため、会計用語が良く出てくることで、「アレルギー」を起こしてしまいがちです。

「テクニカル分析」は、株価チャート(グラフ)のパターンで、売り買いのポイントを見つけようとする手法です。

また、最近ではコンピューターの性能のアップや、証券会社などが提供する、株価チャート用のソフトが充実したことで、一気に個人投資家の市民権を得ました。

「短期売買」をしている個人投資家のほとんどは、この「テクニカル分析」によって、売買の判断を行なっているものと思われます。

私は、先述の「ファンダメンタルズ分析」と、「テクニカル分析」の長所を上手く取り入れ、互いの分析方法をミックスさせ、売買の判断を行なうことを薦めています。

「テクニカル分析」も、「ファンダメンタルズ分析」同様、万能ではありません。
「テクニカル分析」は、過去のグラフを見ると一見、万能のように見えますが、決してそうではありません。

したがって、あくまでも「参考程度」として、考えるべきです。

「テクニカル分析」について、「あの分析方法は、占いと同じようなものだ。」という、プロの投資家もいらっやいます。

しかし、基本的な知識を得、過去の株価の値動きをたくさん見ることによって、一定の「パターン」が存在していることは間違いありません。

「テクニカル分析」を上手く使いこなす “コツ”は、いかに早く、自分に合ったパターンを

見つけられるかにかかっています。

そして、最大の“コツ”は、「シンプルに考える」ということです。

2. チャートの基本を知る

では、これから株価チャートの基本について解説していきます。

株価チャートとは、過去の株価を見やすく表したグラフのことです。

実際のチャートを見てみましょう。



上記は、東京株式市場の代表的な指標で日経平均株価のチャートです。

よく、ニュースで、「本日の日経平均株価は、上昇しました」というコメントを耳にされると思います。

日経平均とは、日本の代表的な会社を 225 銘柄の平均的な株価という理解で構わないでしょう。

どのように算出されるかということについては、株で儲けることと関連性は薄いので割愛させていただきます。

お知りになりたい方は、インターネット上にたくさん出てきますので、そちらでご確認ください。
日本で使われる、「テクニカル分析」のほとんどが、「ローソク足」と呼ばれるグラフを使用しています。

では、「ローソク足」とは、どのようなものでしょうか。

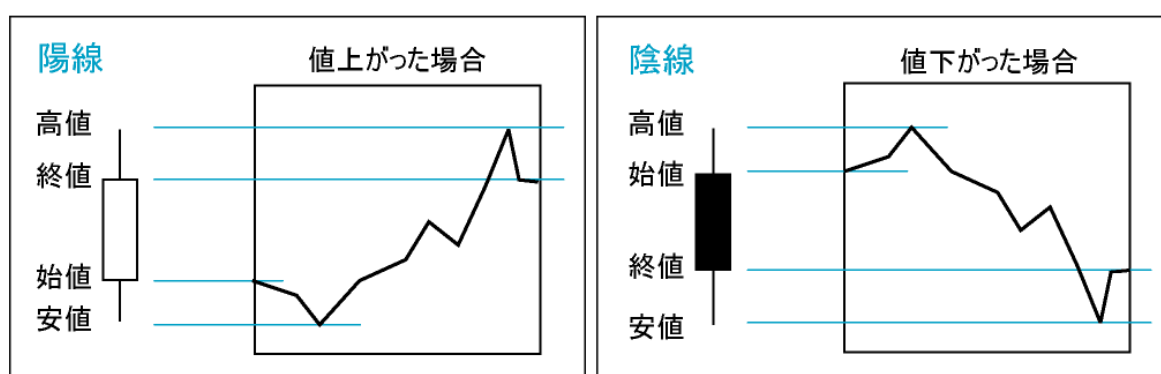
3. ローソク足とは？

チャートを構成している長方形と線を組み合わせたものをローソク足といいます。

ローソク足は、1日の株価推移を表したものを「日足」、1週間の場合は「週足」、1ヶ月の場合は「月足」と呼びます。

また、5分で構成されれば、「5分足」、10分なら「10分足」とどの時間帯で構成されるかで、その呼び方が変わります。

値上がりした日のローソク足を「陽線」、値下がりした日は「陰線」と呼びます。



つまり、「陽線」が連続して多く出ているなら、株価は、上昇しており、「陰線」が連続して多く出ているなら、株価は下落しているといえます。

上記の日経平均株価のチャートを見ていただければ、おわかりにいただけると

と思いますが、株価が上昇しているときは「陽線」が連続して多く出ていますし、株価が下落しているときには、「陰線」が連続して多く出ています。

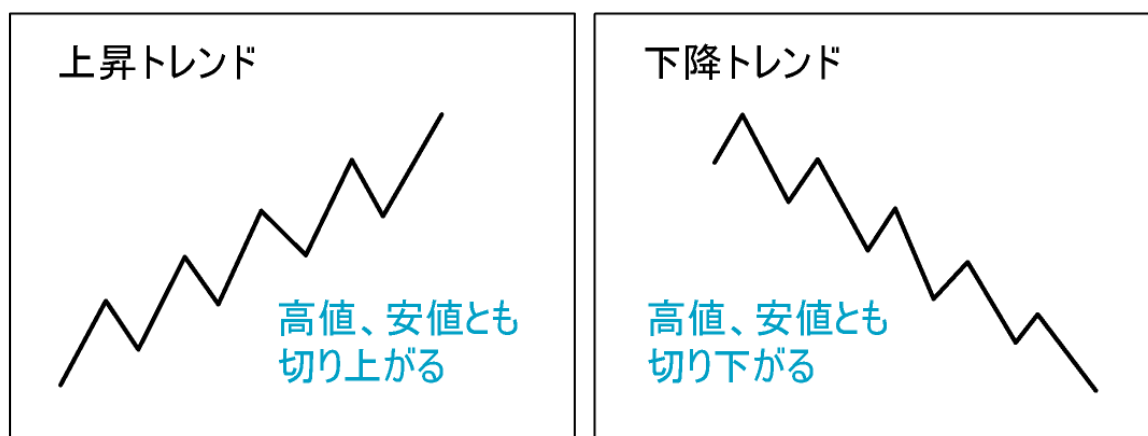
4. 株価のトレンドの定義とは？

私が、「テクニカル分析」において、最も信頼しているのが、「トレンドライン」と呼ばれるものです。

その前に、株価の「トレンド」について、定義付けしておきたいと思います。

(株価のトレンドの定義)

- 上昇トレンド = 高値、安値とも切り上がる状態
- 下降トレンド = 高値、安値とも切り下がる状態



まずは、上記の「トレンドの定義」を、覚えてください。

当たり前ですが、株式を買う場合、これから「上昇トレンドを形成する銘柄」、若しくは「上昇トレンドが継続する銘柄」が望ましいわけです。

保有している銘柄が、上昇トレンドから、下降トレンドに転換したと思われたら、一旦、株式を売らなければなりません。

その判断材料のひとつが、「トレンドライン」と呼ばれるものです。

使い方は、いたってシンプル！

しかも、判断しやすく、間違っただ判断が少ないのが特徴です。

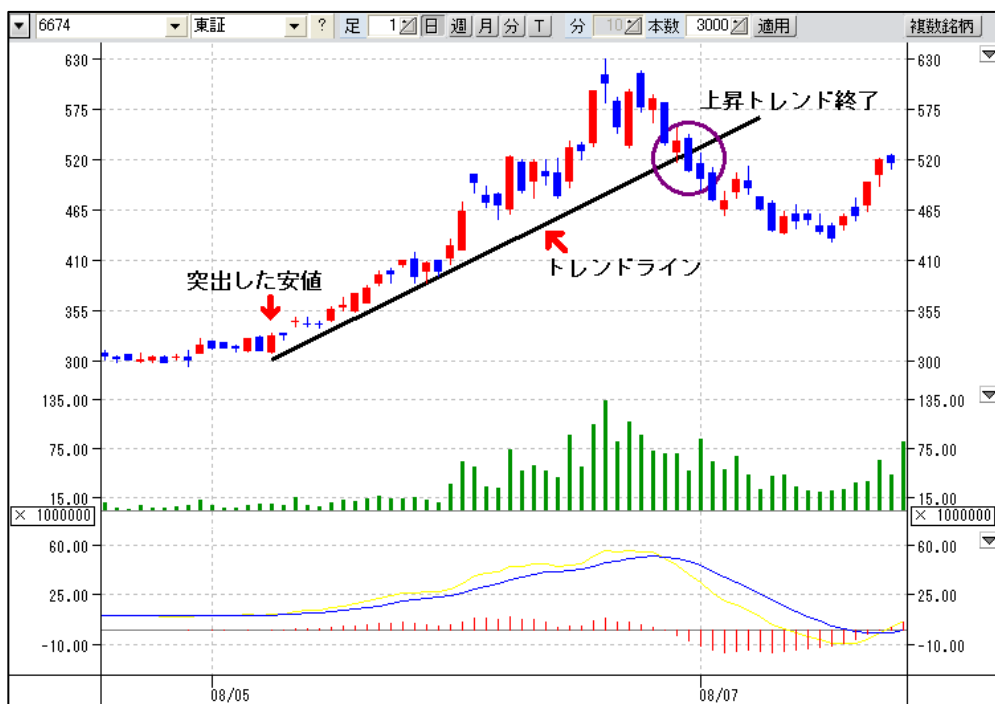
5. トレンドラインの使い方

では、トレンドラインの使い方について説明します。

下記のチャートは、GS ユアサ(6674)の株価チャートです。

電気自動車用のバッテリーを作る会社で、環境関連として注目されました。

株価は 300 円から、2ヶ月で2倍以上急騰します。



<出所: 松井証券 ネットストックハイスピード>

《株価上昇時のトレンドラインの引き方》

- ・突出した「安値」を基点とします。
- ・その基点から、各ローソク足の「下」の部分が、大まかに触れるように、斜め上に線を引いていきます。(すべてのローソク足が触れなくても結構です)
- ・マルで囲っているように、トレンドラインを株価が割り込んできたら、上昇トレンドは、一旦終了。

では次に、下降トレンドの例を見てみましょう。

以下のチャートは、東芝(6502)のチャートです。
株価は、2010年5月の高値から、下落を続けています。



<出所: 松井証券 ネットストックハイスピード>

《株価下落時のトレンドラインの引き方》

- ・突出した「高値」を基点とします。
- ・その基点から、各ローソク足の「上」の部分が、大まかに触れるように、斜め下に線を引いていきます。(すべてのローソク足が触れなくても結構です)
- ・マルで囲っているように、トレンドラインを株価が超えてきたら、下降トレンドは、一旦終了。

非常に、シンプルですね。

「テクニカル分析」は、複雑にしようと思えば、いくらでも複雑にすることができます。また、複雑にすれば、すごく機能するように思ってしまうのも、この分析方法の特徴です。

しかし、複雑な「テクニカル分析」は、再現性に乏しく、実際には、機能することは稀です。したがって、「テクニカル分析」は、極力、シンプルにするというのが重要です。

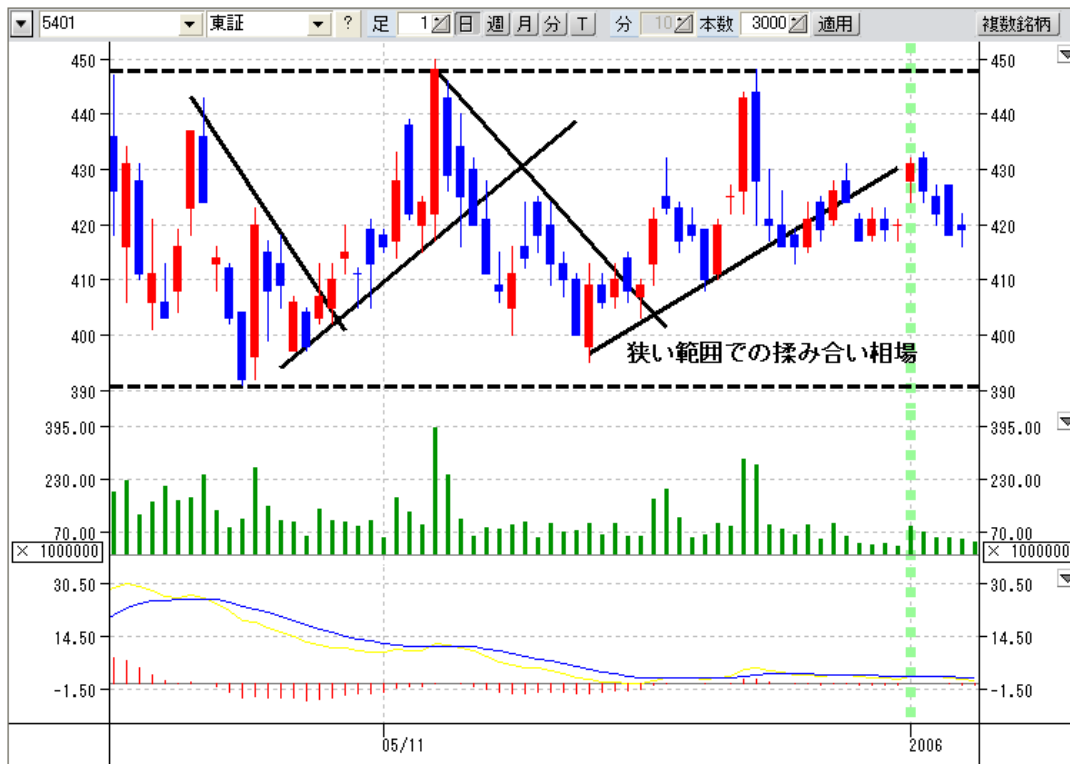
《揉み合い相場》

以下、新日鉄(5401)の株価ですが、狭い範囲で行ったりきたりする相場展開のことを「揉み合い相場」と呼びます。

つまり、株価がほとんど動かない状態のことです。

このようなときに、トレンドラインを引くと、以下のように、ぐちゃぐちゃになります。

この状態になれば、「揉み合い相場」だと判断すべきでしょう。



<出所: 松井証券 ネットストックハイスピード>

6. 移動平均線とは ?

チャートに描かれている線が移動平均線です。

移動平均線には、いくつか種類がありますが、ここでは、ごく一般的な、「単純移動平均線」を使って解説していきます。

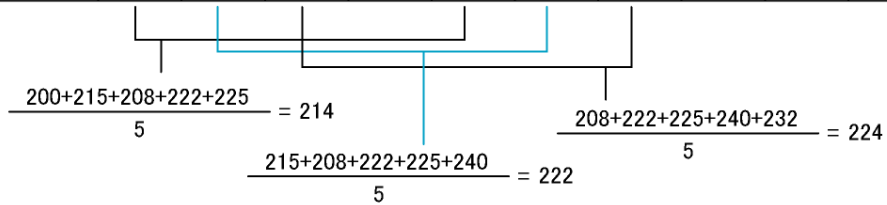
移動平均線とは、過去の一定期間の終値の平均値をつなぎ合わせて線にしたものです。

5 日間の終値の平均値を繋げて線にしたものは 5 日移動平均線、13 週間の終値の平均値を繋げて線にすれば 13 週移動平均線になります。

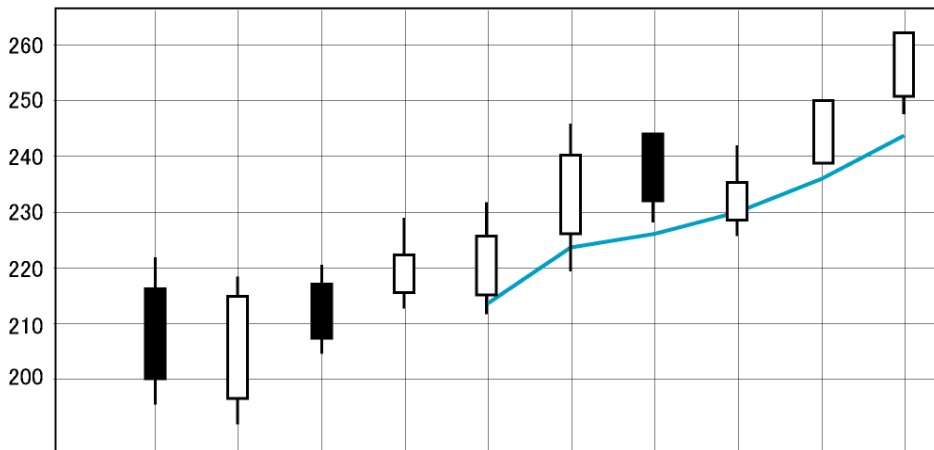
日足のチャートには日移動平均線、週足の場合は週移動平均線、月足の場合には月移動平均線が表示されます。

5日移動平均線の出し方

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
株価 (終値)	200円	215円	208円	222円	225円	240円	232円	235円	250円	262円



	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
5日移動 平均値	-	-	-	-	214円	222円	224円	230円	236円	244円



ローソク足と移動平均線を理解することがチャートの基礎になります。

7. 移動平均線の使い方

では、移動平均線の使い方について、解説していきましょう。

下記のチャートは、トヨタ(7203)の株価です。

使うのは、「5日移動平均線」と、「25日移動平均線」です。



上のチャートをみていただくとお分かりのように、株価が移動平均線を上に抜けると株価は、しばらく上昇し、移動平均線を割り込むと、株価はしばらく下落していく傾向にあります。

ですが、移動平均線は、終値の平均値をグラフ化しているため、どうしても、「遅行性」を排除することができません。

相場の振幅が大きいときは、うまく機能しますが、先ほど紹介した「揉み合い相場」の場合は、まったく機能しませんので、注意してください。

《移動平均線の「ゴールデン・クロス」と「デッド・クロス」とは》

移動平均線の「ゴールデン・クロス」と「デッド・クロス」とは、長期移動平均線と、短期移動平均線を組み合わせて、売り買いのタイミングを図ろうとする、ひとつの戦略です。

使い方は、いたって簡単で・・・

- ・長期移動平均線を、短期移動平均線が上に抜ければ「買い」
- ・長期移動平均線を、短期移動平均線が下に抜ければ「売り」

ということになります。

では、先ほど紹介した、トヨタ(7203)の株価で見てください。

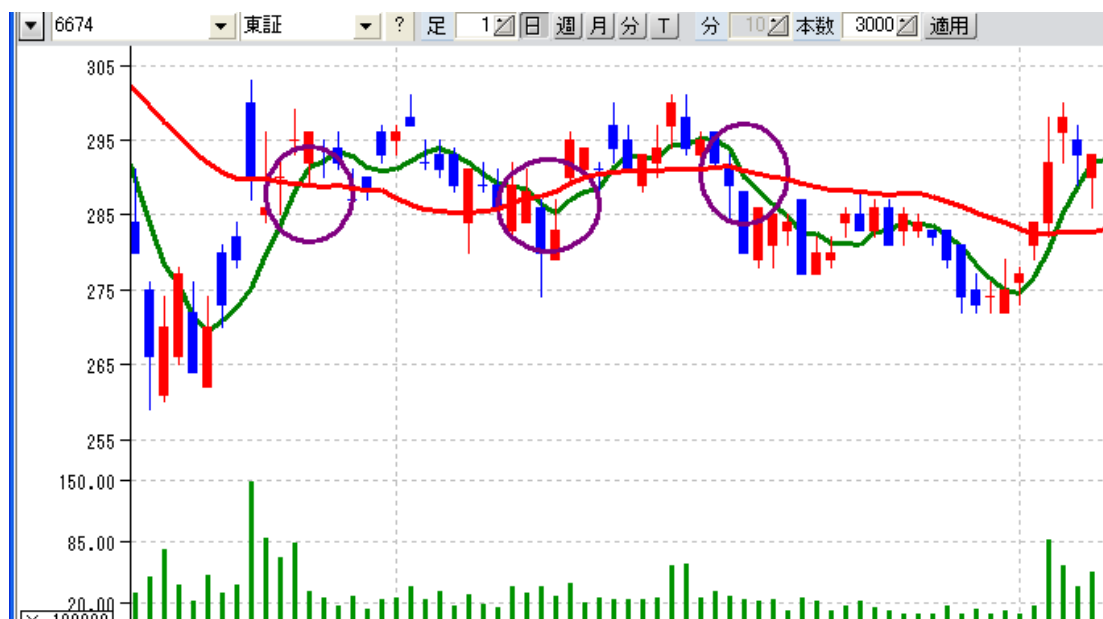


ゴールデン・クロス後、株価はしばらく上昇し、デッド・クロス後、株価はしばらく下落しているのがわかりいただけだと思います。

しかし、先ほども述べたように、移動平均線は、「遅行性」を排除することができません。相場の振幅が大きいときは、うまく機能しますが、先ほど紹介した「揉み合い相場」の場合は、まったく機能しません。

以下は、GS ユアサ(6674)の株価です。

ちょうど、「揉み合いパターン」に入っているとき、株価の動きに遅れて、「ゴールデン・クロス」と、「デッド・クロス」を繰り返します。



このような場合、この戦略は上手く機能しません。

しかし、株価が大きく上昇、または下落する動きのケースは、上手く機能します。

証券会社に口座を開きますと、このようなチャートソフトを無料(有料の場合もあります。)で使うことができます。

過去に遡って研究することができますので、ぜひ、いろいろな銘柄について、楽しんで研究してみてください。

8. 出来高分析

出来高とは、取引が成立した株数のことです。

「出来高が多い」とは、大量に取引があったことで、「出来高が少ない」とは、取引量が少なかったということです。

株価チャートでは、必ず、出来高を示すグラフが存在します。

ほとんどの場合、縦の棒グラフで表示されます。

では、この出来高を、どのように分析するかを解説します。

下のチャートは、GS ユアサ(6674)の週足のチャートです。



株価が上昇するときは、人気となっているため株式を買う投資家が急増します。

そのため必然的に売買される株数は増えるため、出来高も急増します。

そして、株価がピークをつけるときに、出来高もピークに達します。

その後、株価は徐々に下げ始めると、出来高も減少傾向になってくるのです。

株価が上昇するとき、ほとんどのケースで出来高が増加します。

高値では、「株価はもっと上がる」と期待する投資の数がピークに達し、買いを入れてきます。

そして、安値から買っていた、プロの投資家が、一気に売り抜けてきます。

したがって、このように「出来高が急増」して、相場は転換点を迎えるのです。

では、次に、逆のパターンを見てみましょう。

下のチャートは、日立(6501)の週足のチャートです。

株価は高値のピークを付けた後、下落を続けてきましたが、下落がピークに達すると、以下の図のように出来高もピークに達します。

そして、その後は、株価は上昇に転じているのが、お分かりいただけるとと思います。



これは、先ほどのケースとまったく逆の現象が起きています。
 高値で買っていた投資家は、日立の株が下がれば、どんどん含み損が拡大してきます。
 含み損の耐えられなくなってきた投資家は、一気に損切りに動きます。

プロの投資家は、投げ売りしてきたところを見計らって、安値で株を大量に買い込みます。
 したがって、出来高もピークを付けるのです。
 投げ売り後は、当然、株を売る人が少なくなるため、出来高が減少しても、株価は戻ってきます。そして本格的な上昇局面では、ふたたび、出来高は増加します。

すべてのケースでこのようになるわけではありませんが、これが一般的な出来高分析ですので、このことは、しっかり覚えてください。

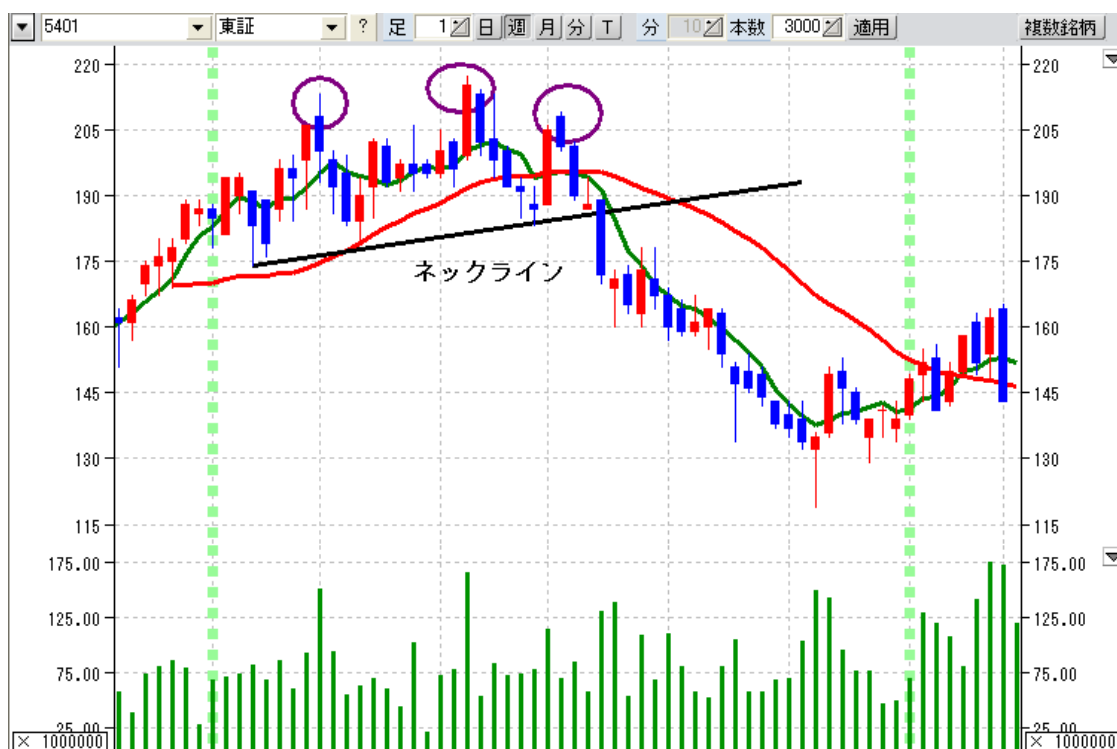
9. 天井圏のパターン

これからは、「テクニカル分析」での、株価が天井圏でよく見られるパターンについてご紹介していきます。

《ヘッド・アンド・ショルダー》

人間の「左肩・頭・右肩」のように見えることが、名前の由来だそうです。
「三尊天井」とも呼ばれます。

特徴は、真ん中に一番高い価格があり、その両側に、同等の高値があるパターンです。
そして、図の中の「ネックライン」とは、この高値を付けたときの、安値を結んだラインです。



<出所: 松井証券 ネットストックハイスピード>

上記は、新日鉄(5401)の週足チャートです。
マルで囲ったのが、「ヘッド・アンド・ショルダー」を形成する高値です。

このように、高値を抜けそうで抜けない場合、新日鉄を保有している投資家は、できるだけ有利な価格で売り抜けようと考えます。
しかし、最後は力尽き、「ネックライン」を割り込むと同時に、投資家はどんどん売ってきますので、下落にスピードが加わります。

注目していただきたいこととして、「ネックライン」を割り込む位置では、移動平均線も近い位置にあることが見て取れます。

つまり、この位置には、投資家の力の均衡点が存在するということです。
均衡点が決壊すれば、株価は決壊した方向に、スピードを上げて進む性格を持っているのです。

《ダブルトップ》

二つの重要な高値があることから、「ダブルトップ」と呼ばれます。
これも、株価の天井圏でよく見られるパターンです。

GS ユアサ（6674）の週足チャートです。



<出所: 松井証券 ネットストックハイスピード>

一度ピークを付けた株価は、利益確定の売りもあり、一旦下がります。
しかし、再び急速に株価は戻ります。

ただ、前回付けた高値を抜くことができなかつたため、株を持っている投資家は不安になります。

結局、ネックラインを下に割り込み、投資家はどんどん売ってきますので、下落にスピードが加わります。

ここでも、「ネックライン」を割り込む位置では、移動平均線も近い位置にあることが見て取れます。

ここが投資家の力の均衡点になります。

均衡点が決壊した株価は、スピードを上げて下落していくことになります。

すべてのケースでこのようになるわけではありませんが、ぜひ、ご自身でもたくさんのチャートを見て、研究してみてください。

【 memo 】

10. 底値圏のパターン

これから、「テクニカル分析」での、株価が底値圏でよく見られるパターンについてご紹介していきます。

《逆ヘッド・アンド・ショルダー》

DIC(4631)の週足チャートです。



<出所: 松井証券 ネットストックハイスピード>

上記の、「ヘッド・アンド・ショルダー」と、まったく逆のパターンです。

特徴は、真ん中に一番安い価格があり、その両側に、同等の安値があるパターンです。

そして、図の中の「ネックライン」とは、この安値を付けたときの、高値を結んだラインです。

これは、長期間にわたって、金融機関、ファンド勢が、下値で買いを入れてきていることが

想像できます。

この銘柄に「空売り」(株価が下がれば儲かる手法)を仕掛けている投資家が、何度か、安値を割ろうとしましたが、結局、底割れすることなく、空売り筋の買戻し(空売りのポジションの手仕舞い)から始まり、新たな買い手も参戦し、株価が上昇するパターンです。

やはり、「ネックライン」を超えた瞬間、株価の上昇にスピードがついてきています。

やはり、ネックライン近くでは、移動平均線が集中しています。

この「ネックライン」付近で、売り手と買い手の力関係が逆転していることが想像できます。

このようなパターンを見つけたら、需給の逆転現象が起きることを想定してみます。

《ダブルボトム》

二つの重要な安値があることから、「ダブルボトム」と呼ばれます。

下記、ソニー(6758)のチャートです。



これも、「ダブルトップ」と、まったく逆のパターンです。

一度安値を付けた株価は、「空売り」の買戻しもあり、若干、買いが入りますが、株価が戻ったところを、すかさず、損切りの売りが出てきて、また下がります。

そして、買い手はこの下げ買いに回り、出来高が増加し、株価は底打ちし、ネックラインを超えたところから、上昇に勢いがついてきます。

ここでも、「ネックライン」を割り込む位置では、移動平均線も近い位置にあることが見て取れます。ここが投資家の力の均衡点になります。

均衡点が決壊した株価は、スピードを上げて上昇していくことになります。

これ以外にも、パターンは存在しますが、この代表的な、「天井圏」、「底値圏」のパターンを覚えておいてください。

このテキストは、株式投資初心者向けに作成しています。

したがって、初歩的な「テクニカル分析」のパターンのみ、ご紹介しています。

テクニカル分析は、とても多くの分析方法がありますので、その他についての分析方法については、また、別の機会でご紹介させていただきたいと思います。

また、いち早く多様なテクニカル分析の方法をお知りになりたい方は、書籍でいろんなものが出ていますので、まずは、理解しやすい書籍で勉強してください。

《 第六章のまとめ 》

1. テクニカル分析について

テクニカル動きは、一定の「パターン」が存在していることは間違いありません。「テクニカル分析」を上手く使いこなす“コツ”は、いかに早く、自分に合ったパターンを見つけるようにします。

2. チャートの基本を知る

日本では、「テクニカル分析」のほとんどが、「ローソク足」と呼ばれるグラフを使用しています。

3. ローソク足とは？

チャートを構成している長方形と線を組み合わせたものをローソク足といいます。株価が上昇しているときは「陽線」が連続して多く出ていますし、株価が下落しているときには、「陰線」が連続して多く出ています。

4. 株価のトレンドの定義とは？

上昇トレンドとは、「高値、安値ともに、切り上がる状態」を言い、下降トレンドとは、「高値、安値ともに切る下がる状態」を言います。

5. テンドラインの使い方

上昇トレンドの場合、ローソク足の下部を結んでトレンドラインを引きます。下降トレンドの場合は、ローソク足の上部を結んで、トレンドラインを引きます。

6. 移動平均線とは？

移動平均線とは、過去の一定期間の終値の平均値をつなぎ合わせて線にしたものです。5日間の終値の平均値を繋げて線にしたものは5日移動平均線、13週間の終値の平均値を繋げて線にすれば13週移動平均線になります。

7. 移動平均線の使い方

株価が移動平均線を上に抜けると株価は、しばらく上昇し、移動平均線を割り込むと、株価はしばらく下落していく傾向にあります。

移動平均線の「ゴールデン・クロス」と、「デッド・クロス」とは、長期移動平均線と、短期移動平均線を組み合わせて、売り買いのタイミングを図ろうとする、ひとつの戦略です。

- ・長期移動平均線を、短期移動平均線が上に抜ければ「買い」
- ・長期移動平均線を、短期移動平均線が下に抜ければ「売り」ということになります。

8. 出来高分析

出来高とは、取引が成立した株数のことです。「出来高が多い」とは、大量に取引量があったことで、「出来高が少ない」とは、取引量が少なかったということです。

株価がピーク、ボトムをつけるとき、出来高も急増します。

9. 天井圏のパターン

天井圏でよく見かけるパターンは、「ヘッド・アンド・ショルダー」、「ダブルトップ」です。

10. 底値圏のパターン

底値圏でよく見かけるパターンは、「逆ヘッド・アンド・ショルダー」、「ダブルボトム」です。

(memo)

第七章 売買のタイミングを考える

1. 株式を買うタイミングを考える

これまで、証券会社の口座開設、売買スタイル、会社の業績の見方、テクニカル分析の基本などを学んできました。

では、いよいよ、実際の株式売買のタイミングについて、解説していきたいと思います。

より実践的になってきますので、少しむずかしい単語が出てくるかもしれません。
もし理解できなくても、最後まで目を通して、大まかなイメージだけ、掴むようにしてください。

そして、2回目、3回目読むときに、分からない単語があれば、用語集で調べるか、インターネットで検索するなどして、理解を深めるようにしてください。

さて、株式を買う、“絶好のタイミング”とは、一体、どのような時期なのでしょう。

“ズバリ！ 株価が急落して、誰も株を買いたがらない時です。”

2008年のリーマン・ショックのような急落時は、投資家が、株式市場に悲観的になり、連日、ニュース番組で、悲観的な報道がされているときです。

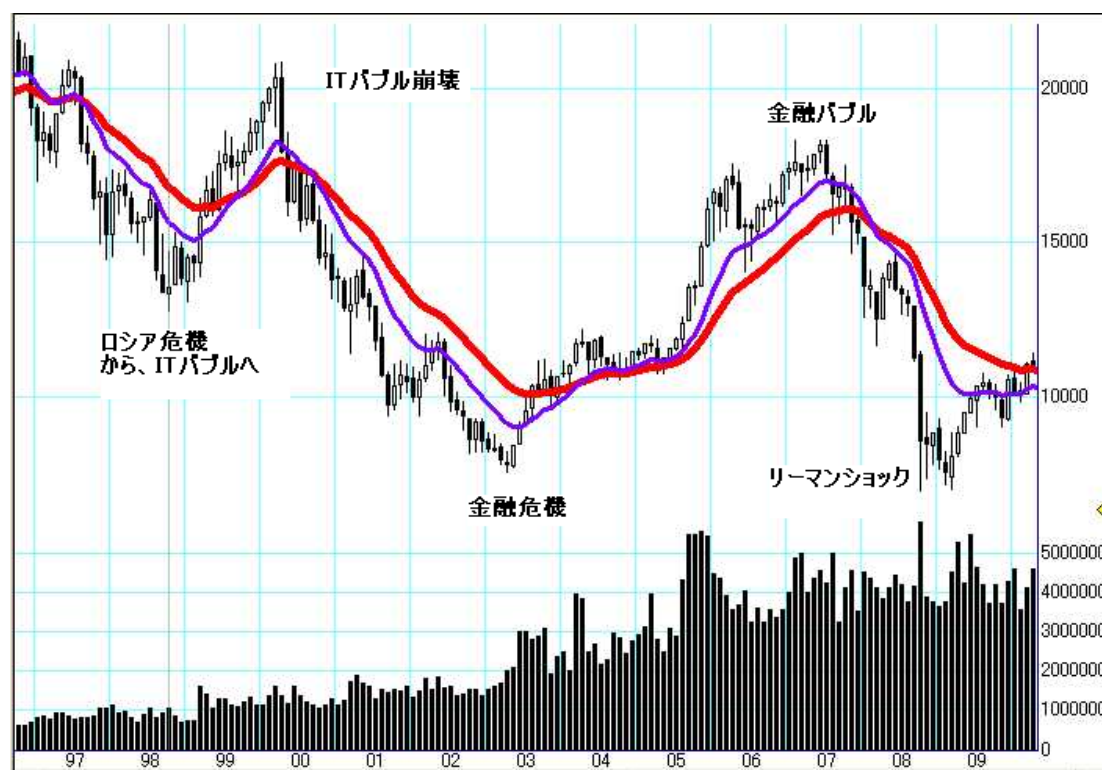
私は、この世界に25年間いますが、1990年の「80年代バブル崩壊」、「アジア通貨危機」、「ロシア危機」、「ITバブル崩壊」、「日本の金融危機」など、たくさんの株価暴落を何度も見ました。

結局は、あのような「ショック安」が、一番、株を買うタイミングだと確信しています。

しかし、周りは「恐怖感」を煽るので、そのようなときに投資をするには、相当な勇気が必要です。

しかし、恐怖感がピークに達したとき、株を買う“絶好のタイミング”だということを、

絶対にわすれないください。



1997年以降の、日経平均株価、月足のチャートです。

1990年代後半は、3年周期で、バブルとバブル崩壊が交互に来ているのがお分かりいただけると思います。

これからも、3年ごとに、バブルが来るかどうか分かりません。

ただ、ひとつだけ言えることは、「急激な株価暴落は、必ず次のバブルを生み出す」ということです。

バブルに巻き込まれれば、投資で成果を出すことは難しいです。

いかに、「バブルを利用できるか」が、大切な考え方なのです。

したがって、“絶好のチャンス到来” が来るまで、ジッと我慢することが大切なのです。周りに雰囲気流されないことが、この世界で成功する要因です。

2. 「順バリ」と「逆バリ」の考え方

株式投資では、よく「順バリ」、「逆バリ」という言い方をします。

では、「順バリ」、「逆バリ」とはどのようなことを言うのでしょうか？

株価は、波のように上下を繰り返しながら、株価のトレンドを作っていきます。

株価が上昇している過程で、買いを入れていくことを「順バリ」といい、

株価が下がっている過程で、買いを入れていくことを、「逆バリ」と呼びます。

どちらが良いのかと言うと、一概には言えませんが、初心者のうちは、「順バリ」で投資することをお勧めしたいと思います。



<出所: 松井証券 ネットストックハイスピード>

「逆バリ」は、タイミングが上手いけば、リスクが高い分、利幅も大きくなりますが、精神的にタフであることが求められますし、資金もある程度、潤沢でなければ、勝ち続けることは難しいでしょう。

「株価は一定期間、トレンドを作る」という、慣性の法則があります。
したがって、「逆・ヘッドアンド・ショルダー」や、「ダブルボトム」のパターンに
なったことを確認して、そこから買いに入り、上昇過程で少しずつ買い増しを
する方が良いと思います。

そして、株式投資に、ある程度、慣れてくれば、「逆バリ」を試してみても良いのでは
ないでしょうか。

「逆バリ」は、急上昇の直後の「急落」を狙います。
急上昇すると、利益を確定したい投資家が殺到し、株価が急落することがよくあります。
しかし、相場が終わっていなければ、その後、再び株価は急騰します。
この「急落直後の急騰」を狙って、買いに入るのです。



<出所: 松井証券 ネットストックハイスピード>

ただし、必ず株価は上昇するとは、限りませんので、思惑が外れれば、すぐに「損切り」を
しなくてはなりません。

このように技術的に難しい部分がありますので、「逆バリ」投資は慎重に行なってください。

3. 日経平均株価は、株式全体のバロメーター

これは、あまり言われていることではありませんが、どんなに業績の好調な会社でも、日経平均株価や TOPIX といわれる株価指数が、大きく上昇、または大きく下落すれば、やはり、株価は同じように、上昇または下落することになります。

* TOPIX とは・・・東証市場第一部全銘柄の時価総額が、基準時の時価総額に比較してどのくらい増えたか減ったか、ということを通じて市場全体の株価の動きを表すものです。

極端なことを言えば、株価指数が、大きく上昇をし続ける局面では、多少、会社の内容が悪くても、株価は上昇することになります。

反対に、「リーマンショック」のような大暴落が起きるときは、どんなに会社の業績が素晴らしい会社でも、株価は大きく下落することになります。

【日経平均株価 月足】



<出所: 松井証券 マーケットスピード>

金融機関のディーリング、ファンドの運用は、ある「一定のルール」に基づいて運用をしています。

各社、また各ファンドによってルールは異なりますが、相場に何か大きな変化が起きたときは、自身のリスクを回避する意味で、持高(保有株)を、増やしたり、減らしたりします。

例えば、「リーマンショック」のような大きな急落があれば、どこまで下落するか分かりません。そのような時、金融機関や、ファンドは、リスクを一定程度に限定させるため、良い悪い関係なく、市場で売却します。

どの金融機関、ファンドも同じような行動を取るので、株価は暴落するわけです。

したがって、「リーマンショック」のような事件が起きたとき、もし手持ちに株式を持っているなら、すぐに売らなければなりません。

また、株を持っていないなら、株を買う大きなチャンスになりますので、ひたすら、買うタイミングが来るまで待ちます。

したがって、日経平均株価、TOPIX など株価指数も株式を見るように、株価の推移は常に確認しておきましょう。

3. 秋の急落は、「買い」、最高の「売り場」は、GW 前

秋の暴落は、「買い」です。

このことは、我々のようなプロは常識となっていますが、個人投資家には意外と知らない人が多いようですので、ここで取り上げることにしました。

過去に起こった、歴史的な暴落を思い出してみます。

- ・ 世界恐慌、「暗黒の木曜日」： 1929 年 10 月 24 日
- ・ 「ブラック・マンデー」史上最大規模の世界的株価大暴落： 1987 年 10 月 19 日
- ・ アジア通貨危機： 1997 年 7 月
- ・ ロシア財政危機： 1998 年 8 月 17 日
- ・ ネットバブル崩壊： 2000 年 4 月⇒2002 年 10 月まで急落
- ・ 米同時多発テロ： 2001 年 9 月 11 日
- ・ リーマン・ショック： 2008 年 9 月 15 日

私が、証券会社に入社した年に、「ブラック・マンデー」が起きました。

このときのことは、鮮明に記憶していますが、ほぼすべての銘柄が「ストップ安ウリ気配」で値段が付きませんでした。

株価ボードは、すべて緑色の横線で表示され、異様な光景でした。
ブラックマンデー以来、あのような光景は、見たことがありません。

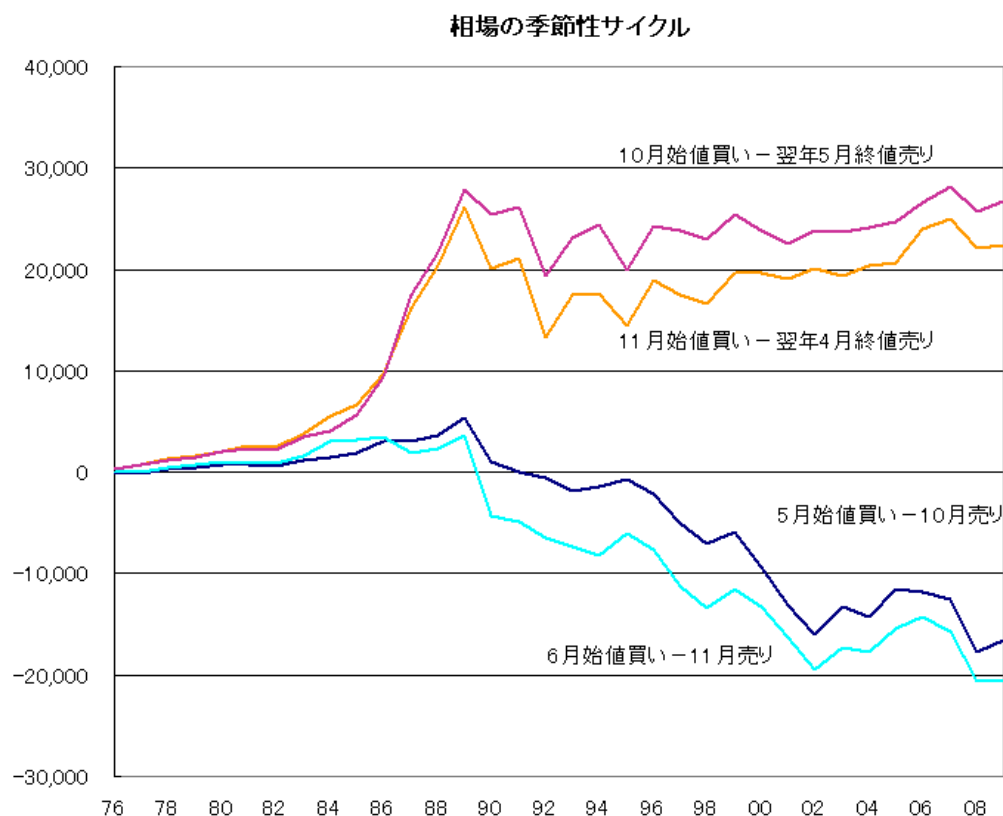
「ブラック・マンデー」が起きたのは、10月下旬、つまり「秋」に起きました。

戦前に起きた、「大恐慌」も同じ時期に起きています。

その他、歴史的な大暴落は、9-11月に起きています。

アジア通貨危機、ロシア財政危機は、夏に起きていますが、その後、株価が急落し、目先、底を打つのは、「秋」です。

そこで、以下のグラフをご覧ください。



このグラフ、私のオリジナルのグラフですが、何を表しているかというと、「いつ、株を買い、いつ株を売れば儲かるのか」ということを、教えてくれるグラフです。

データは、1976年から日経平均株価の値段を採用しています。

計算方法は以下の通りです。(日経平均株価の価格を採用)

(秋に買い、翌年春に売るパターン)

赤線=10月1日の始値で買い、翌年5月の終値で売る。

オレンジ=11月1日の始値で買い、翌年4月の終値で売る。

(春に買い、同年秋に売るパターン)

群青=5月1日の始値で買い、10月の終値で売る。

水色=6月1日の始値で買い、11月の終値で売る。

結果は、一目瞭然です。

「秋に買い、翌年春に売るパターン」が、圧倒的に有利であるという結果が出ています。

これは、秋に株価が急落しやすいという性質を、投資アイデアに組み込んだ結果です。プロ連中の間では、一般的ですが、個人投資家は意外と知らない方が多いので、このアノマリーは、ぜひ覚えておいてください。

売り場については、5月のGW前、又は、6月上旬になります。

どちらが良いかは、その時の相場動向によって変わってくると思いますが、

やはり、GW直前に、一旦、売っておいたほうが無難でしょう。

個人的には、4月26日前後になると思います。

ただ、個別企業の株価では、まったく違ったグラフになります。

上記は、あくまで日経平均株価の場合です。

6. 他の指標を参考に、買う時期を判断する

1年間という期間で、株式を買うのに適しているのは、9-11月ということは、過去のデータが示す通りです。

でも、もう少しそのタイミングの精度を上げたいと思ってるのではないですか。

では、その方法をお教えしましょう。

ここで紹介するやり方は、かなり精度が高く、極めて強力です。

普段、私が使っている手法で、私の後輩の「証券アナリスト」の資格を持っている人間でさえ、効果的な使い方を理解していません。

私がプロ連中に、「相場観」を聞かれるとき、この方法に基づいて、「相場観」を組み立てます。

【 騰落レシオ 】

騰落レシオとは、株式市場全体の動きを見る指標です。

騰落レシオの数値が「120」を超えてくると、相場は過熱していることを示し、「70」前後なら、相場は下落のピークを示します。

時間的な“ズレ”はありますが、信頼性の高い指標です。

騰落レシオの計算式は・・・

騰落レシオ = 値上がり銘柄数(25日合計) ÷ 値下がり銘柄数(25日合計)

で求めます。

5日、6日の合計で算出することもあります。非常に上下が激しくなるので、私は、25日しか使用しません。

歴史的に、「100」を中心として、「55-155」の間で推移しています。

したがって、「60」くらいまできたら、買いの準備を始め、「120-130」になれば

売り抜けるようにします。

以下、騰落レシオのグラフ(25日)です。



<出所：ゴールデンチャート社>

ちょっと小さくて見にくいと思いますので、インターネットで、「騰落レシオ」で検索してみてください。

たくさん出てくると思います。

そして、一度、騰落レシオの「天・底」と、日経平均株価の天底と比べてみてください。

若干、時間的なズレはありますが、タイミングは非常に似通っていることを実感していただけたらと思います。

【 信用取引の評価損益率 】

株式を売買している投資家は、現物取引(現金を支払って株券を買う)だけではありません。保証金を担保に、担保金額より大きい金額 (レバレッジ)で売買する投資家も多く存在します。

特にネット証券で取引をする個人が急増した2003年以降、信用取引を行う個人投資家が急増し、株式投資ブームとなったのは、記憶に新しいですね。

信用取引では、買いコストを時価が上回っているとき⇒「評価益」
 買いコストを時価が下回っているとき⇒「評価損」と呼びます。

これらの「評価益」と「評価損」を合算して、全体での損益がどのようになっているかを算出したものが、「評価損益率」

大体、週一度、日経新聞で発表されますが、今では WEB サイトが充実しているので、そちらで確認したほうが見やすいでしょう。

申込日	売り				買い				評価 損益率(%)	信用 倍率
	株数	前週比	金額	前週比	株数	前週比	金額	前週比		
2016/02/05	735	+30.50	5,591	+15.30	3,777	+76.00	29,330	+215.60	-16.50	5.25
2016/01/29	704	+36.90	5,576	+425.90	3,701	-2.10	29,115	-577.00	-12.81	5.22
2016/01/22	667	+4.50	5,150	-152.30	3,703	-244.10	29,692	-2,346.40	-16.63	5.77
2016/01/15	663	-6.40	5,302	-331.20	3,948	-71.30	32,038	-692.70	-15.52	6.04
2016/01/08	669	-34.40	5,634	-376.70	4,019	+112.20	32,731	+2,120.80	-12.59	5.81
2015/12/30	704	-22.60	6,010	-331.50	3,907	-173.30	30,610	-1,395.10	-8.68	5.09
2015/12/25	726	+14.60	6,342	+67.90	4,080	-2.10	32,005	-458.90	-11.47	5.05
2015/12/18	712	-30.90	6,274	-135.50	4,082	-14.20	32,464	-417.60	-10.27	5.17
2015/12/11	743	-33.30	6,409	-332.70	4,096	+119.40	32,882	+942.40	-8.58	5.13
2015/12/04	776	-11.10	6,742	-338.10	3,977	+65.50	31,939	+1,241.60	-7.74	4.74
2015/11/27	787	-14.50	7,080	-30.00	3,911	+62.10	30,698	+672.70	-8.60	4.34
2015/11/20	802	+27.00	7,110	+292.90	3,849	-109.80	30,025	-1,118.90	-9.32	4.22
2015/11/13	775	+21.00	6,817	+202.70	3,959	+41.80	31,144	+85.80	-9.87	4.57
2015/11/06	754	+8.10	6,615	+229.60	3,917	+18.00	31,058	+55.70	-10.70	4.70
2015/10/30	745	-9.80	6,385	+17.80	3,899	+10.80	31,002	+182.40	-9.82	4.86
2015/10/23	755	+21.70	6,367	+268.50	3,888	-43.00	30,820	-1,035.00	-10.20	4.84

<出所:トレーダーズウェブ>

一番右から2番目に、「評価損益率」というのがありますね。
 それが、信用取引の評価損益率になります。

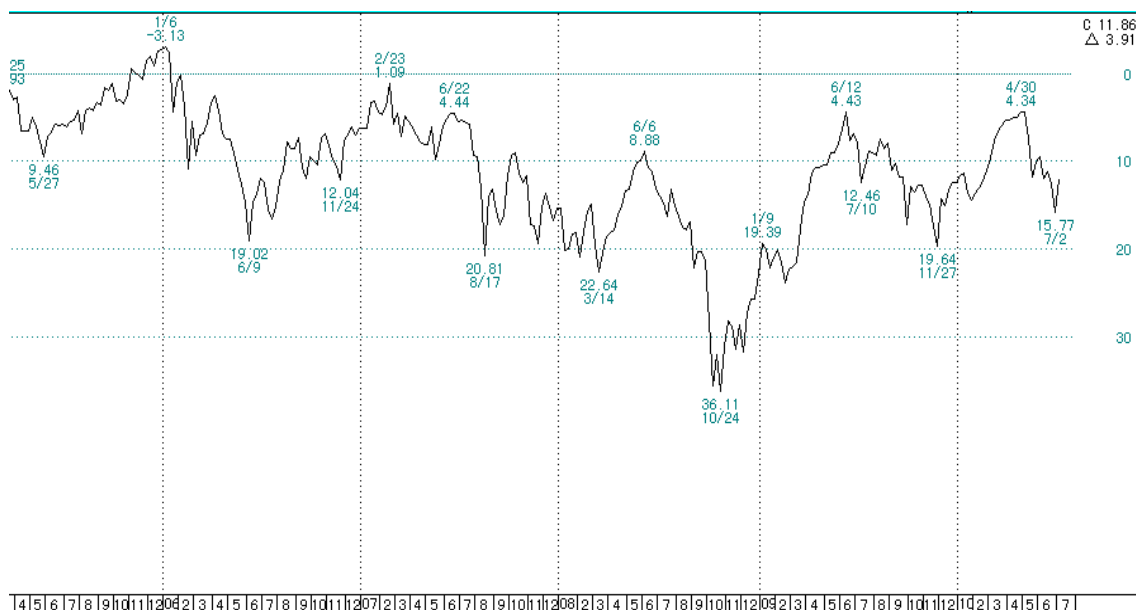
評価損益率は、1992年以降で見ると、「-5%前後から0%戦後」で株価はピークをつけ、「-20%以下」で、大底をつける傾向にあります。

リーマンショック時では、「-39.65%」を記録しています。

実は、この「評価損益率」は、私が最も信頼している指標です。

下記、「評価損益率」のチャートです。

このチャートは、0 から下が「プラス」で表示されていますが、正確には、0 から下はマイナス評価です。



<出所：ゴールドンチャート社>

つまり、信用取引の合算の評価損益率は、「プラス」で推移することは、ほとんどありません。

これが、現実なのです。

これでもうほとんど、お分かりになったかと思います、

株式を買う絶好のタイミングとは・・・

- ① その年の、「9月—11月」で
- ② 騰落レシオが、「70ポイント以下」になり、
- ③ 「信用取引の評価損益率」が、マイナス 20%前後

になったときが、本当の買い場なのです。

それまでに、会社四季報で、業績の良い銘柄をピックアップしておき、そして、上記のタイミングが来るまで、ひたすら我慢強く待つのです。

《 第七章のまとめ 》

1. 株式を買うタイミングを考える

株を買うタイミングとは、恐怖感がピークに達したとき、平均株価が急落しているときが、最も適しているのです。

2. 「順バリ」と「逆バリ」の考え方

株価が上昇している過程で、買いを入れていくことを「順バリ」といい、
株価が下がっている過程で、買いを入れていくことを、「逆バリ」と呼びます。
「逆バリ」は、リスクが大きくなるので、できるだけ「順バリ」で投資しましょう。

3. 日経平均株価は、株式全体のバロメーター

日経平均株価、TOPIX など株価指数は、株を買うタイミングを教えてくれる「バロメーター」です。したがって、株価指数の推移は常に確認しておきましょう。

4. 秋の急落は、「買い」、最高の売り場は、GW 前

「秋」は、世界的に株価が急落しやすい季節です。したがって、株を買うタイミングは、できる限り、「9月—11月」に絞り込みます。

6. 他の指標を参考に、買う時期を判断する

「騰落レシオ」、「信用取引の評価損益率」を活用し、より買いを入れるタイミングの精度を上げましょう。

私をもっとも信頼している指標です。

第八章 実際に売買を試みる

1. 海外の株式指数を確認する。

証券会社の口座開設、売買スタイル、会社の業績の見方、テクニカル分析、そして、株式売買のタイミングについて、学んできました。そして、ようやく、証券会社に入金して、売買を開始する 때가きました。

証券会社に入金すると、必ず、配達記録郵便で、口座番号 ID、パスワード、入金先の口座番号が記載された用紙が送られてきます。

まず、投資資金を証券会社に入金しましょう。

以下は「楽天証券」の注文システムである、「マーケットスピード」の「総合サマリー」の画面です。

この画面では、自分の資産が一目で分かるようになっています。

Market Speed Ver9.1						
総合サマリー						
基準日時 2010年07月15日 20:23						
		当日時価評価額	前日時価評価額			
		前日比	前日比率			
共通	資産名	時価評価額(円)	前日比	前日比率(%)	時価評価額(外貨)	参考為替レート
総合サマリー						
ポートフォリオ	国内株式	0	0	0.00		
電子交付	米国株式	0	0	0.00	0.00	88.05
入出金	中国株式	0	0	0.00		
リボル入金	外国債券	0	0	0.00		
出金	カバードワラント	0	0	0.00		
入出金記録	MMF	0	0	0.00		
信用関連	公社債投信	0	0	0.00		
信用情報	株式投信	0	0	0.00		
保証金振替指示	預り金又はMMF	0	0	0.00		
保証金明細	現金保証金(信用)	0	0	0.00		
先物オプション関連	現金証拠金(先物)	0	0	0.00		
	現金証拠金(FX)	0	0	0.00		
	外貨建MMF	0	0	0.00		

< 出所: 楽天証券 マーケットスピード >

上記の画面では、すべて「ゼロ」ですので、お金は入っていないことを表します。
入金完了後、半日くらいで、この画面に反映されます。

では、実際に株式を売買する前に、日本時間の深夜から早朝にかけて取引される
海外の株式市場の動きを確認します。

以下、私が毎朝チェックしている「トレーダーズ・ウェブ(<http://www.traders.co.jp/index.asp>)」
の、「海外マーケット概況」というページです。

指標	寄値	高値	安値	終値	前日比	騰落率
NYダウ	16419.11	16591.35	16322.07	16516.22	+117.65	+0.72
S&P500	1927.83	1947.38	1914.35	1938.68	+15.01	+0.78
NASDAQ総合	4681.54	4714.8	4618.03	4685.92	+47.93	+1.03
CME225先物	17370	17540	17090	17390	+300.00	+1.76
FT100	5871.83	5985.8	5866.67	5929.24	+57.41	+0.98
DAX	9832.82	10092.67	9832.82	9985.43	+160.36	+1.63
為替(ドル/円)	117.75	118.07	117.23	117.73	-0.03	-0.03
WTI先物	31.11	32.21	29.93	30.44	-0.97	-3.09
金(Gold)先物	1094	1099.1	1083.1	1085.2	-11.00	-1.00

※CME225先物は10月20日分から円建てに変更。
※前日比は前日の大証日中終値比を記載

1/13 6:28更新

1/13 07:47 [印刷]

NY市場概況－ダウ平均、S&P500が続伸 NASDAQ指数が9日ぶりに反発

12日のNY株式相場はダウ平均、S&P500が続伸 NASDAQ指数が9日ぶりに反発。ダウ平均は中国の金融市場が落ち着きを取り戻したことで寄り付き高く始まったが、原油が再び下落に転じたことで一時約76ドル安まで下げた後、買い戻し優勢となりダウ平均は前営業日比117.65ドル高の16516.22ドルで終えた。S&P500は15.01ポイント高(+0.78%)の1938.68ポイントと続伸、NASDAQ総合は47.93ポイント高(+1.03%)の4685.92ポイントと9日ぶりに反発した。

昨夜の、NY、ロンドン市場、外国為替市場、原油先物、金先物などが一目で分かるように構成されています。

また、最も重要な、NY 株式市場がどんな状況だったのかを「解説」していますので、この記事も、よく読むようにしてください。

また、ヤフーファイナンス (<http://finance.yahoo.co.jp/>) は、たくさんの市場関係者のコメントが出ています。

これらも、ひと通り目を通します。

ただ、第三章でも述べたように、ニュースの内容を信じるのではなく、「他の投資家のコンセンサスを確認」するというのが目的ですので、そのような角度から読むようにしてください。

日経平均 16,054.43 +31.85 | NYダウ 15,973.84 +313.66 | 米国ドル 114.37 | ユーロ 127.58

ヘッドライン

- ▶ [【東京株式】小幅続伸＝円安などが追い風\(16日\) ☆差替](#) 時事通信 16:27
【第1部】日経平均株価は前日比31円85銭高の1万6054円43銭、東証株価指数(TOPIX)は4.78ポイント高の1297.01と、ともに小幅続伸した。[[記事全文](#)]
▶ [米ドルを予想 | 達人のコラム](#)
- ▶ [17時時点の日経平均先物は日中終値比20円高の16060円で推移](#) NEW! フィスコ 17:03
- ▶ [【東京外為】ドル、114円台半ば＝午後は伸び悩む\(16日午後5時\)](#) NEW! 時事通信 17:11
- ▶ [後場コメント No.5 静岡銀行、ローム、スルガ銀行、アスクル、...](#) トレーダーズ・ウェブ 15:01
- ▶ [★本日の【サプライズ決算】速報 \(2月16日\)](#) NEW! 株探ニュース 17:04
- ▶ [【ゲーム株概況\(2/16\)】今期黒字転換予想のエリアが...](#) Social Game Info 16:24
- ▶ [株価急落を機に考えたい、「世界の経済成長」への長期投資](#) 投信1 12:10
- ▶ [3月株主優待、個人投資家注目の20万円株はコレ！](#) あるじゃん(All About マネー) 15:06

昨夜の海外株式市場を確認し、今日の東京株式市場がどのように動くかを考えます。大まかには、以下の通りです。

- NY 株式市場が、大きく値を上げた＝東京株式市場の「寄り付き」は高く始まる。
- NY 株式市場が、大きく値を下げた＝東京株式市場の「寄り付き」は安く始まる。
- NY 株式市場が、横ばいだった＝東京株式市場は、昨日の終値付近で「寄り付く」

必ず、このようになるということではありませんが、90%はこのような動きになります。

- NY 株式市場が、大きく値を上げた＝東京株式市場の「寄り付き」は高く始まる。
⇒ 初めは、様子を見て、下げてきたところを狙う。

- NY 株式市場が、大きく値を下げた＝東京株式市場の「寄り付き」は安く始まる。
⇒ 買うと決めていた銘柄は、9:20 前後に買いを入れる。
- NY 株式市場が、横ばいだった＝東京株式市場は、昨日の終値付近で「寄り付く」
⇒ 相場の流れを見て、買いを入れる。

大雑把ですが、初めはこのように考えてください。

売買が慣れてくれば、いろんな判断ができるようになるので、あせらず確実に売買をします。

株を買う場合、「業績」や、株価の位置をチェックし、そして、できるだけベストなタイミングで買うことは、すでに述べた通りです。
これからの解説は、これらのことを前提として、解説していきます。

【 memo 】

2. 調べた銘柄の株価動向をチェックする

以下、「楽天証券」の注文システムである、「マーケットスピード」で表示される、「個別銘柄」の画面です。

以下、「日立(6501)」の画面です。

6501 日立 東証1部(主市場)		10-07-15 15:00		売数量	値段	買数量			
現在値 ↓ C	350	15:00:00		6308000	成行				
前日比	-7	-1.96%		297000	OVER				
前日終値 C	357	10-07-14		523000	358				
歩み 1	351	14:59:58		288000	357				
歩み 2	350	14:59:58		488000	356				
歩み 3	351	14:59:30		454000	355				
歩み 4	350	14:59:30		391000	354				
出来高	27582000			1470000	352				
売買代金	9653279			918000	351				
VWAP	349.9847				350	35000			
単位株数	1000				349	927000			
時価総額	1581352				348	678000			
PER	11.70				347	967000			
PBR	1.21				346	536000			
配当	8.00				345	896000			
配当落日	11-03-29				344	432000			
中配落日	10-09-28				343	358000			
権利落日					UNDER	3775000			
始値	350	12:30	後場	351	09:00	前場	年高	424	10-04-30
高値	351	12:30		353	09:00		年安	276	10-01-06
安値	348	13:17		348	10:42		上場高	2040	88-08-01
終値				349	11:00		上場安	23	
出来高				13767000	11:00				
信用貸借区分	貸借			日証金	10-07-14速報				
逆日歩	-			貸株	融資	差引			
信用売	11694000	+1361000		新規	472000	30000			
信用買	81264000	-3944000		返済	318000	455000			
倍率	6.95			残高	1021000	5467000	4446000		
				前日比	154000	-425000	-579000		
				回転日数	9.20	貸借倍率	5.35		

<出所:楽天証券 マーケットスピード>

それぞれのパーツについて、解説していきます。

- ・ 現在価格、出来高、時価総額等、リアルタイムで表示されます。

現在値 ↓ C	350	15:00:00
前日比	-7	-1.96%
前日終値 C	357	10-07-14
歩み 1	351	14:59:58
歩み 2	350	14:59:58
歩み 3	351	14:59:30
歩み 4	350	14:59:30
出来高	27582000	
売買代金	9653279	
VWAP	349.9847	
単位株数	1000	
時価総額	1581352	

<出所: 楽天証券 マーケットスピード>

- ・ 「板情報」と呼ばれるものです。それぞれの価格帯に、どれだけ、「買い」、「売り」の株数があるかが、表示されています。

売数量	値段	買数量
6308000	成行	
	OVER	
297000	358	
523000	357	
288000	356	
488000	355	
454000	354	
391000	353	
1470000	352	
918000	351	
	350	35000
	349	927000
	348	678000
	347	967000
	346	536000
	345	896000
	344	432000
	343	358000
	UNDER	3775000

<出所: 楽天証券 マーケットスピード>

この場合、350円、351円を境に、上側が「売り株数」、下側が「買い株数」を示します。

・「業績の見方」で紹介しました、「PER」、「PBR」です。

リアルタイムで株価が変わりますので、「PER」、「PBR」もリアルタイムで変化します。

PER	11.70
PBR	1.21

<出所: 楽天証券 マーケットスピード>

・午前の取引を「前場」、午後の取引を「後場」と呼びます。

それぞれの、「始値」、「高値」、「安値」、「終値」が、リアルタイムで表示されます。

	後 場		前 場			
始 値	350	12:30	351	09:00	年 高	424 10-04-30
高 値	351	12:30	353	09:00	年 安	276 10-01-06
安 値	348	13:17	348	10:42	上場高	2040 88-08-01
終 値			349	11:00	上場安	23
出来高			13767000	11:00		

<出所: 楽天証券 マーケットスピード>

・信用取引の情報です。

信用貸借区分	貸借		日証金	10-07-15速報		
逆日歩	-			貸株	融資	差引
信用売	11694000	+1361000	新規	872000	228000	
信用買	81264000	-3944000	返済	227000	43000	
倍 率	6.95		残高	1666000	5652000	3986000
			前日比	645000	185000	-460000
			回転日数	9.00	貸借倍率	3.39

<出所: 楽天証券 マーケットスピード>

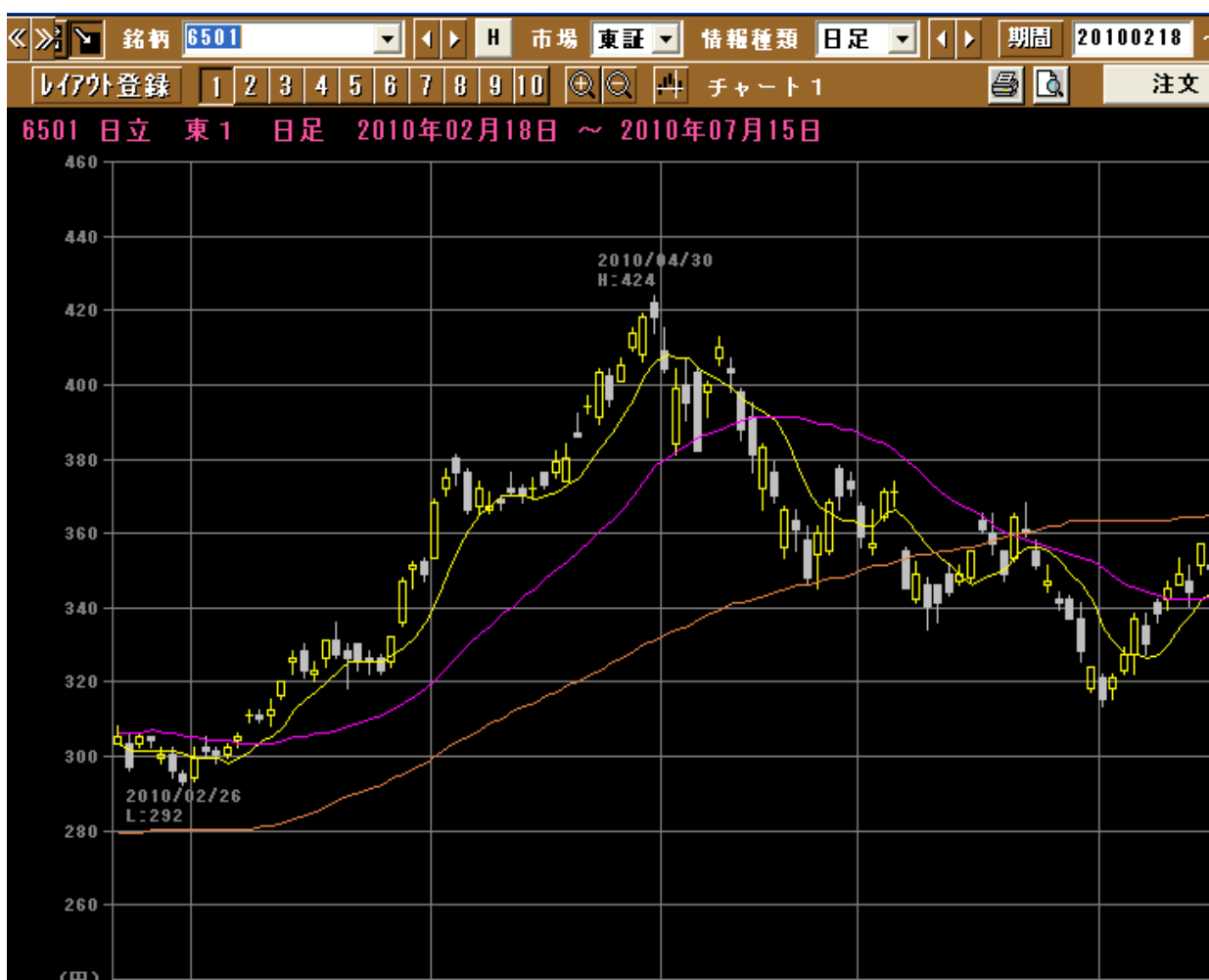
・日立に関する「ニュース」を見ることができます。

日付/時刻	配信元	ヘッドライン
2010/07/15 14:26	株式新聞	日経平均は9700円の攻防
2010/07/15 11:13	株式新聞	レーティング情報=UBS証券(15日付)一三井金、日立、ルネサス
2010/07/15 10:48	株式新聞	<話題>「はやぶさ2(仮称)」ミッションが明らかに、宇宙開発に関心も
2010/07/15 10:37	株式新聞	日産自、米2工場を3日間操業停止へ
2010/07/15 09:32	トヨタ	日産自動車<7201.T>が米2工場の操業を3日間停止へ、部品不足で
2010/07/15 06:20	トヨタ	Top News --- INVESTMENTVIEWS (7月14日午後8時47分現在)

<出所:楽天証券 マーケットスピード>

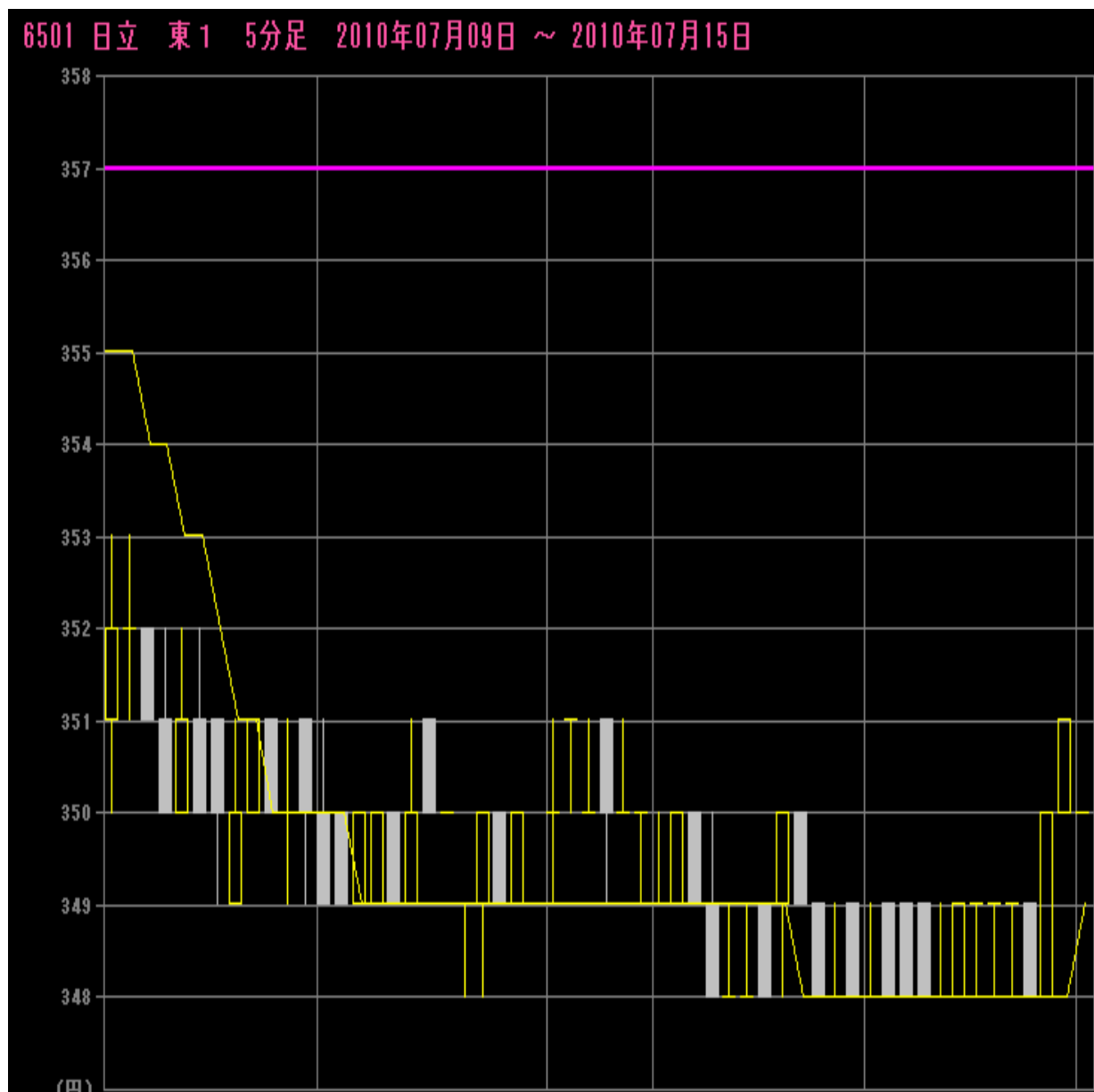
・日立のチャート情報です。自身の好みにカスタマイズが可能です。

以下は、「日足チャート」です。



<出所:楽天証券 マーケットスピード>

・以下、「5分足チャート」です。1日の株価の流れを示します。



<出所: 楽天証券 マーケットスピード>

・以下、「週足チャート」です。



<出所: 楽天証券 マーケットスピード>

・以下、「月足チャート」です。



<出所: 楽天証券 マーケットスピード>

これらの情報を見ながら、買い注文を発注します。

個々の銘柄には、すべて「銘柄コード」というものがついています。
上記の「日立」の場合、「6501」です。

銘柄を出す場合、すべて、銘柄コードで表示させます。

銘柄コードが不明な場合、ヤフーファイナンス(<http://finance.yahoo.co.jp/>)で検索することができます。



上記の検索マドに、銘柄名を打ち込めば、コードが分かります。
また、「会社四季報」には、すべて記載されています。

【 memo 】

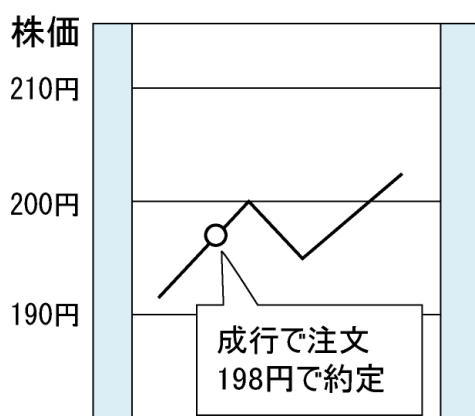
3. 注文方法

「買い注文」、「売り注文」の発注の仕方を説明します。

- ・「成行き」=いくらでも、良いからすぐ「買う」または、「売る」という注文方法
- ・「指値注文」=「買う」または「売る」値段を決める方法。
希望価格まで値段が付かないと、注文は成立しません。
- ・「逆指値注文」=指値注文とは逆に、株価が注文したときよりも上昇し、指定した価格以上になれば「買い」、株価が注文したときよりも下落し、指定した価格以下になれば「売り」とする注文方法です。

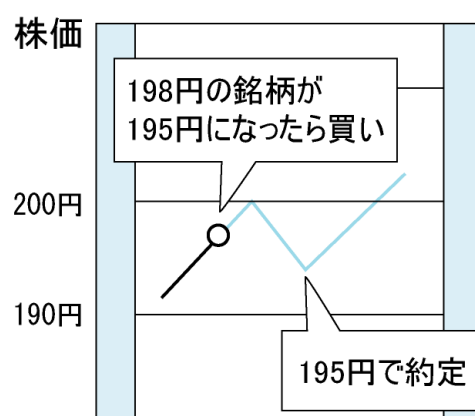
成行注文

希望する株価を指定せずに、銘柄と株数だけを指定する注文方法です。売買が成立しやすいのがメリットですが、予想外の価格で売買が成立することもあるので、株価の変動が激しい銘柄では注意が必要です。



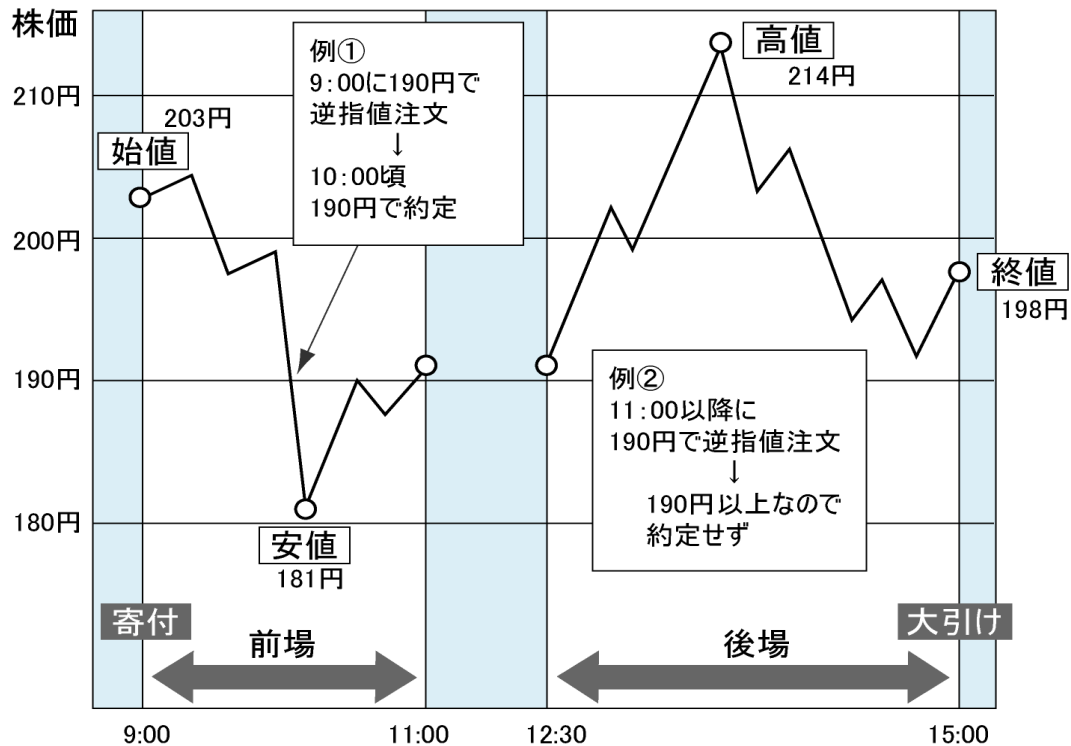
指値注文

希望する株価を指定する注文方法です。自分の希望した価格で売買できるのがメリットですが、条件が合わなければ売買が成立しないので、チャンスを逃してしまう可能性もあります。



逆指値注文

指値注文とは逆に、株価が注文したときよりも上昇し、指定した価格以上になれば「買い」、株価が注文したときよりも下落し、指定した価格以下になれば「売り」とする注文方法です。損失の拡大を防ぎ、勢いに乗って利益を伸ばすような売買が可能です。



(注意)

- ・「成行き注文」は、いくらでも良いという注文なので、予想以上に、「高値」で買えたり、「安値」で売れたりする場合があります。注文を入れる際には、必ず、「板情報」を確認して、発注するようにしてください。
一度、成立した売買は、取り消すことができません。

- ・取引所のルールで「時間優先の原則」というものがあります。
「指値注文」で、希望価格に値段が付いたとしても、自分の注文の順番が後の方の場合、約定しないことがあります。

- ・一度、出した注文は、成立していない場合のみ、「取り消し」が可能です。

売数量	値段 成行	買数量
6308000	OVER	
297000	358	
523000	357	
288000	356	
488000	355	
454000	354	
391000	353	
1470000	352	
918000	351	
	350	35000
	349	927000
	348	678000
	347	967000
	346	536000
	345	896000
	344	432000
	343	358000
	UNDER	3775000

<出所: 楽天証券 マーケットスピード>

上記の場合ですが、

- ・ 「成行き買い注文」=351 円で約定します。
- ・ 「成行き売り注文」=350 円で約定します。
- ・ 「351 円指値買い注文」=351 円で約定します。
- ・ 「350 円指値売り注文」=350 円で約定します。
- ・ 「350 円指値買い注文」=自分の注文が、35000 株買い注文より後の場合、
自分の順番が来るまで約定しません。
- ・ 「351 円指値売り注文」=自分の注文が、918000 株売り注文より後の場合、
自分の順番が来るまで約定しません。
- ・ 「350 円逆指値買い注文(成行き)」=350 円に値段が届いていますので、
351 円で買い注文が約定します。
- ・ 「350 円逆指値売り注文(成行き)」=350 円に値段が届いていますので、350 円で
売り注文が約定します。

4. 発注画面(楽天証券)

こちらが、楽天証券 マーケットスピードの注文画面です。

銘柄コード 決算日 03/31,09/30

6501 日立 東1

10-07-15 15:00

現在値 ↓ C	350 15:00	単位株数	1000
前日比	-7 -1.96%	信用貸借区分	貸借
前日終値 C	357 10-07-14	出来高	27582000
売数量	値段	買数量	売買代金
391000	353		9653279
1470000	352		信用売
918000	351		11694000
	350	35000	信用買
	349	927000	81264000
	348	678000	PER
			11.70
			PBR
			1.21

通常注文 送指値付通常注文 送指値注文

購買余力 円 内訳

数量 株/口

価格 指値 成行

円

値幅制限 円 ~ 円

市場

執行条件

口座区分 特定 一般

決済方法

<出所:楽天証券 マーケットスピード>

- ・株数を入力します。
- ・「指値」、「成行き」を選択します。
- ・「指値」の場合、価格を入力します。
- ・「執行条件」は、今日だけの注文か、今週中の注文かを選べます。

入力が終わると、「確認ボタン」を押し、次に出てくる注文ボタンを押せば注文は執行されます。

5. 約定した銘柄を確認する

注文が成立すると、以下のように保有銘柄のページに成立した銘柄が表示されます。

2010年04月15日 ~ 2010年05月18日											
受付No	常注文状注	銘柄	口座区分	市場	信用区分	弁済期限	発注/受注日時	取引	売買	執行条件	文数量(株/定)
4723	約定 -	5009 富士興産	特定	東証	制度	6ヶ月	2010/05/17 09:04	信用新規	買建	本日中	10,000
4722	約定 -	8025 ツカモトコーポレーシ	特定	東証	制度	6ヶ月	2010/05/14 09:11	信用返済	売埋	本日中	4,000
4720	約定 -	8202 ラオックス	特定	東証	制度	6ヶ月	2010/05/14 08:53	信用返済	売埋	本日中	1,000
4719	約定 -	8202 ラオックス	特定	東証	制度	6ヶ月	2010/05/13 13:57	信用新規	買建	本日中	1,000
4718	約定 -	6205 大阪機工	特定	東証	制度	6ヶ月	2010/05/13 12:49	信用返済	売埋	本日中	7,000
4717	約定 -	6205 大阪機工	特定	東証	制度	6ヶ月	2010/05/13 12:40	信用新規	買建	本日中	7,000
4716	約定 -	8202 ラオックス	特定	東証	制度	6ヶ月	2010/05/13 09:28	信用返済	売埋	本日中	10,000
4715	約定 -	8202 ラオックス	特定	東証	制度	6ヶ月	2010/05/13 09:01	信用新規	買建	本日中	10,000
4714	約定 -	8750 第一生命	特定	東証	制度	6ヶ月	2010/05/10 10:03	信用返済	売埋	本日中	10
4713	約定 -	8750 第一生命	特定	東証	制度	6ヶ月	2010/05/10 08:59	信用新規	買建	本日中	10
4712	約定 -	7952 河合楽器	特定	東証	制度	6ヶ月	2010/05/07 09:37	信用返済	売埋	本日中	10,000
4711	約定 -	7952 河合楽器	特定	東証	制度	6ヶ月	2010/05/07 09:31	信用新規	買建	本日中	10,000
4710	約定 -	7961 兼松日産農林	特定	東証	制度	6ヶ月	2010/05/06 12:46	信用返済	売埋	本日中	10,000
4709	約定 -	7961 兼松日産農林	特定	東証	制度	6ヶ月	2010/05/06 12:37	信用新規	買建	本日中	10,000
4706	約定 -	6316 丸山製作所	特定	東証	制度	6ヶ月	2010/05/06 08:55	信用返済	買埋	本日中	5,000

6. 約定した銘柄を決済する

保有株にカーソルを合わせて、「右クリック」すれば、売り注文の画面に移行できます。



銘柄コード	6501	H	決算日	03/31,09/30
6501 日立 東1				
10-07-15 15:00				
現在値 ↓ C	350	15:00	単位株数	1000
前日比	-7	-1.96%	信用貸借区分	貸借
前日終値 C	357	10-07-14	出来高	27582000
売数量	値段	買数量	売買代金	9653279
391000	353		信用売	11694000
1470000	352		信用買	81264000
918000	351		PER	11.70
	350	35000	PBR	1.21
	349	927000		
	348	678000		
<input type="button" value="通常注文"/> <input type="button" value="逆指値付通常注文"/> <input type="button" value="逆指値注文"/>				
購買余力	0 円		<input type="button" value="内訳"/>	
数量	<input type="text"/>	株/口		
価格	<input checked="" type="radio"/> 指値 <input type="radio"/> 成行			
	<input type="text"/>	円		
値幅制限	<input type="text"/>	円 ~	<input type="text"/>	円
市場	東証(主市場)			
執行条件	本日中午			
口座区分	<input checked="" type="radio"/> 特定 <input type="radio"/> 一般			
決済方法	預り金又はMRF		<input type="button" value="取引注意銘柄"/>	
<input type="button" value="確認"/> <input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="クリア"/>				

発注画面に以降しますので、数量、指値または、成行きを指定し、売り注文を執行します。

7. 受け渡し代金を確認する

注文が成立しますと、「約定代金」、「手数料」、「手数料にかかる消費税」が表示され、この銘柄の買い代金総額（受け渡し金額）が一番右側に表示されます。

この場合、

214 円 × 1000 株 = 214000 円

手数料 = 228 円

消費税 = 11 円

214000 円 + 228 円 + 11 円 = 214,239 円が、受け渡し代金になります。

約定数量(株/口)	約定単価(円)	約定代金(円)	手数料(円)	税金(円)	税区分	受渡金額(円)
1,000	214	214,000	228	11		214,239

8. 利益になったか、損失になったかを確認する

売買った株が利益になったか、損失になったかを確認します。

信用取引の場合が分かりやすいので、そちらで説明します。

一番、右側に「実現損益(円)」が、売り注文成立で、確定した利益です。

2009年07月16日 ~ 2010年05月18日								
約定日 ▽	受渡日	コード	銘柄名	口座区分	市場	取引	信用区分	実現損益(円)
2010/04/19	2010/04/22	9305	ヤマタネ	特定	東証	売埋	制度	21,634
2010/04/19	2010/04/22	9305	ヤマタネ	特定	東証	売埋	制度	10,817
2010/04/19	2010/04/22	9305	ヤマタネ	特定	東証	売埋	制度	35,231
2010/04/19	2010/04/22	9305	ヤマタネ	特定	東証	売埋	制度	21,405
2010/04/19	2010/04/22	9305	ヤマタネ	特定	東証	売埋	制度	21,185
2010/04/19	2010/04/22	9305	ヤマタネ	特定	東証	売埋	制度	10,593

今回は、「楽天証券」で説明しましたが、取引証券会社によって、注文方法は異なります。

お使いの証券会社の発注システムに、とにかく慣れることを優先してください。

《 第八章のまとめ 》

1. 海外の株式指数を確認する。

- ・NY 株式市場が、大きく値を上げた＝東京株式市場の「寄り付き」は高く始まる。
- ・NY 株式市場が、大きく値を下げた＝東京株式市場の「寄り付き」は安く始まる。
- ・NY 株式市場が、横ばいだった＝東京株式市場は、昨日の終値付近で「寄り付く」

2. 調べた銘柄の株価動向をチェックする

リアルタイムで表示される「企業データ」、「チャート」などで確認し、買うタイミングを考えます。

3. 注文方法

注文方法には、「成行き」、「指値」、「逆指値」注文などがあります。注文方法については、お使いの証券会社の発注画面に慣れるようにしましょう。

4. 発注画面(楽天証券)

楽天証券の「マーケット・スピード」の発注画面をご紹介します。

5. 約定した銘柄を確認する

約定した銘柄を確認します。注文に間違いがないかを確認するようにしてください。

6. 約定した銘柄を決済する

約定した銘柄を、決済する方法です。発注の際、間違いがないかを確認してください。

7. 受け渡し代金を確認する

受け渡し代金＝株価×単元数＋手数料＋消費税 で計算されます。

株価を見て、大まかな受け渡し代金を暗算でできるように慣れて下さい。

8. 利益になったか、損失になったかを確認する

損失に終わったかといって落胆する必要はありません。プラスでも、マイナスでも、その原因を追究しましょう。

第九章 長中期の投資戦略

1. 中長期投資の考え方

この数年、インターネットでの取引が進み、短期売買、デイトレードで売買を繰り返す投資スタイルが人気になっています。

株価、板情報、チャート情報も、リアルタイム表示されることから、非常に投資がしやすい環境になってきたこと、また、手数料が格段に下がったことから、数円のサヤを取ることができるようになったことも、短期売買が人気になった要因だと思います。

しかし、短期売買で安定した利益を得ようと思うと、高度な技術と、強靱なメンタル面が求められ、結局は、多くのデイトレーダーは、大きく損をして撤退していることは、周知の通りです。

ですので、まずは「中長期投資」をしっかりと学び、中長期投資で安定した利益を得られるようになったときに、短期売買にトライする方が良いでしょう。

中長期投資のメリットは、何といても「時間を味方につけることができる」ということです。

下記、ソフトバンク(9984)の、日中足チャートです。



デイトレードの場合、1日でポジションを閉じてしまうため、どうしても、取れる値幅に限界が生じます。

私は、デイトレード主にやっていましたが、上記の場合だと、上手く行って「40円」程度の値幅を取ることがやっとだと思います。

毎日、「勝った、負けた」を繰り返し、精神的に強いストレスがかかります。

下記は、同じ、ソフトバンク(9984)の週足のチャートです。
仮に、5月に投資を始めたとすれば、1600 円前後で買えるでしょう。
そして、1年後には、2200 円前後まで値上がりしています。

1年間という時間を使うことで、約「600 円」の利益が得られることになります。



「いや、デイトレードは、売買の回転率が高いので、中長期投資より儲かる」という方も

いらっしゃいます。

しかし現実には、勝ち負けを繰り返しているのです、結局は、あまり勝っていないのが現実です。もちろん、結果を出している方もいらっしゃると思いますが、それは全体の2-3%くらいの方たちです。

また、デイトレードで成功している人のほとんどは、やり始めは上手くいかないのです、資金を急激に減少させているのです。

それだけ、短期売買、デイトレードは、技術的に難しく、心理的負担も大きいのです。

このテキストでは、中長期投資で成功するための方法を、さまざまな角度から解説していきたいと思います。

2. 月間の株価の特性について

株価は月間の特性というのがあります。

この特性を知っている個人投資家はあまりいません。

これを知っているだけでも他の投資家より一歩先んじて投資を成功させることが可能です。

では、それを説明していきましょう。

■4月特性

日本の新年度入りは、「4月」がスタートです。

4月は、金融機関にとって「スタート」の年となるため、新しい運用行動を行ったり、資金を増やす傾向にあります。

また、3月に配当のため、「権利配当落ち(配当分調整のため株価が落ちる)」した銘柄で、業績の良いものは、買いが入ってくる傾向にあります。

例年、勝率の高い月でもあります。

■5月特性

5月は、3月本決算企業の決算発表の時期になります。

したがって、株価がこう着状態になったり、先行して買われた銘柄は、大型連休もあるため利食い売りで下落することもしばしばです。

したがって、また、海外ファンドの中間決算も絡むため、非常に難しい環境にあります。

■6月特性

5月に決算発表が本格化し、6月中旬くらいには、決算はほぼ出揃います。また、6月第二週の金曜日には、日経 225 先物の特別清算日にあたるため、この日を境に、相場の流れが変わることも考えられます。6月からは、次の中間決算に向けて業績が好調な銘柄について、期待感から、さらに上昇につながる銘柄も出てきます。

■7月特性

7月は、外国人投資家のバカンスシーズンに入ってくるため、出来高が減少する傾向があります。また、「猛暑関連」で、ビール会社、エアコン会社の「連想買い」があることでも知られます。ボーナスシーズンということもあり、資金は比較的潤沢で、小型の低位株への物色が強まる傾向もあります。下旬からは、第一四半期(1-3月)の決算発表も始まるため、思惑買いが入りやすくなります。

■8月特性

株式市場で圧倒的シェアを持つ、外国人投資家夏休み本番となるため、売買代金、出来高ともに減少してきます。4月から株価が上昇傾向にある場合、一旦、ピークを打つ傾向にあります。8月は、一時、「サマー・ラリー」といわれ、相場が上向くこともありましたが、現在では、あまりそのような傾向は見られません。一部の仕手材料株には、そのような傾向が見られるときもあります。

■9月特性

9月は中間決算と、第二週の金曜日には、日経 225 先物の特別清算日にあたるため、相場変動が大きくなる傾向にあります。また、金融機関など、機関投資家も上期最終の月ということから、保有している株式を売却する動きも見られ、相場は下落リスクが高まってくる月です。実際、過去10年の平均株価は、大きく負け越しており、買いは手控ええられる傾向にあります。

■10月特性

10月は下期入りということもあり、機関投資家の投資資金は豊富にあります。ただ、この時期は、欧米株式市場がファンドの決算に入りつつあるので、国内の株式市場は、どちらかといえば、弱くなる傾向にあると思われます。ただ、個人投資家は、安くなったところを買う戦略は有効です。海外の経済状況には敏感になっておきましょう。

■11月特性

11月の株式市場は、中間決算が発表されるため、その内容に応じた動きになりますが、決算内容を見極めたいとして、売買は低調になり、下旬までは下落傾向にあります。また、ヘッジファンドの決算に当たるため、需給関係が悪化しやすくなります。株価が大きく崩れることもあるため、10月、11月に株価が崩れるようなら、買いを仕込みたい月でもあります。

■12月特性

12月は年末ということもあり、外国人投資家は、クリスマスシーズンに入るため、売買は低調です。また、個人投資家の税金対策売りも下旬にかけて出てくるのが特徴です。しかし、一部の投機家が、需給が薄くなったところに、買いを入れてくることもしばしば見られることから、年末にかけて、株価が上昇しやすくなる傾向が見られます。

■1月特性

どちらかといえば、株式市場は「強気」に傾く傾向にあります。ただ、1月5日以降、大きく売り込まれる局面があれば、1月相場は「弱気」に傾くことになり、下落のスピードも高まることがあります。物色対象は、新興市場、小型材料株に向きやすく、個人投資家向けの月といえそうです。

■2月特性

3月の配当権利取りを意識した動きが見られるようになってきます。配当取りに関する動きは、この月特有の動きです。配当利回りの高い銘柄が狙われることもあり、事前にピックアップしておいてみてください。

PERの高い銘柄が、買われるといった現象が起きやすくなるのが特徴的です。

■3月特性

年度最終月ということもあり、売買が活発になります。配当取りの買いや、決算期末の売りなど、方向感は定まらないことがあります。

ただ、半ばまでには、決算期末の売りは収まるため、下旬からは配当取りの買い、そして、新年度入りに向けた買いなど、需給は買い有利に傾きやすくなります。

1年間を通じて、その月、特有の動きがあります。
これらを、念頭に置きながら、売買を行なってください。

3. 銘柄選びのポイント

企業分析の手法は、さまざまな手法がありますが、ここでは、初心者の方が取り組みやすいものをご紹介します。

第三章でも解説しましたが、株価の動向を決定付ける大きな要因は、「業績内容」です。業績が伸びていれば、株価も上昇します。

しかし、ただ伸びているだけでは、決定力に欠ける可能性もあります。
したがって、どれくらい伸びているのかという、「伸び率」が重要になってきます。

では、伸び率は、どれくらいが望ましいのでしょうか。

- ・「営業利益」、「当期純利益」、「一株あたり利益」の伸び率が、15%以上
- ・ROEは、15%前後
- ・ROAは、5%～7%前後

を、選んでいきます。

もちろん、会社の「安全度」をクリアしていることは、前提条件です。

(計算方法)

・営業利益伸び率=(当期営業利益 - 前期営業利益)÷ 前期営業利益×100

・当期利益伸び率=(当期純利益 - 前期純利益)÷ 前期純利益×100

・1株あたり利益伸び率=(当期1株利益 - 前期1株利益)÷前期1株利益×100

この計算式を用いて、伸び率を計算していきます。

以下、日本電産(6594)のデータで計算してみます。

【業績】	売上	営業利益	税前利益	利益	1株益(円)
◎06. 3*	536,858	53,426	64,378	40,949	285.5
◎07. 3	629,667	64,009	65,595	39,932	276.0
◎08. 3	742,126	76,833	62,683	41,156	284.0
◎09. 3	613,458	51,806	47,029	28,353	197.4
◎10. 3	587,459	78,342	75,002	51,961	373.0

<出所: 楽天証券 マーケットスピード>

	当期	前期	伸び率
営業利益	78342	51806	51.22%
当期純利益	51961	28353	83.26%
EPS	373	197.4	88.96%

日本電産の、2009年3月期から、2010年3月期の数字を、エクセルで計算させました。

すると、どれも脅威的な伸び率を示しています。

株価は、2009年初めから1年間、上昇し続けました。



【指標等】	<◎10.3>	
ROE	15.3%	予18.5%
ROA	7.5%	予9.1%

ROEは、15%前後、ROAは、7%前後のものを目安に銘柄を探します。

必ずしも、上記の基準通りではなくても構いませんが、できるだけ近いものを探そうにしてください。

4. P/L の比率

「P/L 比率」（プロフィット/ロス）について、お話していきます。

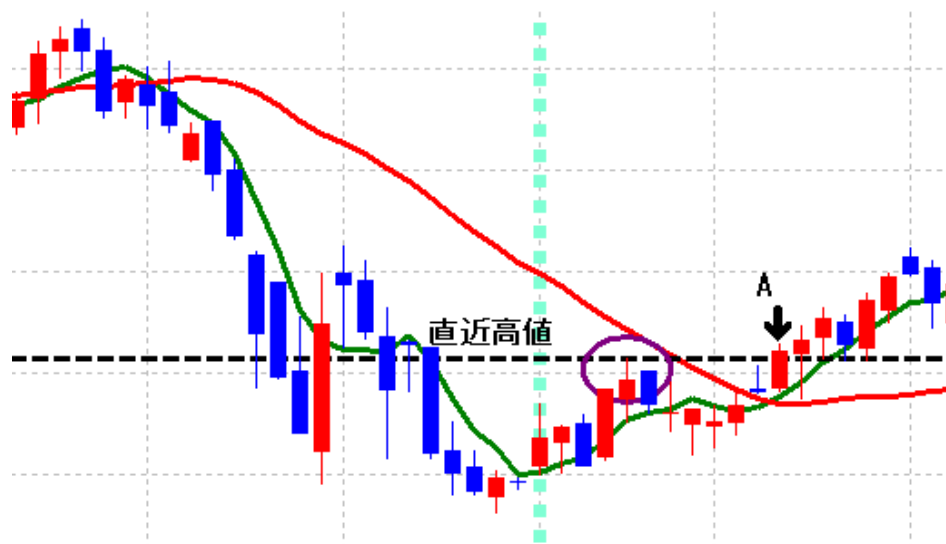
先ほどのように、「これは！」と思うような銘柄を見つけたら、次に、買いのタイミングを探していきます。

このような銘柄を見つけたとき、運よく、安値圏にあるなら、その場で買いを入れてみます。ただ、魅力的な銘柄は、他の投資家も狙っていますので、株価が少し上昇している可能性も

十分、考えられます。

その場合は、直近の高値を株価が抜いた直後に買いを入れます。

先ほどの、日本電産のチャートですが、2009年3月下旬、直近高値を抜き去りました。



抜いたことを確認して、買いに入ります。

そして、「P/L 比率」を決めていきます。

P = 買い値より、30%以上上がったら、半分利食い。残り半分は保有。

L = 買い値より、終値が、7-8%以上、下落していれば損切り。

と決めます。

これは資金量などを考慮していません。

資金量、相場環境によって、修正していきますが、このように業績の良い銘柄は、
そうそう、下落することは少ないと思います。

したがって、当初、「P/L 比率」は、上記の比率で暫定的に決めておきます。

後ほど、マネーマネジメント（資金管理）のところで、「リスク率」について触れていますので、

あなたの「リスク率」に基づいて、修正を加えていってください。

5. 日経平均株価チャートのトレンドを確認する

日経平均株価は、東証1部銘柄の主要な銘柄の 225 銘柄を採用し、その 225 銘柄の株価合計を除数で割って算出します。

序数は、毎日数字が変更になります。

日経新聞に序数が毎日掲載されますので、確認してみてください。

ちなみに、2010 年 7 月 21 日の序数は、「24.696」となっています。

分子は、額面を全て 50 円額面に修正します。(みなし額面)

日経平均株価 = 225 銘柄の株価合計(みなし額面修正) ÷ 序数

これは、知識として覚えておく程度で構いません。

以下、リーマンショックの翌年、3 月からの日経平均株価の推移です。

2008 年 10 月の安値と、2009 年 3 月の安値で、「ダブルボトム」を付けたことで、

その後、株価は上昇に転じています。



テクニカル的には、25 日移動平均線を明確に上抜け後、買い圧力が増してきて、結局、2010 年 4 月まで、1 年間にわたり、株価は上昇しました。

株を買うタイミングの重要性については、すでに述べた通りですが、このような状況で買いに入るのが、最も安全でしょう。

日経平均株価が、このように大きく上昇するということは、東京証券取引所に上場している銘柄の 90%以上が上昇していることになり、225 銘柄については、ほぼ 100%上昇していると思って、差し支えないでしょう。

逆に下落しているときは、東京証券取引所に上場している銘柄の 90%以上が下落していることとなります。

したがって、指数のトレンドには、十分、関心を持っていただきたいと思います。

6. 移動平均カイリ率マイナス 5~10%前後から切り返しが、最初の買い

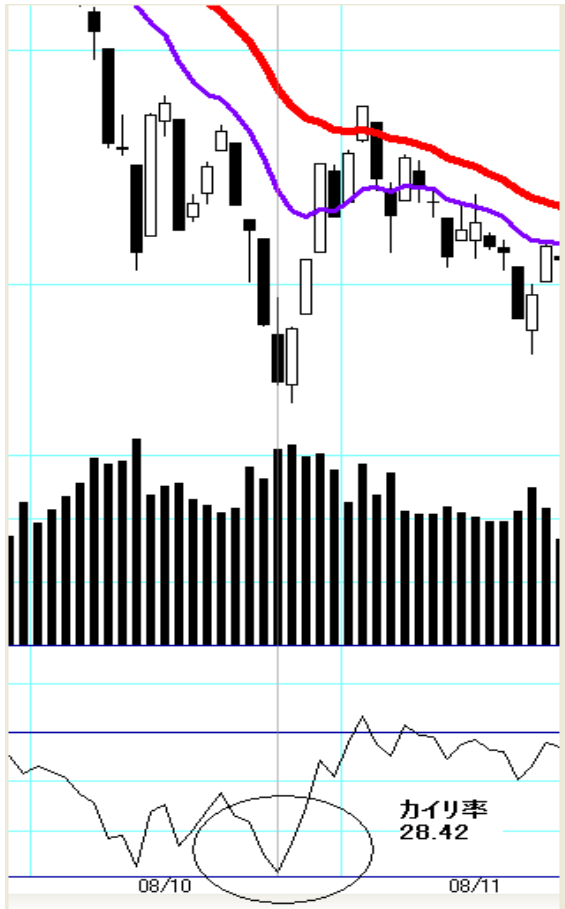
「移動平均乖離率」とは、株価が「移動平均線」からどれくらい「乖離(カイリ)」しているかを見る指標です。

株価が、「移動平均線」から大きく離れたら、「上げ止まる」、または「下げ止まる」という“転換するタイミングを見る”目的で使用します。

下記のチャートは、「リーマンブラザーズ破綻直後」の暴落のときの「**25 日移動平均カイリ率**」です。

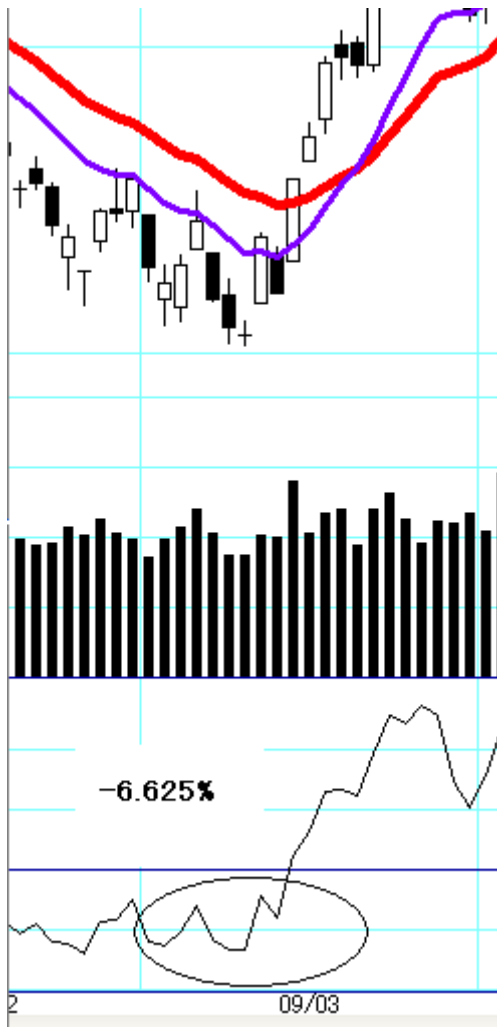
あのときの暴落では、-28.42%と、非常に大きくカイリしました。

しかし、通常の株価急落時では、だいたい、「-5%から-10%」で底を打つケースが多く見られます。



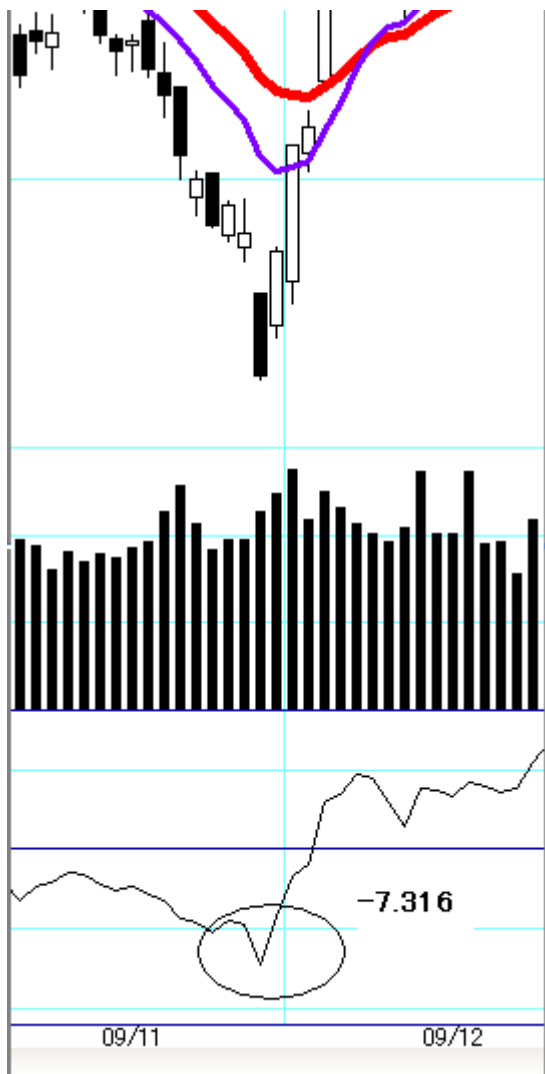
《2009年3月10日》

リーマンショックの翌年3月の底値 = 25日移動平均乖離率 -6.625%



《2009年11月27日》

ドバイショック時の底値 = 25日移動平均乖離率 -7.316%



上記の急落では、「-6%から-7%」で底打ちとなっています。

証券会社のチャートシステムでは、ほとんど、移動平均乖離率の設定が可能ですので、一度、確認してみてください。

7. 売りのタイミングを見極める指標

株式市場全体のエネルギーを読むことは、個別銘柄の売りのタイミングをはかる際に有利に働きます。

しかし、株式市場全体(相場)の流れと個別銘柄の動きは似ているようで、まったく違った動きを見せているものです。

個別銘柄の分析方法は、大きく分けて2つあります。

企業の業績や景気動向などをもとに、その銘柄の価値を分析する「ファンダメンタルズ分析」と、過去の相場動向を、チャートを使って分析し、これからの株価を予測する「テクニカル分析」です。

長期投資では「ファンダメンタルズ分析」を、短期投資では「テクニカル分析」を用いることが多いようですが、どちらか一方に頼るのではなく、それぞれの長所をうまく活かすことが大切です。

《ファンダメンタルズ分析による、売りのポイント》

ファンダメンタルズ分析による、売りのポイントは、銘柄によってバラツキがあるため、ここでは、東証1部銘柄の時価総額の大きいもので解説したいと思います。

- PER(株価収益率)が、35－40倍くらいになるようなら、売却する。
- PBR(株価純資産倍率)が、4倍前後になるようなら、売却する。

これまでの解説で、買ったときの、PERは「10倍前後」、PBRは「1倍」前後だと想定できますので、両指標が、上記まで上昇するなら、割高感が出てきて、そろそろ売り時になると思ってよいでしょう。

ただ、銘柄によっては(特に新興市場銘柄)、もともと、両指標とも高い銘柄が多く存在しますので、上記の数字は当てはまりにくくなると思ってください。

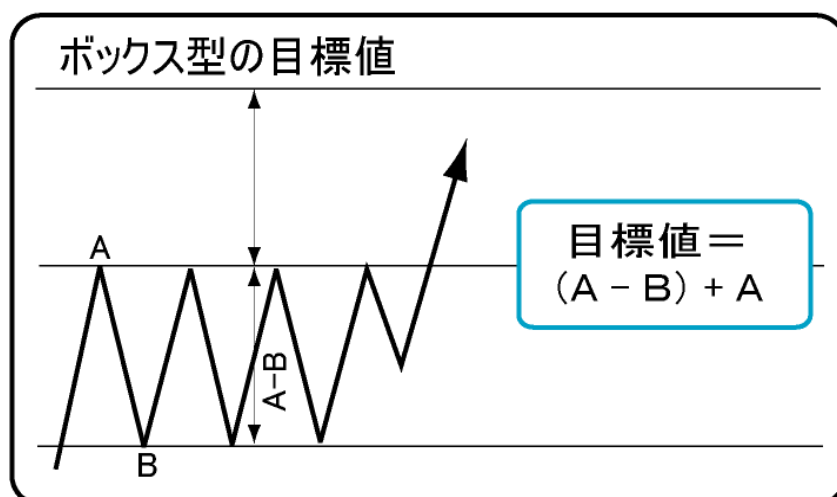
《テクニカル分析による、売りのポイント》

私は、売りのタイミングは、「テクニカル分析」を優先します。なぜなら、ファンダメンタルズはどうしても遅れるということ、また、多くの投資家はチャートの値動きで判断するからです。以下、いくつかの「テクニカル・パターン」を、ご紹介します。

ケース1: ボックス抜けの目標値を算出する

ある一定の株価の幅(レンジ)を作っている株価の動きを、市販のチャートブックや、チャートソフトなどで確認してみてください。

多くの銘柄は、レンジの上限と下限の差を算出し、その差をレンジの上限の価格に足した数字が、一般的に目標値の目安とされています。





一定のレンジで揉み合っている相場は力関係が均衡している状況を示しています。いわば、綱引きで中心の目印が行ったり来たりしているところを想像してください。

しかし、どこかで必ず力の均衡は崩れます。上図では、均衡していた力が、Aラインを抜けることで、買いへの圧力が一気に高まります。こうして、株価は一定方向に強く動くこととなります。

ボックス圏を抜けた銘柄を見つけた場合、**この目標値に到達するまで、ガマン強く保有することをおすすめします。**

もちろん絶対ではありませんので、時々動向をチェックして必要があれば売ることも考えなければなりません。

ケース 2: 三角持合後の目標値を算出する

一旦、上昇した株価は、ずっと上がり続けるわけではありません。

上昇した株価は、必ずどこかの時点で、調整に向かいます。

この時の市場心理としては、「まだ、上昇するかもしれないが、下落しないうちに利益を確保しておきたい」という心理が生まれます。

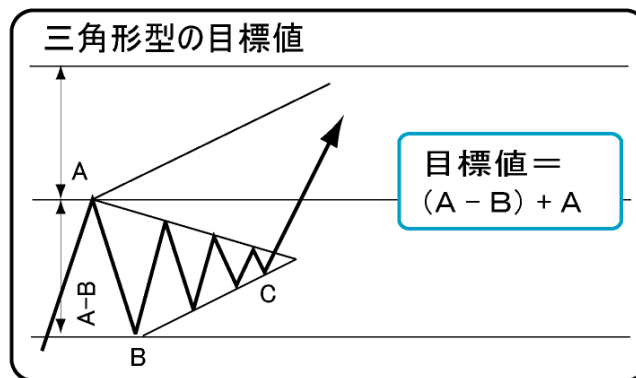
そして、何かをきっかけに上昇した株価は、下落する局面を迎えます。

ここでの対応は・・・

1. とりあえず売る
2. 保有する

ということになります。このように株価が上下の動きがなくなってしまう状態のことを「持ち合い」といいます。

持ち合ったあと、一定の下落から新たな材料を織り込んでいくように上昇していきます。



上図が、上昇途中の三角持ち合いの上値目標値の計算方法です。

持ち合い中の高値Aから、安値Bまでの下げ幅(A-B)をAに加えて算出します。



上記は、GSユアサ(6674)の週足です。

株価は、持ち合い後、再度上昇しました。

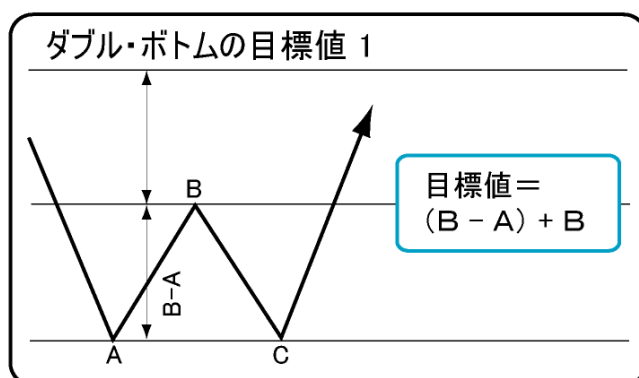
ほぼ先述の計算式通りに目標値まで達成しているのが、お分かりになると思います。

ケース 3: ダブルボトムの目標値を算出する

一旦、大底をつけた株価は、一度はリバウンドします。

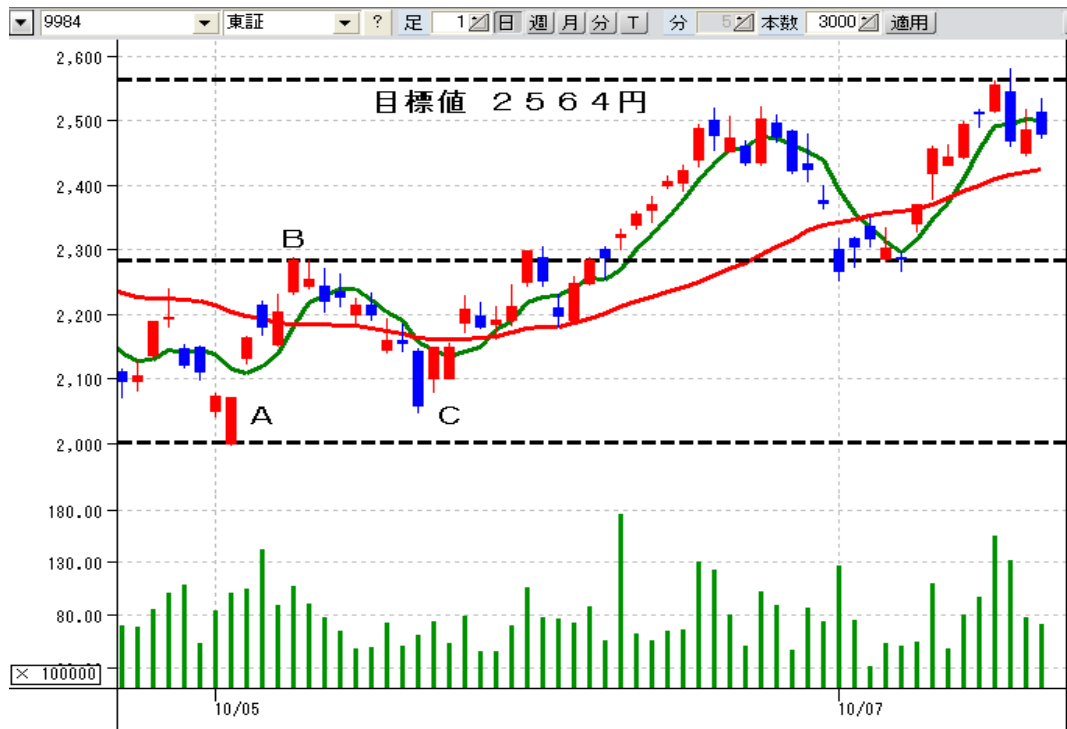
そしてリバウンドが一巡すると、ダメ押し的な売り物が出てきて、クライマックスを迎えます。

一般に言われる、ダブルボトムは、このようにして形成され、投売りが出尽くしたとき、相場は反転し、新しい相場に入っていきます。



Aの安値から、リバウンドした高値のB、そしてダメ押しとなったCがAと同水準で止まれば、ダブルボトムが成立します。Aの価格とまったく同じでなくても構いません。

終値ベースでほぼ同値であれば、ダブルボトムと解釈していいでしょう。



上のチャートは、ソフトバンク(9984)の株価ですが、ダブルボトムを形成しています。ダブルボトム形成後、株価は上昇し、計算式通りの目標株価に到達しています。

3つのパターンをご紹介させていただきました。すべてが、式の通り目標を達成することではありません。

チャート上のダマシもありますので、そこは注意深く見守る必要があります。

しかし、こういった目標値の見分け方を知っていれば、「利益を確定するのが早すぎた！」ということも未然に防げると思います。

ぜひ、たくさんの株価チャートを研究して、目標値の設定の仕方の練習をおこなうことを強くおすすめします。

8. 高値ブレイクで追加買いのチャンス

下のチャートは、OKK(6205)の「高値ブレイク・パターン」です。



株価に勢いのあるときは、高値をどんどん更新していくケースが多く存在します。

株価の性質上、高値を更新していく銘柄は、急騰することが良くありますので、このような、ケースでは、直近の高値をブレイクしたときに、買いを入れていきます。

これは、日立(6501)のチャートです。



このような動きをする銘柄には、機関投資家、ヘッジファンド等、大きく資金を動かしている投資家が背後にいますので、株価の上昇は続く傾向にあります。

ただ、すべてこのように動くわけではありませんので、予想外の動きをするなら、「損切り」して、様子を見るようにしてください。

9. 思惑が外れた場合、損切りをして、投資資金を確保する

当たり前の話ですが、すべての投資が上手くいくことはありません。必ず、予想した動きにはならず、評価損を抱えてしまうことも、あらかじめ想定しておく必要があります。

以下、明電舎(6508)のチャートです。



直近の高値を瞬間的に、上に抜けましたが、直後、売りに押され、急落してしまいます。

これは、「高値ブレイクの失敗パターン」です。

このようなケースになった場合、すぐに損切りをしなくてはなりません。

10. ヘッジファンドを味方につける投資手法

ヘッジファンドは当初、誰にも気付かれずに動きます。
 ですので、詳細を知ることは不可能です。

ですが、誰でも知りえることが、ひとつだけあります。
 それは、ヘッジファンドの決算月です。

ヘッジファンドの決算月は、毎年5月、11月とされています。

そして、歴史的に見て、この5月、11月前後、株式市場は急落することが多くなりました。

それには、理由があります。

ヘッジファンドは、多くの顧客から資金を募り、ファンド形式で運用していますが、顧客の解約、配当に備えて、5月、11月の決算で投資しているポジションを、一旦、解消させる動きに出るのです。

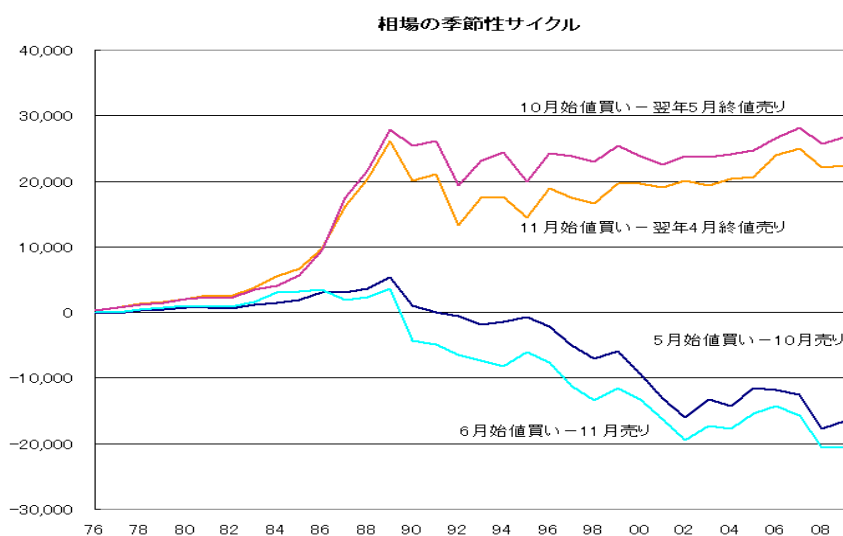
つまり投資している株式、債券、商品先物のポジションを換金して、キャッシュポジションを高めることを行なうのです。

当然、買っているものについては、売りオーダーを出すことになり、株価は下がります。

また、大規模な資金で運用しているため、下がり方も大きくなりがちです。

ぜひ、1987年以降の日経平均株価のチャートを遡って確認してみてください。

第七章の「4」でご紹介したチャートです。



このデータで明らかになっていることは、株式投資をするならば、10月から11月にかけて、開始し、翌年の4月から5月に売りを出すことが有利であるという証拠です。

つまり、秋に株価は下がりやすく、株を安く買える可能性が高いということです。

そして、翌年の春には株価は回復し、高く売れる可能性が高いというデータです。

ヘッジファンドの決算期と、ピッタリ合います。

このデータは、一切、表に出ていないデータですので、ぜひ、上記のデータを念頭に入れて、投資を行なうようにすれば、かなりの確率で上手くいくと思います。

《 第九章のまとめ 》

1. 中長期投資の考え方。

中長期投資のメリットは、何といても「時間を味方につけることができる」ということです。まずは、中長期投資で安定した利益を得られるようにしていきましょう。

2. 1年間のスケジュールと、アノマリー。

株式市場での年間のスケジュールをきちんと理解しましょう。

これを理解することで、機関投資家の動きや、個人投資家の動きが読み取れ、メリハリの利いた投資行動が身に付きます。

3. 株価上昇を見るポイント。

「営業利益」、「当期純利益」、「一株あたり利益」の伸び率が、15%以上で、ROEは、15%前後、ROAは、7%前後のものを目安に銘柄を探します。

4. P/Lの比率。

P = 買い値より、30%以上上がったら、半分利食い。残り半分は保有。

L = 買い値より、終値が、7-8%以上、下落していれば損切り。

5. 日経平均株価チャートのトレンドを確認する。

株式投資で儲けるには、トレンドを見極めることが大切です。

日経平均株価のトレンドをしっかりと確認しましょう。

6. 移動平均カイリ率マイナス5~10%前後から切り返しが、最初の買い

先ず、最初の買いは、できるだけ有利なところで、買いを入れます。

日経平均株価が調整したとき、「25日移動平均カイリ率」を確認し、マイナス5%~10%になっていたら、買いを考えます。

7. 高値ブレイクで追加買いのチャンス。

直近高値をどんどんブレイクして、高値を更新するような銘柄は、機関投資家や、ファンドが買っている可能性が高く、長期間、上昇することが良くあります。

直近高値を一気にブレイクするようなら、そこで買いを入れます。

8. 売りのタイミングを見極める指標。

売りのタイミングは、できるだけ「テクニカル分析」により、判断するほうが良いでしょう。

「3つのパターン」をしっかり覚えておき、目標株価を想定しておきます。

9. 思惑が外れた場合、損切りをして、投資資金を確保する。

思惑が外れたら、資金を守るために、「損切り」は必ず行なってください。

10. ヘッジファンドを味方につける投資手法。

ヘッジファンドの決算月は、毎年5月、11月とされています。

そして、歴史的に見て、この5月、11月前後、株式市場は急落することが多くなりました。

ヘッジファンドの決算期を狙って、買いの準備を行います。

第九章 マネーマネジメント（資金管理）

1. マネーマネジメントとは

株式投資初心者の方は、「マネーマネジメント」と聞いて、すぐに“ピン”と来る方は少ないと思いますが、とても重要な概念ですので、初心者の方にも理解できるように解説したいと思います。

「マネーマネジメント」が必要な理由はただ一つだけです。

それは…

“資金を失うのを、避けるためです”

株式投資は、資金が大きいほど有利になるゲームであることは、すでに述べた通りです。ただ、株式投資をこれから始めようとする方は、最初から大きな資金を用意することは困難だと思います。

したがって、小さい資金なら、できる限り過大なリスクを避けるべきなのです。

下の表をご覧ください。

これは、自分の資産が何%減少したら、それを回復するのに、どれくらい利益を上げなくてはならないのかを計算した表です。

(損失)	(回復に必要な利益)
-5%	5.3%
-10%	11.1%
-15%	17.5%
-20%	25.0%
-30%	42.9%
-50%	100%
-60%	150%
-90%	900%

これを見ますと、株式投資に投じた資金が、20%減少までは、回復の可能性がありますが、-30%以上の資金を失うと、回復はかなり難しい状況になることがご理解いただけるかと思います。

資金の半分を減らしてしまった場合、2倍のパフォーマンスを上げなければ、元の資金に回復できないということです。

かなりシビアですよね……。

これが、「株式投資は、資金が大きいほど有利になるゲーム」という根拠です。

先ほど、「マネー・マネジメントは、資金を失うことを避けるため」とお話ししました。資金を失わなければ、投資を長く続けることができます。

つまり、「マネー・マネジメント」の本質は、リスクをコントロールし、投資を長く継続させるために必要なこと。といえるでしょう。

したがって、株式投資を始めるときに、この「マネー・マネジメント」を計画立てて投資に望む必要があります。

次の項では、心理的な側面から、投資家の行動にどのような影響を与えるかを解説したいと思います。

少し専門的なお話になりますが、感覚的に理解していただけるだけで結構です。

詳しく知りたい方は、以下の書籍を参考にしてください。

アマゾンで検索すれば、出てきます。

- ・「マネーの心理学」(林 康史)
- ・「行動ファイナンスと投資の心理学」(ハーシュ・シェフリン)

2. 行動ファイナンスと、投資の心理学

「行動ファイナンス」とは、心理学が経済活動に与える影響を研究する学問で、欧米では、活発に研究が行なわれています。

「行動経済学」で、2002年に、ノーベル経済学賞を受賞した、ダニエル・カーネマン博士は、人間の心理的傾向を考慮した意思決定理論である「プロスペクト理論」を提唱しました。

これは「経済活動において、人間は不確実性の下では、必ずしも合理的判断で意思決定を行なっているとは限らないということであり、経済学が想定する規範的な合理性とはかけ離れた意思決定をする。」という意味です。

この「行動経済学」を金融分野で応用しているのが、「行動ファイナンス」という学問です。この「プロスペクト理論」では、次のことが言われています。

- ・人間は、確実な結果を好む
- ・人間は利益を受けるときはリスクを避けようとし、損失を被るときは、リスクを取ろうとする。
- ・人間の表現の仕方によって、選択を変える傾向がある。

何を言っているのか、分からないと思いますが、私のように何度も失敗している人間には、身につまされるほど、よく理解できます。

- ・人間は、確実な結果を好む
⇒ **目先の利益を欲しが**る。
- ・人間は利益を受けるときはリスクを避けようとし、損失を被るときは、リスクを取ろうとする。
⇒ **利食いが早くなり、含み損があるときは、ナンピンしたり、損切りを先送りする。**
- ・人間の表現の仕方によって、選択を変える傾向がある。
⇒ **ファンダメンタルズ、テクニカル分析などで、自分に都合の良いように解釈する。**

そもそも、人間の脳は、「**痛みを避け、快楽を得ようとする**」ことが、プログラミングされているようです。

ですので、投資で失敗するということは、ある意味、「当たり前」なのかも知れません。しかし、私たちは投資の世界で勝たなくてはなりません。

したがって、「上手くいかない」と思ったとき、この「プロスペクト理論」のことを思い出すようにしてください。

3. 投資資金と、リスク率の決定

では具体的に、「マネー・マネジメント」は、どのように行なえば良いのでしょうか。

重要なことは、「一度に有り金の全てを投資しない」ということです。

(例)投資資金、100万円のケースで考えてみましょう。

- ・ 資金 : 100万円
- ・ 待機資金 : 50万円
- ・ **投資資金 : 資金 (100万円) - 待機資金 (50万円) = 50万円**

株式投資に使う金額は、50万円を使います。

そして、取るべきリスクは、100万円に対して、どれだけの「リスク率」を決定するかそれを決めます。

「リスク率」については、個々のおかれている環境や、資金量、技術的問題等、さまざまですので、一概には言えませんが、仮に勝率が50%であるならば、「リスク率」は、一回の売買について、「3%~5%」が一般的かも知れません。

つまり、投資している金額は「50万円」ですが、「リスク率」は、「総資金」である100万円に対して計算します。

したがって、**総資金 100万円 × リスク率 (5%の場合) = 5万円**

となり、1回の売買で損失が許容できる最大の損失額は、「**マイナス 5万円**」ということになります。

1回の売買で、マイナス5万円で、「損切り」ということになります。

したがって、株を買うときにタイミングが、非常に重要になってくるのです。

「株を買うタイミング」については、第七章で説明した通りです。

覚えているでしょうか…？

- ① その年の、「9月—11月」で
- ② 騰落レシオが、「70ポイント以下」になり、
- ③ 「信用取引の評価損益率」が、マイナス20%前後
になったときが、本当の買い場なのです。

と説明しましたね。

これをもとに、テクニカル分析の判断を加味することで、「リスク」を低減させることが可能になってきます。

周りが「強気」になっていて、「高値」で株を買うような行動に出れば、あっという間に全資金の20%は吹き飛んでしまいます。

ですので、絶対に高値を買うような行動は、しないように注意してください。

また、ペーパートレード(投資シミュレーション)でやるのと、実際に自分の資金を投入するのでは、「心理的バイアス」がまったく違ってきます。

つまり、シミュレーションではできていたことが、自分の資金で売買を始めた瞬間、うまくできなくなるのです。

これは、先ほどの「行動ファイナンス理論」でお話したように、リアルマネーの場合、どうしても「心理的バイアス」がかかってくることに起因します。

これは、多くの投資家が体験していることです。

自分のお金が株価の変動と同時に、増えたり、減ったりしているのを見ていると冷静な判断力を失います。

これは、「リスクを取る」ということに慣れていないため、どうしても誤った行動になりやすいことに起因します。

取引に慣れるまで、初めは少しずつ、取引に慣れることを優先させましょう。

上記の計算例は、あくまでも基本モデルです。

相場が下落から上昇に転じてくれば、投資資金を70万円、待機資金を30万円くらいにしても、構わないでしょう。

ただ、その場合、「リスク率」をタイトにするなど、工夫が必要になってきます。

目的は、資金を失わないようにして、取引に慣れることです。

株を買うタイミングは、あくまで第六章「売買のタイミングを考える」に基づきます。

間違っても、「感情」で売買することは、避けるようにしてください。

4. エクセルを使い、資産の増減を、グラフで確認する

売買の記録は、毎日、記録していきます。

マイクロソフトのエクセルを使うのが良いでしょう。

毎日、売買しなくても、株式を保有していれば、必ず、毎日、資産の増減が発生します。

それを、エクセルに数字をつけて、管理していきます。

初めは、面倒な作業かもしれませんが、株式取引で成功したいなら、

必ず、この作業は行なうようにしてください。

《この作業を行なう理由》

- ・株価の変動が、金額ベースで把握できる。
- ・リスクに敏感になる。
- ・うまくいかなかったときの、検証材料となる。
- ・自分の目的とする利益を実現できているかを確認できる。
- ・改善の材料になる。
- ・どれくらいの時間で、利益が増減するか、感覚がつかめる。
- ・利益が出てきたら、付けるのが楽しくなる。
- ・損をしても、きちんと付けることで、自分をごまかすことができなくなる。

このような記録を付けることで、モチベーションの維持にも繋がります。

また当初、自分が決めた目標と、どれだけ乖離があるかをチェックできます。

ただ、証券会社の発注システムに記載されている「総資産」だけ見ても

「どんな進捗を辿ったのか」ということまでは分かりません。

プロのディーラー、トレーダーは、毎日、詳細な記録をつけることを義務化されています。

そして毎日、その数字を持って、上司に報告します。

プロがやっていて、私たちがしなかったら、やはりプロに負けてしまいます。

市場は、プロもアマもありません。

勝つためには、「プロ」と同じように、やるべきことをしなくてはならないのです。

私が付けている、エクセルのデータを参考にしていただければと思います。

1		
2	2009年1月	¥-72,030
3	2009年2月	¥329,843
4	2009年3月	¥527,949
5	2009年4月	¥298,952
6	2009年5月	¥-37,966
7	2009年6月	¥365,962
8	2009年7月	¥51,049
9	2009年8月	¥216,046
0	2009年9月	¥75,308
1	2009年10月	¥43,485
2	2009年11月	¥79,496
3	2009年12月	¥38,710
4	2010年1月	¥0
5	2010年2月	¥0
6	2010年3月	¥0
7		
8		
9	2009年度実現益	¥1,916,804
0	2009.01 勝敗	10勝2敗
1	2009.01 騰落率	191.68%
2	2009.01 年利回り	191.68%
3		

騰落率＝毎日の損益合計 ÷ 1,000,000 × 100 で計算式を入れています。

年利＝(毎日の損益合計 ÷ 365) × 経過日数 ÷ 1,000,000 で計算式を入れています。

1 年が終了した時点で、「騰落率」、「年利回り」の数値は一致します。

(図-①)

日付	損益	評価損	総資産額	損益率	出金	出金合計
2009/3/2	¥-100,203	¥0	¥2,393,461	-4.187%	¥0	¥230,000
2009/3/3	¥46,735	¥0	¥2,440,196	1.915%	¥0	¥230,000
2009/3/4	¥22,192	¥0	¥2,462,388	0.901%	¥0	¥230,000
2009/3/5	¥81,033	¥0	¥2,543,421	3.186%	¥0	¥230,000
2009/3/6	¥21,506	¥0	¥2,464,882	0.872%	¥100,000	¥330,000
2009/3/9	¥-23,803	¥0	¥2,441,079	-0.975%	¥0	¥330,000
2009/3/10	¥-22,630	¥0	¥2,418,449	-0.936%	¥0	¥330,000
2009/3/11	¥-2,095	¥0	¥2,416,354	-0.087%	¥0	¥330,000
2009/3/12	¥-71,626	¥0	¥2,344,728	-3.055%	¥0	¥330,000
2009/3/13	¥-28,931	¥0	¥2,315,797	-1.249%	¥0	¥330,000
2009/3/16	¥50,764	¥0	¥2,366,561	2.145%	¥0	¥330,000
2009/3/17	¥42,287	¥0	¥2,408,848	1.755%	¥0	¥330,000
2009/3/18	¥-14,893	¥0	¥2,393,955	-0.622%	¥0	¥330,000
2009/3/19	¥30,336	¥0	¥2,422,550	1.252%	¥0	¥330,000
2009/3/23	¥26,661	¥0	¥2,449,211	1.089%	¥0	¥330,000
2009/3/24	¥226,185	¥0	¥2,525,396	8.956%	¥0	¥330,000
2009/3/25	¥-83,287	¥0	¥2,442,109	-3.410%	¥150,000	¥480,000
2009/3/26	¥0	¥0	¥2,442,109	0.000%	¥0	¥480,000
2009/3/27	¥292,976	¥0	¥2,535,085	11.557%	¥0	¥480,000
2009/3/30	¥-21,509	¥0	¥2,513,576	-0.856%	¥200,000	¥680,000
2009/3/31	¥56,251	¥-97,745	¥2,564,087	2.194%	¥0	¥680,000

私は、信用取引で「短期売買」を行なっていましたので、毎日、損益が確定しています。

したがって、皆さんは、毎日このように金額が計上されることはないと思います。

「総資産」では、常に元金の 255 万円を意識するために、毎日、記入します。

定期的に、儲かった金額を引き出しています。

引き出した資金は、「待機資金」にします。

¥896,926
¥-368,977
11勝9敗
¥81,539
¥-40,997

これは、「図-①」の表から、「総利益」、「総損失」を計算しています。

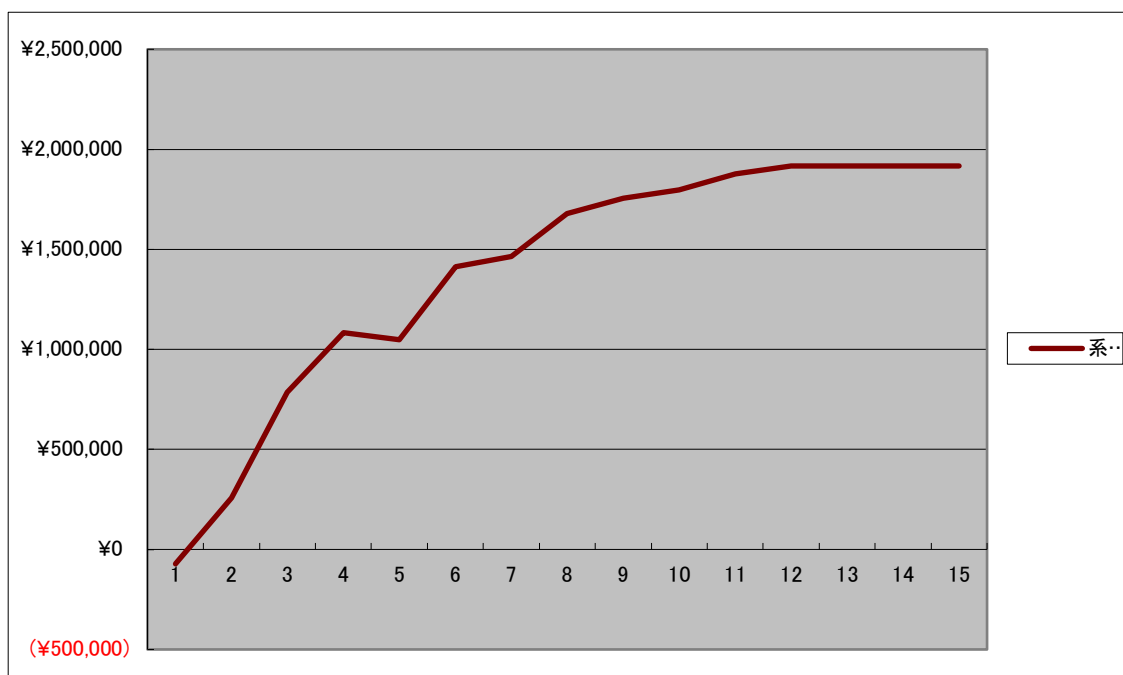
2009年3月の、総利益=896,926円、総損失=368,977円、差引 +527,949円

1日あたりの平均利益=81,539円、1日あたりの平均損失=-40,997

というふうに計算をしています。

以下のグラフは、2009年1月から12月までの、損益グラフです。

毎日の、資産状況を意識することで、目的と資産曲線が一致しているかを
確認します。



これが、私が毎日付けている、「損益シート」です。

ぜひ、これらを参考にして、あなたに合ったものを作ってください。

《 第十章のまとめ 》

1. マネーマネジメントとは

「マネーマネジメント」の本質は、リスクをコントロールし、投資を長く継続させるために必要なことです。したがって、過剰なリスクを取らないよう、管理することが求められます。

2. 行動ファイナンスと、投資の心理学

この「プロスペクト理論」では、次のことが言われています。

- ・人間は、確実な結果を好む
- ・人間は利益を受けるときはリスクを避けようとし、損失を被るときは、リスクを取ろうとする。
- ・人間の表現の仕方によって、選択を変える傾向がある。

3. 投資資金と、リスク率の決定

一度に全ての金額を投資せず、総資金の 50%前後の資金を投入します。そして、「リスク率」を決め、そのリスク率に達した場合、「損切り」をして資金を守ります。

4. エクセルを使い、資産の増減を、グラフで確認する

プロのディーラー、トレーダーが、毎日、詳細な記録をつけるように、私たちも自分の資金がどのように推移しているのかを確認しなければなりません。

毎日確認することで、資金を守るために必要な、スキルが身に付きます。

第十一章 「損切り」を確実にしない、資金を守る

1. 損切りの良し悪しが、パフォーマンスを左右する

熟練した投資家が、もっとも頻繁に失敗することは、何だと思いませんか？

それは、「**早期に損切りすることをためらい、損失幅を広げること**」なのです。

熟練した投資家でさえ、私たちと同じような失敗をいつも繰り返すのです。
初心者なら、なおさら失敗を繰り返すことになるでしょう。

先ほど、「**マネー・マネジメント**」のところで触れましたが、投資する資金が枯渇してしまえば、利益を上げるどころか、投資することさえできなくなってしまいます。

したがって、「**絶対に資金を減らしてはならないのです。**」

しかし、株式投資をするということは、資産が減少する「**リスクを取る**」ということなのです。

リスクを取る以上、危険が伴うわけですから、その危険を野放しにすることはできません。
危険である以上、それを**上手くコントロール**することが求められます。

つまり、「**いかに、損失をコントロールできるか**」ということなのです。

株式投資をしても、全て負けることが決まっていたら、誰も投資など行ないません。

勝つ確率は、50%です。

100回やって、50回は負けますが、50回は勝つのです。

負けを排除することはできません。

したがって、「**上手い負け方**」をするしか方法はないのです。

「上手い負け方」ができるようになれば、利益は後から、勝手についてきます。

重要なのは、「株を買うタイミング」、「資金管理」、「上手に負けること」の3つです。
そして、いかに上手く負けるかで、投資収益は大きく変わってくるのです。

2. 負け上手になるために、どうすれば良いのか？

では、「負け上手」になるためには、どうすれば良いのでしょうか？

私が実践していることは・・・

- ① あらかじめ、損失許容額を決めておく。(例・金額で-3万円に達したら損切り。)
- ② 損切りラインを、株価チャート上にラインを表示しておく。
- ③ 損切りラインに、「逆指値注文」を入れておき、強制的に損切りする。
- ④ 知り合いの証券マンに宣言し、損切りを後押ししてもらう。
- ⑤ 損切りに至った株式のチャートを振り返り、損切りするのが正しかったことを確認する。
- ⑥ 毎日、トレード日記をつけ、損切りした自分が正しかったことをノートに書き留める。
- ⑦ 連敗しても、感情的にならず、連敗の原因を見つけ出し、その改善策を考える。
- ⑧ しばらく、売買を中止し、客観的に相場を検証する。

だいたい、こんな感じですね・・・。

決して難しいことしているわけではありません。

損切りができる、できないは、「感情」が左右します。

これは、金融機関のディーラーも、個人投資家もやることは同じです。

金融機関のディーラーは、損切りをしなければ、上司から怒鳴られます。

最悪の場合、配置転換になります。

しかし、私たち個人投資家は、損切りしなくても、誰に怒られるわけでも、配置転換される訳でもありません。

なので、自分自身に言い訳してしまえば、それで終わります。

- ・ 「明日には、回復するだろう」
- ・ 「明日には、回復するはずだ！」
- ・ 「明日には、回復して欲しい」
- ・ 「明日には、回復するように、神様に祈ろう」

このように、思っているうちに、株価はどんどん下がって、資金がなくなります。どうしても、損切りに自信が持てない場合、投資の仲間を見つけてください。そして、その仲間に、「A社株を〇〇円で買った。いくらで損切りする予定だから、もし、僕が損切りできないようなら、背中を押して欲しい」と頼んでみましょう。

そうやって、相互協力をしていくのです。

「損切り」は、思っている以上に、自分をコントロールできなくなる状況に陥ります。

しかし、莫大な利益をたたき出している投資家も、同じような悩みを持っていたということを忘れないでください。

そして、この悩みを解決し、耐え凌いで、突破できた人間だけが、成功をつかめるのです。

3. 塩漬け株は、即、現金化する

もし、あなたが過去に株式投資を行なっていて、「塩漬け株」を保有しているなら、**その銘柄は、即、現金化すべきでしょう。**

なぜなら、それは、あなたの思惑とは、まったく違った動きをしているからです。それ以上でも、それ以下でもありません。

あなたは、塩漬けしている銘柄が、上がると思って買ったはずですが、しかし、あなたの思った通りにならなかった……。

あなたは、こう思っているはずですが……。

「もっと早く、損切りしていれば良かった…」と。

塩漬けしている株も、いつかは買い値に戻るかもしれません。
しかし、それがいつになるか分かりません。
また、戻るかどうか、分からないのです。

その状況は、「プロスペクト理論」における、
「人間は利益を受けるときはリスクを避けようとし、損失を被るときは、リスクを取ろうとする。」
ということそのものです。

つまり、あなたはずっと「損失を被るためのリスクを取り続けている」ということです。

後ろ向きの「リスク」は、報われることはほとんどありません。
私も、大失敗をしている人間の一人です。
なので、そのことは良く理解できています。

一番良い解決策は、「すべて一度、現金化する」ということです。

現金化することで、あなたを縛っていたものから開放されます。

開放されれば、良いアイデアの一つや二つは、出てきます。

そして、それを実践することができます」。

すると一転して、ネガティブな感情から、ポジティブな感情へ変化します。

この変化がとても重要なのです。

とにかく、塩漬け株は、即、現金化するようにしてください。

4. 損失を受け入れること

どんな投資家にもあてはまることですが、失敗の最大の原因は、

「損切りすべき時に、損失を受け入れることができない」ということです。

損失は、回復するより、拡大するという、厄介な性質を持っています。

かつて、日本の金融機関は、「不良債権」という、魔物に支配されました。すべては、金融機関のトップ、大蔵官僚、政治家のトップが、損失処理を「先送り」したことで、「不良債権額」が、拡大の一途を辿り、結局は我々の税金が投入されることになったのです。

私たちが、株式投資において、損失額が予想以上に拡大したり、塩漬け株を保有していることの、すべての原因は、「損失の先送り」にあります。

このテキストを読んでいるあなたは、絶対に損失を先送りしないでください。

損失の先送りからは、何も良い結果は生まれません。
これだけは、言い切れます。

大きな損失の 80%以上は、まだ損失が小さかったときに、それを受け入れず、先送りしたことが、原因となっているのです。

私が、過去に一番大きな損をした金額は、8200 万円です。

これも、初めは「小さな損失」でしたが、これを「先送り」した結果、損失が拡大し、運用資産の 80%以上を失ってしまったのです。

あなたは、私と同じような失敗を絶対にしないでください。

**「小さな損失」に目をつぶってはなりません。
損失は「小さいうち」に、取り去ってください。**

これは、ガン細胞と、まったく同じです。

ガン細胞は医師しか取り除けませんが、「小さい損失」は、あなたでも取り除くことができます。
「小さな損失」を見つけたら、即、損切りのリストに加えてください。

5. 損失を受け入れやすくするための方法

人間の脳は、危険を察知した場合、無意識に「恒常性維持機能」(ホメオスタシス)が働くようになっています。心理学的にこれを言うならば、人間は自分の「安全領域」を無意識下で働くように、プログラミングされています。

したがって、「損失を受け入れられない」というのは、恒常性維持機能が働くためある意味、自然なことなのだと思います。

つまり、「損切りをする」という行為自体、あなたにとって「危険な行為」なわけです。なぜなら、「誰も損などしたくない」わけですから、自分のお金がなくなることを避けようとするのは、当然なのです。

「損はしたくない」⇒「時間をかければ損をしないで済む」=「自分にとって安全」となるわけです。

自分という人間に、プログラミングされている以上、このことは、どうしようもありません。

では、これを乗り越えるにはどうしたらよいのでしょうか？

当たり前ですが、「強制的に執行させる」か、「トレーニング」によって克服するしか方法はありません。

当初は、人間が本来持っている能力に逆らうわけですから、そう簡単にできることはありません。

したがって、「絶対に自分を責める」ことは、しないでください。

自分を責めたところで、何の解決策にもなりません。

以下に、「損失を受け入れやすくするための方法」を示します。

あなたが、「感覚的」に取り入れやすい方法から、実践してみてください。

- ① 「リスク率」から算定した価格で、「逆指値注文」を入れ、強制的に執行する。
- ② 複数単元(1000株単位なら、2000株以上)を保有している場合、
あらかじめ決めていた損切りラインに達した場合、半分だけ損切りする。
- ③ 大引けで評価損になっているなら、翌日の寄り付きで、すべて損切りする。
- ④ エントリーの50%は損失の取引であることを、しっかり認識する。
- ⑤ 友人、証券会社のブローカーに背中を押してもらおう。
- ⑥ 過去に暴落している、株式チャートを見ながら、損失が遅れた場合、
損失が加速度的に拡大することを学ぶ。

先ほども述べたように、損切りができる、できないは、「感情」が左右します。

感情を捨てることはできませんが、「コントロール」することは十分可能です。

不思議に思われるかも知れませんが、損切りすること、「抵抗感」が無くなれば、
資金は、どんどん増加していくのです。

ぜひ、あなたにも、このような「体験」をしていただきたいと思います。

《 第十一章のまとめ 》

1. 損切りの良し悪しが、パフォーマンスを左右する

「上手い負け方」ができるようになれば、利益は後から、勝手についてきます。重要なのは、「株を買うタイミング」、「資金管理」、「上手に負けること」の3つです。そして、いかに上手く負けるかで、投資収益は大きく変わってくるのです。

2. 負け上手になるために、どうすれば良いのか？

損切りができる、できないは、「感情」が左右します。

以下の方法で、感情をコントロールします。

- ① あらかじめ、損失許容額を決めておく。(例・金額で-3万円に達したら損切り。)
- ② 損切りラインを、株価チャート上にラインを表示しておく。
- ③ 損切りラインに、「逆指値注文」を入れておき、強制的に損切りする。
- ④ 知り合いの証券マンに宣言し、損切りを後押ししてもらう。
- ⑤ 損切りに至った株式のチャートを振り返り、損切りするのが正しかったことを確認する。
- ⑥ 毎日、トレード日記をつけ、損切りした自分が正しかったことをノートに書き留める。
- ⑦ 連敗しても、感情的にならず、連敗の原因を見つけ出し、その改善策を考える。
- ⑧ しばらく、売買を中止し、客観的に相場を検証する。

3. 塩漬け株は、即、現金化する

あなたが過去に株式投資を行なっていて、「塩漬け株」を保有しているなら、その銘柄は、即、現金化すべきでしょう。なぜなら、それは、あなたの思惑とは、まったく違った動きをしているからです。それ以上でも、それ以下でもありません。

一番良い解決策は、「すべて一度、現金化する」ということです。

4. 損失を受け入れること

私たちが、株式投資において、損失額が予想以上に拡大したり、塩漬け株を保有していることの、すべての原因は、「損失の先送り」にあります。

大きな損失の80%以上は、まだ損失が小さかったときに、それを受け入れず、先送りしたことが、原因となっているのです。

損失の先送りは、絶対に厳禁です。

5. 損失を受け入れやすくするための方法

人間の脳は、危険を察知した場合、無意識に「恒常性維持機能」(ホメオスタシス)が働くようになっています。心理学的にこれを言うならば、人間は自分の「安全領域」を

無意識下で働くように、プログラミングされています。

したがって、「損失を受け入れられない」というのは、恒常性維持機能が働くためある意味、自然なことなのだと思います。

損失を受け入れやすくするために、「感覚的」に取り入れやすい方法から、実践してみてください。

- ①「リスク率」から算定した価格で、「逆指値注文」を入れ、強制的に執行する。
- ②複数単元(1000株単位なら、2000株以上)を保有している場合、あらかじめ決めていた損切りラインに達した場合、半分だけ損切りする。
- ③大引けで評価損になっているなら、翌日の寄り付きで、すべて損切りする。
- ④ エントリーの50%は損失の取引であることを、しっかり認識する。
- ⑤ 友人、証券会社のブローカーに背中を押してもらおう。
- ⑥ 過去に暴落している、株式チャートを見ながら、損失が遅れた場合、損失が加速度的に拡大することを学ぶ。

【 memo 】

第十二章 投資プラン・トレード日誌をつける

1. 投資プランを作るための材料

では、この章からは、株式投資を成功させるため、「投資プラン」を作成していきます。株式投資をするための「計画書」ですね。

株式投資は、資産を増やすために行ないます。つまり「儲ける」ことが目的です。

計画なしに儲けられるほど、甘い世界ではありません。計画を作ったからといって、必ず儲けられるものでもありません。

しかし、計画をきちんと立案することで、成功への確率は高まります。したがって、「投資プラン」は、絶対に必要不可欠なものなのです。

「投資プラン」を作成する上で、とくに決まったフォーマットは存在しません。したがって、どんな形態でも構いません。あなたが、使いやすいように作成してみてください。

ただ、初めて作成することになると思いますので、私が使用しているフォーマットをご紹介しますので、それを参考に、ご自身で自由にカスタマイズしてみてください。

これから、順を追って説明します。

2. 目標を明確にする

まず、投資を行なう「目的」を明確にしましょう。

「明確な目標」をもって投資に望んでいる個人投資家は意外に少ないと思います。ただ単に「儲けたい」、「老後のための資金作り」ということでは、目的とはいえません。

私のいう「明確な目標」とは、いつまでに、いくら儲けて、そのお金は具体的にどのように使うかを明確にすることです。

たとえば・・・

- ・都内にある新築マンション(4LDK)の頭金に充てる。
- ・ハワイに移住する。
- ・〇〇の事業を始めるための資金作り
- ・外車を買うため

など、具体的な目標を紙に書いていきます。

いくつあっても構いませんので、あなたが達成したいことを、どんどん書いていきます。

次に、収益目標と期間を決めます。

- ・都内にある新築マンション(4LDK)の頭金に充てる。
⇒ 300万円の資金を、5年後に1000万円にする。
- ・ハワイに移住する。
⇒ 10年後に移住のため、1億円作る。
- ・〇〇の事業を始めるための資金作り
⇒ 100万円を、5年で300万円にする。
- ・外車を買うため
⇒ 100万円を、3年後に300万円にする。

あまり、過大な収益目標は避けてください。

現実的な目標を立てるようにしてください。

3. 自分の現状を認識する

次に、現在の「自分」を客観的に評価してみます。

「明確な目標」を掲げても、その目標を達成するために必要な、「知識」、「技術」、「情報」「哲学」などが、今の自分が持っていないなら、それは「絵に描いた餅」になりかねません。

「明確な目標」を達成するために必要で、今の自分には、それが不足していると思うことを思いつく限り、書いていきます。

たとえば・・・

- ・財務分析の知識が不足している。
- ・テクニカル分析の知識が不足している。
- ・情報をえる手段を決める。
- ・勉強のために、セミナーに参加する。
- ・投資する資金が少ないので、副業をして資金作りをする。
- ・自分のメンターを見つける。
- ・損切りの訓練をする。
- ・投資家の自叙伝を読んで、心理状況を考える。

などです。

この「不足しているもの」は、これからあなたが勉強しなくてはならない項目です。この勉強を行い、資金を作り、自分のメンターを決め、技術を磨いていくことが、目標を達成するための、「課題」になります。

あとは、この「課題」に優先順位をつけ、一步一步進んでいきましょう。

焦って、安易に投資をしてはいけません。資金を、減らすことに繋がるからです。

「明確な目標」と、「自分の現状」のギャップが大きければ大きいほど、まずは、それを埋めることから優先します。ギャップが大きい状態で、安易に投資をしてしまえば、目標が達成できる確率は大きく低下します。

4. 投資収益の目安を考える。

では、投資収益の目安を考えたいと思います。

どれくらいの投資収益を実現できれば自分の目標が達成されるのでしょうか。

上記の例から、見てみましょう。

・都内にある新築マンション(4LDK)の頭金に充てる。

⇒ 300万円の資金を、5年後に1000万円にする。

この目標を達成するためには、年率何%の収益を実現すれば可能なのでしょうか？

私は、エクセルを使って、このようなシミュレーションを行ないます。

経過年数	全資産額	期末元本	100.0%	
			株式	
			34.08%	年率(%)
		残高推移	残高推移	運用収益額
1年後	¥4,022,400	¥3,000,000	¥4,022,400	¥1,022,400
2年後	¥5,393,234	¥3,000,000	¥5,393,234	¥2,393,234
3年後	¥7,231,248	¥3,000,000	¥7,231,248	¥4,231,248
4年後	¥9,695,657	¥3,000,000	¥9,695,657	¥6,695,657
5年後	¥12,999,937	¥3,000,000	¥12,999,937	¥9,999,937
6年後	¥17,430,316	¥3,000,000	¥17,430,316	¥14,430,316
7年後	¥23,370,568	¥3,000,000	¥23,370,568	¥20,370,568

上記のように、300万円を5年で1000万円にするには、年率で約34%の収益で達成することになります。(このシミュレーションは、複利計算で行なわれています)

株式投資の場合、全てが再投資されるわけではありませんが、大まかな目安としては十分理解できると思います。

1年で、30%の値上がりをする株式に投資し、それを5年間続けることができれば、あなたの目標は達成されるはずです。

では、5年後に、2000万円達成させるには、どれくらいの収益が必要でしょうか。

経過年数	全資産額	期末元本	100.0%	
			株式	
			50.29%	年率(%)
		残高推移	残高推移	運用収益額
1年後	¥4,508,609	¥3,000,000	¥4,508,609	¥1,508,609
2年後	¥6,775,852	¥3,000,000	¥6,775,852	¥3,775,852
3年後	¥10,183,222	¥3,000,000	¥10,183,222	¥7,183,222
4年後	¥15,304,055	¥3,000,000	¥15,304,055	¥12,304,055
5年後	¥23,000,000	¥3,000,000	¥23,000,000	¥20,000,000
6年後	¥34,566,002	¥3,000,000	¥34,566,002	¥31,566,002

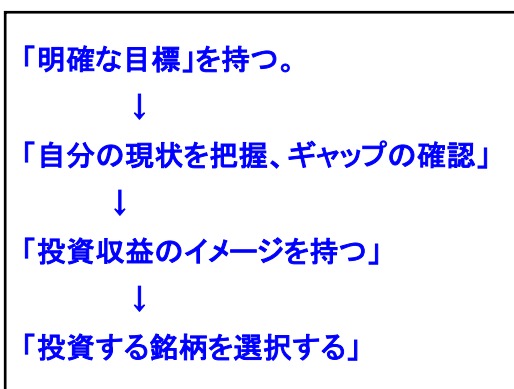
上記、シミュレーションでは、年率 50%の投資収益が必要ということです。

つまり、1年で2倍になる銘柄を、5年間に渡り投資することができれば、目標は達成されることとなります。

このように、年間の収益によって、どれくらい自分の資産が増加するのか、だいたいの収益、金額増加のイメージを持つておくことは大切です。

イメージがリアルであるほど、目標を達成する確率は、飛躍的に高まります。

このイメージができれば、後は、イメージする投資収益を得られるような銘柄を選ぶことに集中します。



この、プロセスを大切にしてください。

5. 投資プランを作成する

では、この章で理解したことを、「投資プラン」に落とし込みます。
先ほどの、例でいうと、こんな感じになると思います。

・投資プラン①

【明確な目標】 ■ マンションを購入する ■ 事業をする ■ 車を買う etc

【具体的な金額・期間】 300万円を、5年で1000万円にする
【投資収益のイメージ】 年率： 30%

↑	《ギャップ》
↑	
↑	・ファンダメンタルズ分析の知識をつける。
↑	・テクニカル分析の力をつける。
↑	・売買に慣れる。
↑	・メンターを見つける。
↑	・セミナーに出席する。
↑	
↑	
↑	
↑	
↑	

【自分の現状】 ・株式投資を始めたばかりで、知識、技術が不足
--

この項目を定期的に見直し、変更していきます。

そして、四季報をベースに、「株式買い付けリスト」を作成します。

以下は、例として入力していますが、定期的に数字を変更してください。

■日経平均株価		○月				
PER(225)	27.80倍					
PBR(225)	1.09倍					
騰落レシオ	85.0 P					
評価損益率	-17.10					
■買い付け候補銘柄						
銘柄	コード	株式持分比率	売上高伸び率	営業利益伸び率	当期利益伸び率	EPS伸び率
PER	PBR	ROE	ROA	CF	Debt	テクニカル

なお、この「投資プランシート」、「株式買い付けリスト」とも、特典としてお付けしています。

ご自身が使いやすいように、カスタマイズしてお使いください。

6. トレード日誌をつける（売買記録をつける）

以下、私が実際に使っている、「トレード日誌」です。

私は、短期売買で使用していますが、長期投資でも、同じフォーマットで使用できます。

このシートも、特典でお付けしています。（カスタマイズ可能）

この、「トレード日誌」で、重要な位置づけをお伝えしておきます。

- ・ 「目標利益」・・・今年1年の目標利益を記入します。そして、毎日、確認します。
- ・ 銘柄の下の四角枠・・・私は手書きで、チャート図を描き、仕掛けのポイントを記入しています。記入しておくことで、検証作業が楽になります。
- ・ 「仕掛け理由」・・・なぜ、仕掛けを行なったのか、その理由をできるだけ細かく書きます。これも、後で検証するときに、非常に役立つ情報になります。
- ・ 「決済理由」・・・なぜ、決済を行なったのか、その理由をできるだけ細かく書きます。これも、後で検証するときに、非常に役立つ情報になります。また、損切りなら、その損切りに至った理由を書きます。
- ・ 「結果・改善」・・・改善する要件があれば、改善点を書いておきます。そして、その改善点を、次回の投資に生かします。

この「トレード日誌」は非常に重要な位置付けになります。

これは、自分だけしか見ないものなので、自分に都合の悪いことがあれば、それを優先して、気付いたことを、どんどん書き込みます。

この情報の中に、今後、投資を行なっていく上で、重要なヒントがあります。定期的に、見直すようにしてください。

《 第十二章のまとめ 》

1. 投資プランを作るための材料

計画なしに儲けられるほど、甘い世界ではありません。計画を作ったからといって、必ず儲けられるものでもありません。しかし、計画をきちんと立案することで、成功への確率は高まります。したがって、「投資プラン」は、絶対に必要不可欠なものなのです。

2. 目標を明確にする

「都内にある新築マンション(4LDK)の頭金に充てる。」「ハワイに移住する。」
「〇〇の事業を始めるための資金作り」、「外車を買うため」など、具体的な目標を紙に書いていきます。
いくつあっても構いませんので、あなたが達成したいことを、どんどん書いていきます。

3. 自分の現状を認識する

「明確な目標」を掲げても、その目標を達成するために必要な、「知識」、「技術」、「情報」
「哲学」などが、今の自分が持っていないなら、それは「絵に描いた餅」になりかねません。
「明確な目標」を達成するために必要で、今の自分には、それが不足していると思うことを
思いつく限り、書いていきます。

4. 投資収益の目安を考える。

年間の収益によって、どれくらい自分の資産が増加するのか、だいたいの収益、金額増加の
イメージを持つておくことは大切です。
イメージがリアルであるほど、目標を達成する確率は、飛躍的に高まります。

5. 投資プランを作成する

明確な目標を「投資プラン」に落とし込みます。できるだけ具体的に記入してください。
株式買い付けリストには、四季報をベースに財務指標など、銘柄選択に必要なデータを
入力し、買い付けのタイミングを図ります。

6. トレード日誌をつける（売買記録をつける）

「目標利益」、「チャート図」、「仕掛け理由」、「決済理由」、「結果・改善」など、できるだけ
細かく、後で見直したときに分かるように書いておきます。
改善点は、次回の投資に生かします。
この「トレード日誌」は非常に重要な位置付けになります。

第十三章 メンタル・マネジメントについて

1. 成功に必要な「自己規律」について

投資で最も重要な部分とは、「投資家の心理状態」を、いかに良い状態を保つかということだと、私は認識しています。

また、欧米の著名投資家も、「心理的バランスが、投資収益を決める。」と言っていますので、これについては、間違いのない結論だと思います。

この「心理的バランス」を維持し、保つためには、「自己規律」が重要になります。つまり、「自分自身の売買ルール」ですね。

ただ、闇雲に株式投資をして、良い結果を出すことは、不可能だと思います。

このテキストの後半部分では、「マネー・マネジメント」、「損切り」、「投資プラン」の解説を行ってきましたが、これは、「自分自身の投資ルール」を作るための重要な項目なのです。

このテキストの、肝にあたる部分といって過言ではないでしょう。

- ・「目標はどこにあるのか」
- ・「どの局面で株を買うか」
- ・「買った株がどうなれば、利食い、損切りをするか」
- ・「何に投資するのか」
- ・「失敗の原因はどこにあるのか」
- ・「自分の得意な売買は何か」

などを、ひとつひとつ、答えを出していき、「自分自身の売買ルール」ができてきます。そして、愚直に「自分自身の売買ルール」に従って売買をしていくのです。

ここまできっちりやっている個人投資家は、全体の数パーセントでしょう。
残りの、90%以上の投資家は、ルールもなく、「儲かりそうな情報」で売買しています。
しかし、一時的には上手くいくこともあります。残念ながら、長期的に上手くいったケースは、聞いたことがありません。
これが、現実なのです。

規律の定義について

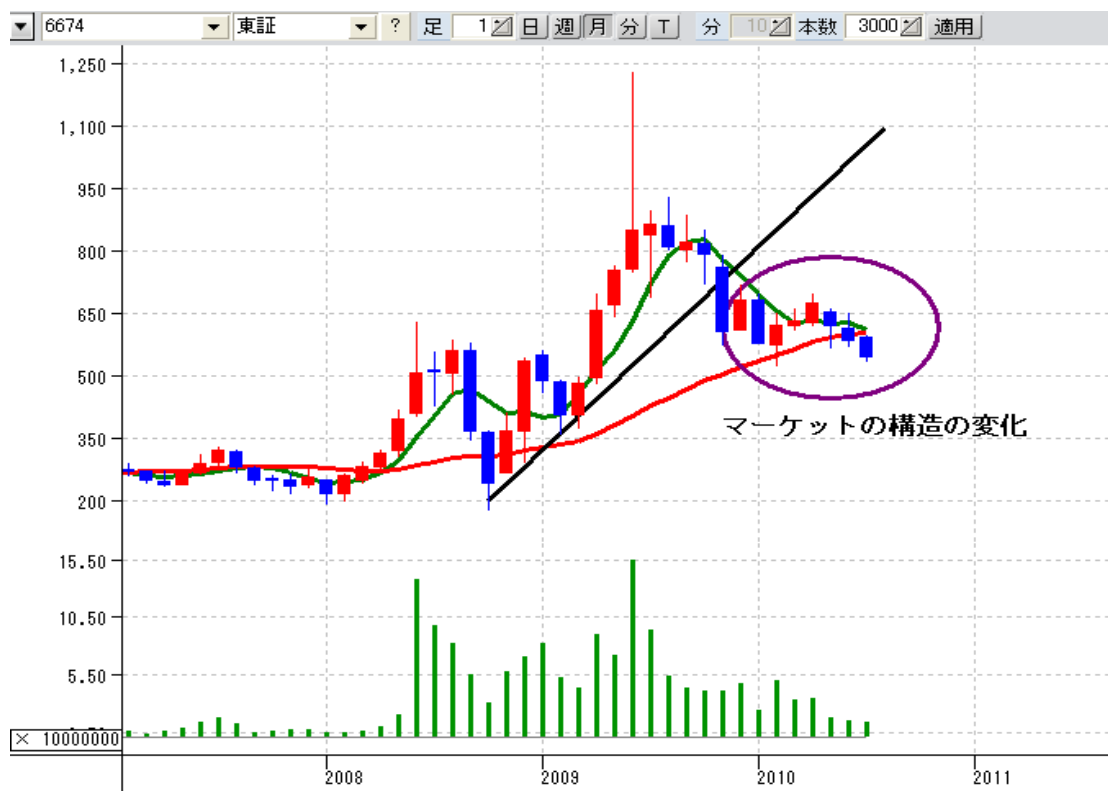
- ・ 投資プランを立案し、それを維持すること。
- ・ 売買が上手くいっているときも、そうでないときも、精神的に安定していること。
- ・ 損失を出しても、投資を継続できること。
- ・ 経験、資力に応じた、投資を行なっていること。過剰な投資は損失につながる。

このようなスタンスで投資を行なうようにしてください。

2. 長期投資は安全か？

結論から言いますと、必ずしも「長期投資」が安全ということはいえません。

場合によっては、長期投資であるがゆえに、損切りが遅れてしまうことがあるからです。
なぜなら、長期投資は、「根拠」がしっかりしている分、そのことに心理的に縛られるため、危機意識が薄れ、損失を拡大させてしまうことが良くあります。



上記は、GS ユアサ(6674)の株価チャートです。

電気自動車のリチウムイオン電池関連で、一気に人気化しました。
 株価は、8ヶ月で6倍まで上昇しています。

当時は、もっと株価は上昇すると言われていましたが、2009 年後半からは、
 株価は徐々に下落に転じています。

これは、明らかにマーケットの構造が変化してきたということです。

したがって、「まだまだ上がるから大丈夫」と、のんきに構えてはいけません。
 仮に、そう思っていたとしても、一回は売却して様子を見なくてはなりません。

含み損が出ていて、「まだまだ上がるから大丈夫」というのは、投資家心理としては、
 健全ではなく、ただ、自分自身に「言い訳」をしているに過ぎません。

株式投資に慣れていなければ、技術的に難しい「短期売買」より、「長期投資」の方が、
 時間を見方につけられる分、有利に働くことはありますが、「長期投資は安全」いう

言葉に、だまされないようにしてください。

取っている「リスク」は、長期だろうが、短期だろうが同一なのです。

3. 一貫性

投資家には、「一貫性」が必要です。

自分の目標、考え方や、やり方を、ころころと変えることは、周りに振り回されて、結果は惨憺たる状況に陥ります。

相場には必ず「波」があります。上手くいかないときが、必ず来るのです。

ですが、上手くいかないからといって、今までやってきたことを全て否定してしまうことは、決して良い策とは言えません。

変えたら変えたで、今度は、その変えた方で、同じ状況に陥るからです。

基本は絶対に変えず、その他のところで「改善点」を見つけるようにしましょう。

4. 損失を容認する

損失は、どんな投資家でも必ず、体験します。

損失を避ける方法は、ありません。

100%成功させたいという気持ちは理解できますが、それ自体、不可能なことなので、それは考えないようにしてください。

不可能である以上、損失をどのように受け入れ、次の投資につなげていくかが、建設的な議論になります。

損をするということは、タイミングが良くなかったのか、あるいは、マネジメント上での失敗なのか、原因を追究すべきでしょう。

タイミングが良くなかった場合、周りが強気だったから、つい買ってしまったとか、企業業績の見方が良くなかったなど、イメージミスの可能性があります。

また、マネジメント上での失敗であれば、資金のほとんどをつぎ込んだとか、分散をしなかったとかなど、改善点があります。

損失を容認し、その損失から、何かを学び取っていただきたいと思います。

5. ベストなタイミングが来るまで、辛抱強く待つ

私は、とてもせっかちな人間なので、「待つ」ということが、なかなかできません。だから、失敗が多いのです。

ですから、あなたはベストなタイミングが来るまで、「辛抱強く」待つようにしてください。

長期投資における、「ベストなタイミング」とは、1年に1回、2回あるかないかです。中途半端な時期に買った銘柄は、必ず損失につながります。

他人から聞いた情報や、目の前で株価がどんどん上がっているところを見てしまうと、ついつい買ってしまいます。痛いほど、気持ちがわかります。

しかし、本当に儲けている投資家は、そんな時には、すでに「売りのタイミング」を狙っているのです。

そして、彼らが売った後は、誰も買う人がいなくなるので、株価は下がっていくのです。

株式を買う、“絶好のタイミング”とは、株価が急落して、誰も株を買いたがらない時です。

このタイミングをひたすら待ちます。

でも、ただ待っているだけではいけません。

いつ、そのタイミングが来ても良いように、買いを入れる銘柄と数量を決めておかななくてはなりません。

そのタイミングで買うことができれば、短期間で含み益の領域に入る可能性が高まりますので、精神的に非常に楽になります。

精神的に楽になれば、間違った行動につながりにくなります。



一番、底値で買うことは不可能です。

ですが、確率論的にいえば、相場が低迷しているときに買ったほうが、含み損拡大につながりになくなり、結果、精神的に余裕が生まれ、積極的心構えがキープできることになるのです。

《 第十三章のまとめ 》

1. 成功に必要な「自己規律」について

良い心理的状況が、投資収益を決めます。

「心理的バランス」を維持し、保つためには、「自己規律」が重要になります。

パニックに陥ったら、一旦、市場から出て、冷静になるべきです。

2. 長期投資は安全か？

長期投資は、「根拠」がしっかりしている分、そのことに心理的に縛られるため、危機意識が薄れ、損失を拡大させてしまうことが良くあります。取っている「リスク」は、長期だろうが、短期だろうが同一です。ただし、タイミングとマネジメントさえ、しっかりしていれば、長期投資は、あなたの夢を叶えてくれるでしょう。

3. 一貫性

相場には必ず「波」があります。上手くいかないときが、必ず来るのです。ですが、上手くいかないからといって、今までやってきたことを全て否定してしまうことは、決して良い策とは言えません。基本は絶対に変えず、その他のところで「改善点」を見つけるようにしましょう。

4. 損失を容認する

損失を避ける方法はありません。損失を避けるのではなく、損失から学ぶことに力点をおきましょう。

5. ベストなタイミングが来るまで、辛抱強く待つ

長期投資における、「ベストなタイミング」とは、1年に1回、2回あるかないかです。中途半端な時期に買った銘柄は、必ず損失につながります。ベストなタイミングが来るまで、辛抱強く待つことが大切です。

第十四章 株式用語集

第十四章 株式用語集

あ行

IR(Investor Relations)―あいあーる

企業が、自社の業績や財務などの情報を投資家向けに公開することです。

移動平均線

5日移動平均線や25日移動平均線のように、過去の一定日数の株価の平均を結んだ線です。株価のトレンドを見る際や期間の異なる移動平均線を組み合わせて売買のタイミングを計る際に使われます。

一般口座

1年間の株の売買損益を計算し、利益があった場合は所得税を支払わなければなりません。株取引の売買損益の計算を投資家が自分でおこない、利益があった場合は自分で確定申告をしなければならない口座です。

インカムゲイン

「配当金」「株主優待」などの、株主が会社から貰える「分け前」のことです。株を持っているだけで得ることが出来る儲けです。

インサイダー取引

職務上、会社の内部情報を知った人が、その情報を用いて株で儲けようとする事。証券取引法166条、167条にて禁止されています。これを防ぐために、証券口座を開設する際には上場企業の関係者かどうかを申告しなければなりません。

単元未満株取引(プチ株・S株)

単元未満の株数で取引が出来るしくみのひとつです。たとえば1000株単元の銘柄を1～999株までの好きな株数で売買できるなど、ただし、指し値注文が出来ないなど、通常の単元株とは違い取引上の制限がいくつかあります。ミニ株との大きな違いは、ミニ株の名義は証券会社でプチ株・S株の名義は購入者だということです。また、どこの証券会社でも扱っているわけではなく、「プチ株」はカブドットコム証券、「S株」はE*トレード証券の商品名です。

押し目

上昇トレンドの株価が、一時的に値段を下げる事です。この押し目に株を安く買うことを「押し目買い」といいます。

終値

始値の項、参照。

か行

株(株式)

株式会社が自社に投資を受けた際に、証拠として発行するのが「株式」です。実際には「株券」という書類になっています。「株」は、株式を省略した言い方です。

株式会社

会社の経営資金を特定、または不特定多数の人からの「投資」で集めています。会社のオーナーは出資者＝株主ということになります。社長は経営者です。不特定多数の人から投資を受けられるのは、「上場」している株式会社だけです。

株価

株式市場でついた株の値段です。株式市場におけるセリ（オークション）で決まります。市場が開いている間、注文に応じて変化します。

株式市場

株式を売買するためのセリ（オークション）がおこなわれる場所です。現在ではコンピューターネットワーク上でおこなわれています。複数の証券取引所が複数の市場を運営しています。

株式分割

株主への利益還元策のひとつで、既に発行している株式を細分化し、発行済株式数を増やし、増えた分を既存の株主に無料で配布することです。既存の株を細分化するだけなので、全体の価値（時価総額）は変わりません。しかし、1株あたりの値段が下がり買いやすくなることや、利益還元に積極的にとられて株価に良い影響を及ぼすことも多くあります。

株主

株を買って株式会社に投資している人のことです。会社のオーナーである株主は、その出資金額に応じて、会社の経営に関して意見を述べる権利や配当を受ける権利を持ちます。オーナーである株主の総意で経営者をかえることもできます。

株主総会

株主が集まって会社の経営方針や決算を確認し、その承認をおこなうための集会です。通常1年に1回開かれ、株主であれば誰でも参加することができます。

株主優待

株主への利益還元策のひとつで、配当金以外に、自社製品やサービス利用券、割引券、ノベルティグッズなどを株主に配布する制度です。配当金よりも得なものもあり、株主優待めあてで株式投資をする人も多くいます。

逆指値注文(ストップロスオーダー)

株価が売買注文時から「指定の株価まで下落したら売り」「指定の株価まで上昇したら買い」とする注文形態のこと。通常の指値注文と反対の形態であるため「逆指値注文」と呼ばれています。

キャピタルゲイン

「売買差益」つまり、株の売買によって得る儲けです。

キャピタルゲイン課税

キャピタルゲイン（譲渡所得＝株の売買利益）にかかる税金です。通常は譲渡所得の10%課税されます。

バリュー株とグロース株

バリュー（割安）株は他のかぶと比べて相対的に割安な株のことです。その株本来の価値に見合うまで株価が戻ることを期待してバリュー株に投資するのがバリュー株投資です。これから成長しそうな企業の株に投資するのはグロース（成長）株投資です。自社の業績や財務などの情報を投資家向けに公開することです。

小型株・中型株・大型株

発行済株式数によって決められています。東京証券取引所では発行済株式数6000万株未満を「小型株」、6000万～2億株を「中型株」、2億株以上を「大型株」としています。一般的に、大型株よりも小型株の方が短期の値動きが激しいとされています。

決算

会社の1年間の経営結果を一定の書式にしたがってまとめることです。決算書はその報告書のことです。

源泉徴収

株の売買の際に、利益が発生したら自動的に所得税が差し引かれる納税方法です。特定口座の「源泉徴収口座」を開いている場合は源泉徴収されます。株の配当金にかかる所得税も源泉徴収されます。

源泉分離課税と申告分離課税

分離課税とは、他の所得とは関係なく課税されることです。源泉分離課税は、売買利益や配当金から所得税が引かれ納税されるしくみです。キャピタルゲインの場合は、源泉徴収口座では源泉分離課税となります。申告分離課税とは、確定申告で納税することです。

現物取引・信用取引

現物取引とは、自分の資金の範囲内で株を買うことです。信用取引とは、一定の証拠金（保証金）を証券会社に預け、それを担保に資金や株を借りて取引することです。

権利落ち

配当金など、株主としての権利を受けるには、決められた基準日に株を持っていないといけません。基準日をすぎると権利がなくなった分、株価が下がります。これを権利落ちと呼びます。基準日は受け渡し日で考えます。

口座管理料

証券口座の管理料です。ネット証券では無料のところが多いようです。普通の証券会社では年間3,000円程度の口座管理料が要る場合があります。

さ行

前場・後場

株式市場は平日の 9 時から 15 時まで（途中 11 時から 12 時半まで昼休み）開いています。証券会社やインターネットでの注文は 24 時間可能ですが、株の売買は、原則として証券取引所が開いている時間しかおこなわれません。この、取引所が開いている時間のことを、「立会時間」ともいいます。また、別名「場」ともいいます。午前の立会時間のことを「前場」、午後の立会時間のことを「後場」といいます。また、前場の最初を「寄り付き」、前場の終わりのことを「前引け」、後場の寄り付きのことを「後場寄り付き」、後場の最後を「大引け」といいます。

指し値注文

売買の値段を指定する注文方法です。注文した値段か、注文した値段より有利(売りの場合は高く、買いの場合は安く)な値段で約定します。現在の株価と離れた値段で指し値注文を出した場合は、注文自体が成立しないこともあるので注意が必要です。

塩漬け

自分の持ち株が値下がりし、上がる見込みがないと思った場合、損切りとは逆にその株が値上がるまで長期間保有し続けることを塩漬けといえます。

時価総額

ある企業の発行済株式数に、現在の株価をかけた金額です。株式会社の場合、株主が会社のオーナーですから、発行済株式を全て買えばその会社のオーナーになれるわけです。つまり、時価総額はその会社の「値段」ということになります。

証券会社

個人では証券取引所に直接売買注文を出すことはできません。そのため、証券会社を通じて株を売買します。証券取引所は市場、証券会社はスーパーマーケットのようなものです。証券会社は株の他にも様々な金融商品や投資商品を販売しています。

証券コード

上場している全銘柄に割り当てられている 4 桁の番号です。前 2 桁が業種、後 2 桁が企業を表しています。

(例) トヨタ自動車(株)(東証 1 部:7203)

72 が輸送用機器業種、03 が業種内でのトヨタ自動車株式会社の番号です。

証券取引所

株式市場を運営しているのは証券取引所という機関です。日本国内には、東京、大阪、名古屋、福岡、札幌、ジャスダックの 6 つがあります。また、同じ取引所内でも、1 部市場、2 部市場など複数の市場を持つこともあります。

証券保管振替機構(ほふり)

株を購入した場合は、名義書き換えをおこなって会社に自分が株主であることを伝えなければなりません。しかし、いちいち名義の書き換えをおこなうのは大変です。そこで、保管振替制度ができました。投資家は証券保管振替機構(ほふり)という会社に株を預けることで名義書き換えなしで株主になれるのです。現在では、ほとんどの証券会社で口座

開設の際に自動的に加入することになっています。

上場

企業が証券取引所に登録され、株式市場でその株が売買出来る状態になることです。ほぼ同じような意味の言葉に「株式公開」があります。上場するには証券取引所による厳しい審査があり、上場しているのは企業全体の0.1%未満(約4000社)です。普通個人で売買出来るのは上場企業の株だけです。

スクリーニング

条件を設定して、たくさんの銘柄の中から希望に合った銘柄を絞り込むこと。最近では高度なスクリーニング機能を持ったソフトやインターネットのサイトが増えています。

ストップ高(一安)

突発的な事件などが発生した場合、株価が急激に動くことを防ぐため、株式市場では1日の値動きの幅(制限値幅)が決められています。その幅の上限まで値上がりした場合は「ストップ高」、逆は「ストップ安」といいます。

相場

もともとは商品などのそのときどきの値段のことをいいます。たとえば、株式相場や円相場などがそうですが、商品などの取引そのものを指しても使います。

損切り

自分の持ち株が値下がりし、上がる見込みがないと思った場合、その株を売って損失を確定することを損切りといいます。

た行

W(ダブル)指し値注文

売買注文の際に時価の上下で指し値と逆指し値の両方が設定できる注文形態のこと。同じ機能でも証券会社によって呼び名が違います。W指し値(カブドットコム証券)、ツイ指し値(マネックス証券)などと呼ばれます。

単元

株の最低売買単位のことです。上場企業が自由に決めています。1株、10株、100株、1000株などで、現在1000株単位の企業が最も多いです。たとえば、1000株単元の銘柄の株価が200円である場合、 $1000 \text{株} \times 200 \text{円} = 20 \text{万円}$ が1単元あたりの投資金額になります。

チャート

株価の値動きを表したグラフです。

低位株・値がさ株

公的な定義はありませんが、株価を基準として分類されています。一般に500円未満の銘柄を「低位株」、5000円以上の銘柄を「値がさ株」と呼びます。

定額制

売買の回数に関係なく、一定期間内で合計の約定金額が一定の金額内なら手数料も一定になる仕組みです。

たとえば、イー・トレード証券の場合、1日の約定代金が50万円までなら手数料は525円、50万～100万円までなら945円になります。デイトレーダーのように頻繁に売買をする人に向いているでしょう。

出来高

株式市場で売買が成立した株数のことです。売買高とも呼ばれます。

テクニカル分析

株価チャートに表示される過去の株価や出来高の動きからパターンを読み取り、それを基に株価を分析しようとする考え方をテクニカル分析といいます。

天井と底

一定期間の株価の動きの中で、高くなっている時期を「天井」と呼び、低くなっている時期を「底」と呼びます。

東京証券取引所(東証)

日本最大の証券取引所で、TOPIXも算出しています。

東証株価指数(TOPIX)

株式市場全体を見る際に利用される指標のひとつです。東証1部に上場している銘柄全体の時価総額をポイント化して表されます。東京証券取引所が算出し、公表しているものです。

特定口座

証券会社が投資家に代わり1年間の株の売買損益を計算してくれる口座です。特定口座には「簡易申告口座」と「源泉徴収口座」の2種類があり、簡易申告口座は、源泉徴収されず、投資家が自分で確定申告をしなければならない口座です。源泉徴収口座は、1回の売買ごとに証券会社が税金を計算して源泉徴収してくれる口座です。

投資と投機

投資とは、将来の利益を期待して事業などに自己資金を投じることをいいます。

投資の対象は企業などの「お金を儲けるためのしくみ」です。

その企業自体の価値が高まることや、企業の儲けから得られる配当(分け前)などが目的です。

投機は、投資と同じような意味ですが、短期的な価格変動から利益を得ようとする場合に使われます。

投資家(市場参加者)

株を買っている人や機関のことです。個人で株を売買する「個人投資家」、企業年金などのまとまった資金を運用する「機関投資家」、海外から投資している「外国人投資家」、証券会社の「自己売買部門」などがあります。

トレンド

株価の動きの傾向のことです。上昇トレンドは株価が上昇傾向にあること、下降トレンドは下降傾向であることをいいます。

な行

成行注文

売買の値段を指定しない注文方法です。指値注文より優先されるため、ほぼ確実に約定します。ほとんどの場合、現在の株価付近で約定されますが、出来高が少ない銘柄の場合、自分が思った値段より高く買ってしまったり安く売ってしまったりする危険性があります。

難平(ナンピン)

「びん(平)」は唐音で、ならず意。取引で、損失を平均化すること。買ったあとに相場が下落しても買い増して買値の平均を下げておき、逆に売ったあとに相場が騰貴したら売り増して売値の平均を上げておくことによって、損失を回復しようとする。「一買いい」

日経平均株価

株式市場全体を見る際に最もよく利用される指標です。東証1部上場の代表的な225銘柄の株価の平均に、一定の助数をかけた数字です。この助数は日本経済新聞社が算出し、公表しているものです。

ネット証券

インターネットを通じて注文を受ける証券会社のことです。オンライン証券とも呼ばれます。インターネットのみで営業している会社と店舗営業と併用している会社があります。

年初来高値(一安値)

1年の最初から見て、最も株価が高くなったときが年初来高値、最も安くなったときが年初来安値です。

は行

配当(金)

株主への利益還元策のひとつとして、企業がその事業活動によって得た利益の一部を株主に返すのが配当です。1年に1~2回実施されますが、利益のない企業は配当金を出せません。配当金を出せないことを「無配」と呼びます。

配当課税

配当金にかかる税金です。現在は10%の源泉分離課税になっています。

配当利回り

1年間で受け取ることが出来る配当金が、株価の何%になるのかを示す指標です。配当利回り = 配当金額 ÷ 株価 × 100(%) で求められます。

売買委託手数料

投資家が証券会社に売買注文をだし、約定するたびに証券会社に支払わなければならない手数料です。証券会社によって異なり、1回の売買ごとに支払う他、定額制など、様々な方式や金額があります。

始値と終値

ある一定期間内で、最初の取引でついた株価を始値、最後の取引でついた株価を終値といいます。たとえば、ある一定期間を1日とすると、寄り付きの値段が始値、大引けの値段が終値になります。

バスケット取引

多数の銘柄をまとめてバスケット(=かご)にはいった1つの商品とみなして売買する取引です。一般的には15銘柄以上かつ1億円以上の大口の取引でおこなわれます。大口の投資家がまとまった銘柄を買いたい(売りたい)時に、証券会社が執行コスト分を上乗せ(コスト分を割引)して売りむかう(買いむかう)ことにより約定をおこないます。立会0取引や店頭市場が使われ一般の市場が閉っている時間でも取引ができることから、前場の終了後に大口のバスケット取引が約定され、後場にそれを受けた証券会社の自己売買部門が市場で執行するといったことがしばしばおこなわれます。バスケット取引は、売買数量、金額とも大きいため、どの部門(金融株、建設株など)が売買されたかで相場動向をうかがうことができます。

発行済株式数

その会社がこれまでに発行した株式の数です。株式分割などがあると増えていきます。

ファンダメンタルズ分析

「ファンダメンタルズ」とは、経済状況や企業業績・財務など、経済・企業活動の基本的な条件のことです。それらの条件に基づいて株価を分析しようとする考え方をファンダメンタルズ分析といいます。

ポートフォリオ

たとえば、現金、預金、株式をそれぞれ3分の1ずつ持っている、など資産の組み合わせのことをいいます。

また、株の銘柄を複数もつ場合の組み合わせのことを指していることもあります。

ボックス圏

株価がある一定の範囲を行ったり来たりしていることです。

ま行

前受け制度・前受け金

株を買うには、あらかじめ証券会社の口座に入金してある必要があります。口座に入金してある資金の範囲内で買い注文を出すことができます。この仕組みを前受け制度といい、預けるお金を前受け金と呼びます。

ミニ株

単元未満の株数で取引が出来るしくみのひとつです。単元株数の10分の1単位での取引

が可能となります。ただし、指し値注文が出来ないことや株主としての権利に制限があります。プチ株・S株との大きな違いは、ミニ株の名義は証券会社でプチ株・S株の名義は購入者だということです。

銘柄

株式市場で取引の対象となる（上場している）株の名称です。

や行

約定

証券会社に注文した売買が成立すること。成り行き注文の場合はほとんど約定しますが、指し値注文の場合は約定しないこともあります。

ら行

利食い

値上がりした株を売り、利益を確定することです。

リスクとリターン

投資は将来の利益を期待して自己資金を投じることですが、その期待通りの利益が得られない危険性を「リスク」といいます。実際に得られる利益を「リターン」といいます。

ローソク足

日本で最もよく利用されているチャートです。一定期間の始値、終値、高値、安値、値動きの幅をまとめて表すことができます。

本書の一部または全部を個人で使用するほかは、著作権上、●●●承諾を得ずに無断で複製、複製、転載、データ化、テープ化することは禁じられています。

当講座のテキスト及び CD-ROM や DVD 等の副教材を使用して、もし障害や不利益が発生しても、間接的、直接的に関わらず、一切の責任を負いかねることをご了承ください。

当講座のテキスト及び CD-ROM や DVD 等の副教材は著作権法によって保護されています。これらの使用権はこれらの著作権者が示す使用条件に合意したのに対して許諾されるものとします。

教材 CD-ROM に含まれるプログラム及びデータの一部には、お使いのマシン環境によって正常に動作しないものがあります。あらかじめご了承ください。